氣雨而不霧

なる程にぶつかけの驟雨來る事少からぎ然るに茲に又奇なることゝ倫敦の雨の長く續かざると水量の少おきとの二事なり日本にては東京其他概して盆を覆へすが如き水量の多き雨の五六時間も降り續くことゝ珍しからぎ左なるに彼地にてゝ此の如き雨ゝ絶無とも云ふべき程にて一寸降り來るかと、思へば忽ち止み始終曇りがちにてポツ〳〵と小粒ゝ落ながらも水を撒くが如くゝ降り來らぎ左れば手代伴頭抔若者ゝ蝙蝠傘を持たぬ者すら甚だ多し若し途上にて傘なくしてゝ行かれぬ程の雨に逢へば一寸家の入口其地の蔭に立寄りて之を避け居るときゝ遠からぎして霽れ行くなり是亦奇と云ふべし

春秋冬の三期に於て倫敦にて最も厭なる心地するゝ東風なり蓋し此風ゝ北のかた遙かに魯西亞日耳曼の氷雪の上を捲き來るが故にや其寒き事非常なり是を以て英國にてゝ通例東風と云へば病人抔には最も宜しからざるもの・如く聞ふなり日本支那抔にて東風とさへ云へば何となく和らぎて長閑に而白き者の樣に想ゝる、習慣とゝ大變の相違なり亦た風土の殊なる所を見るべし

前記する如く公園或ゝ牧地の如きゝ冬期と雖ども亦青色の草を見るに是に引替へ樹木は概して皆其葉を落さゞる者少なし日本にて常盤木と云へる杉、檜なんどの如く緑葉を帶びたる儘冬を過ごすものゝ甚だ稀なり通例庭園又ゝ公園抔に植へたる樹木も春夏に茂榮し秋冬に落葉するを通例とす是れ一ゝ春夏の暖かき時にゝ蔭を愛し秋冬にゝ日光を愛するより自然斯の如き常盤木のなき有樣となりし者なる歟要するに英國にてゝ常盤木の生長都べて非常に遲きが故に寧ろ生長速やき他の樹木の方を愛し植るなり又た間々松抔の類を植へある處もあれども日本なぎの如く喬木に生長し居る者ゝ少し但し伊太利の如き暖國にてゝ松の大なる者をも多く見かけたり

前記する如く倫敦にては冬分ゝドロリとせる曇天の上に霧さへ立籠る事

多くの之に加ふるに百万戸の家が軒別部屋〳〵にて煖炉を焚く其の石炭の烟が幾百万の烟突より立升ることとなれば積り積もる烟は四方に飛散することと能はざして多くは其近所の樹木の枝幹に附着し從て市中及び公園抔の樹木は皆黑色にクスボリ居らざる者おし左れば其葉の黃べみ落ちて枝幹の全く露はる秋冬の際は宛然一幅の墨畫の山水を見るが如き心地すと云ひし人ありしが實に能く形容したりと云ふべし

是の故に秋冬六七ヶ月の間は殆ど緑葉を着け居る樹木は絶て見ること能はざと云ふも可なる始末にして三四月頃に至り青き嫩葉のポツ〳〵と黑く燻ぼれる樹身より一ト際色立て芽出しかくるを見るときは實に得言はれぬ愉快の心地するなり

○問　嘗て承りしが彼地新聞紙の上に付倘は日本と異ありし箇條はなきや如何

○答　英國にては一事一物幾んど皆な其專門の雜誌なきものはなし例へば慰みの事柄のみを記載して發行する遊樂新聞あり又た自轉車なれば自轉車の事のみ記載する自轉車雜誌あり其他遊獵川漁に至る迄皆なそれ〳〵の雜誌ある程の事なれば翻して重もなる藝術事業に至ては皆なそれぞれの雜誌なき者あらず但た茲に一種の奇異なる雜誌ありてマットリモニアル、ニウスと名づく右は縁談新聞とも譯すべきか一切世間の縁談の口入れを記載せる新聞にて餘り可笑しき新聞なるがゆへに余輩も其見本として一枚を携へ歸れり右の新聞を一讀すれば實に抱腹すべき事少なからず先づ第一面に現れ居るは年齢何歳幾許の収入の男ありて此たび年齢若干加何なる女房所望なりと廣告し居るもあり又金持の後家らしく見ゆる者の若き人夫を求むるもあり其中は餘程財産を所有したる者を記載したるも少からず又此新聞に因りて實際便利を達し睦じく婚姻を爲し居り合好き者幾千人以上なりとか其數を記載せるもあり果して左程の効能あるものにや去り乍ら婚姻は人生の大事なれば互ひに其平生を知り居るが上

にも念に念を入れるこそ常なるに斯る新聞の文面のみを便りとして縁を結ぶ者ありとゝ實に廣き世の中と云ふべし尤も通例の人ゝ先づ斯る新聞には攀ふべき理窟もなけれど相應の讀者もある事と見ゆ

是如諸讀一話柄果實事也否

去り乍ら又た時としてゝ大なる間違を惹起す事も少からざる由にて曾て右縁談新聞紙上にて年頃の男子の廣告と年頃の女子の廣告とあり双方共に似合はしき事と思ひ互ひに相投せしかば愈々双方より日を約して見合ひの爲め某の所に出會せり扨て男女とも先方は如何なる人物なりやと且ゝ樂み乍ら顔を合ゝしたるに何ぞ計らん兄と妹にてありければ双方共に仰天して逃出せしと云ふ物語りさへある程なり又右の新聞は定めて艶姻の節世話料として金子申受るやうの事も之れあるべきやに察せらる兎にも角にも先づ面白き新聞と云ふ可し

佛伊等の國々と英國とゝ新聞記者の身上に付き亦た各々相異る場合あり佛伊二國に限らず米にても其他何れの國々よも新聞記者ゝ通例政治家を兼帶する者少なからず文學得意の政治家とか又ゝ法律得意の政治家とか各々其得意とする所ゝ樣々なるも兎に角新聞記者となりて政治家を兼帶せる者多し早く云へば新聞記者たる者ゝ通例政治家の役目を務むる者少なからず佛に在りてはチエーア氏が新聞記者たりしが如きガンベッタ氏がレピュブリックフランセーの記者たりしが如きクレマンソー氏が現に新聞記者たるが如き皆な其証なり又た伊太利に在りても有名なる新聞紙にして其記者たるものが國會議員中の重もなる人物と稱せられざる者ゝ幾んど稀なる程なり又た米國に在りても今の大統領クリーブラント氏と兩三年前雌雄を爭ひたりしベイン氏ゝ亦た新聞記者なり其他西班牙の議員中にて重もなる政治家と稱せらるゝ者ゝ皆な新聞記者にして諾威、瑞典、丁抹等の諸國の如きも粗ぼ同樣の有樣なり是れ蓋し新聞社の爲に云へば然るべき人物を主筆と頼む時ゝ其社の勢力を增すが故に勢ひ然るべき政治家を聘するに因るとなるべく又政治家の方にても之を機關とし我説

可謂不愧社會耳目之稱矣

を世に表白するの機會を得るが故に亦た進で之に當るにも因るなるべく又新聞紙に關係あれば其名を廣むる事も早く隨て政治世界に頭角を露すに便宜なる故にも因るなるべく凡そ是等種々の都合より新聞記者ハ政治家兼帶の者となり來りし事なるべし然るに獨り英國のみハ殆んど其趣を異にし政治家ハ政治家、新聞記者は新聞記者、と全く別々の職業を爲し居れり尤も尋常人にてハ固より新聞の主筆となること出來難き譯なれバ新聞記者の名ハ世にも聞へ相應に珍重もさるゝ傾むきハあれども去れバとて他の國々の加く新聞記者ハ則ち政治家と云ふが如き譯にハ行かぬ何なれバ新聞記者ハ新聞限りの事務家にて政治家とハ先づ緣のなきものと云ふ如き仕方なれバなり是れ英國と他國との其の新聞記者の身上に於ける異同なり

去りながら英國の記者とても隨分社會にハモテル方の者にて又た新聞記者の行狀にハ話柄となる事少くなからずタイムス新聞の前の主筆(二三年前に死去せり)某が尙ほ社務を執れる頃英國の上等社會の貴婦人等が聊か企る事ありて新聞に大鼓を持ち貰ハねば不都合なりとの相談にて則ち盛宴を張りて彼のタイムス記者先生某を招待せり素より計りてのことなれば彼の廿名許の上等の貴婦人等は寄りて集りて周施欵待至らざる所なく右より取持ちたる末偖て此度の企を申入れ貴社新聞にて然るべく助勢を賴み入る旨を述べたるに彼の記者先生ハ太平氣に受合ひ委細承知せりとて其夜ハ別れたりしが其後聞もあく愈よ右の一事紙上に現ハる、事となれり然るに彼記者先生ハ滔々たる筆を以て遠慮會釋もなく此企の筋に違ふ廉々を指摘し散々に非難したりけれバ上等社會に其頃傳て一笑話となりしと云へり

策略反謀於彼亦一笑

○問　新聞社が會議の筆記抔取るにハ如何にするや

○答　英佛の重なる新聞社ハ議院開會の節ハ勿論皆な其社より速記法の筆者を四五名づゝ議院に差出し議院よも亦た別段に是等を生せしむべ

き新聞記者の席を設けあるなり筆者ハ已れ記せる所幾枚か溜まれば早速此を持ちて本社に驅けつけ直ぐさま印刷に付する其間にハ第二の筆者が又た其の記せる所を齎らす等眞に櫛の齒をひく有樣なり左れば是等の筆者ハ其受持時間一人前十五分の交代なりと聞けり各新聞共に斯く筆記を取るが上に又た重もなる新聞社ハ議院に電信を通じ居れり故に議院よりハ今ま某氏が斯く述たりとの事ハ一分間毎に手に取る如く知るゝ也余が佛國のレピユブリック、フランセー新聞社を訪ひし時只今議院より電報通じ居れりとて其有樣を觀せられたる事あり實に便利至極と云ふべし日本抔も議院開會の後ハ我社にも特許を得て是れ位の便利ハ計りたきものと思ふなり又た新聞社のみならず重もなる政黨倶樂部其他の結社抔にハ皆な議院より電信通じ居れりと云へり然れば大低の倶樂部にてさへ今ま議院にハ某氏が何事を饒舌り居れりとか何事の議決ハ何十の多數なりしとか小數なりしとか皆な手に取る如く知れ得るの仕組なり實に便利至極と

迅速且便利

云ふべし是ハ電信のみならず傳話機の用も追々廣まる有樣なれば議院の話しも行く〳〵ハ諸方にて手に取る如く親しく聽くことを得る世の中となるべし十九世紀に生れし人は是れ豈に便利至極に非ずや

○問　日本の守守女が子供を背負ひ居るとて西洋人ハ之と笑へりと云ふ話しを聞きし事ありしが彼地の子守女ハ子供を背負うと一切之れなきやの○答　如何にも子供を背負ひたる者ハ一度も英佛等の諸國にて見掛たるとなし但た前ゞ抱き居るハ段々多く見掛けたり先づ通例ハ中等以下の女房或子守が子供を伴ひ行くにハ車を用ふることにて恰も當歳より四五歳迄の子供を乘すべき小さく手輕く工合出來ある一種の四輪付の車あり子供をば此車に乘せて女房或ハ子守が之を後より推し行くなり近所の公園ゝ赴き或ハ買物抔に赴くにハ皆な此子供車を用ひざる者なし余等も日本にて往々之を見掛け居たれ共是ハ實用より寧ろ翫物なるべしと左して意を留めざりしが則ち大なる誤りにて皆な子供を連行くに實用する者なり

問背負小兒壓胸部成長後有患肺之害彼用之車其衛生之利實不可言

中等以上の家にては早く乳母を雇ひ又は生乳抔にて育てる故にや日本の如く子供を抱へながら身元好き婦人が所々に出行くをば餘り見掛けざる方なりき但し伊太利抔にては乳母が子供を懷き主人と共に外出し居る者少なからぬ嘗て一寸記したる如く其乳母の一種異躰にて美事なるには目を驚かせり例せば中世の衣服かとも覺しきブク〳〵としたる筒袖袴にて其色も冴えたる淺黄抔にて又所々に金モールの總抔をフサ〳〵と垂れ其の戴きたる帽子もまた一種異体なるに同じく金モールの總をつけたる抔中々に四邊を拂ふ計り也斯る風は倫敦抔にては餘り見掛けざるとにて定めて中世の衣服と知られたり是れ蓋し小兒を飾るに未だ年少なるが故に其代りに乳母を飾り立てたる異風の今日迄も存し居るとなるべし伯林抔にても伊太利抔にはあらねども乳母と覺しき者は一種の支度を爲し居るを見掛けたるともあり去りながら多く盛飾せる乳母を見掛けたる事伊太利の如きはあらざりしと覺ゆ

○問　彼地の湯屋の模樣は如何

○答　湯屋にも上中下種々の差はあれ共先づ中等の者より謂べ倫敦抔にては湯屋にも上中下種々の差はあれ共先づ中等の者より謂べ倫敦抔にては湯屋には二枚敷位の一ト部屋〳〵の仕切ありて大なる湯屋には部屋數二三十もあり小なる者には十ばかりなるもあり部屋〳〵は皆狹く仕切り其中に湯氣も立騰る事にて逆上するの憂あるが故に通例其仕切〳〵の上は一休に皆空氣の通樣に透しある事あり偖其一ト部屋の内の有樣を云へば其中一枚敷ばかりに人の丈程の長サにて高二尺四五寸ばかりなる細長き湯坪あり其物質は先づ何か藥をかけテラ〳〵と燒きたる瀬戸物の如き者にて湯に垢抔のつく事少なき樣に拵へあり手障も至て滑かで其色は白し尤も是は湯坪の内面を言ふ者にて其外部は板にて四角に包みある事なり此湯坪の形は上中下の湯屋共に大抵相似たる者なり中等以下の者は部屋の外より此湯坪に通せるチヤの湯口附きありて湯屋の小使が外部より水の方を捻れば水出で湯の方を捻れば湯出で隨意になる樣になしあり故

に部屋の内より温くせよとか熱くせよとか其加減を差圖することなり又上等の部屋に至れば此のチヤ部屋の内につき居り我れゝ湯坪に在り乍ら吾思ふ樣に熱くも温くも勝手に其チヤを廻わして自由に加減をなすことと出來る樣に仕掛たる者多し又少く贅澤なるゝ頭の上に加露の如き口設けあり我ゝ其チヤを捻れバ湯が瀑の如く頭上より打下るなり又ユムの管ありて其管の先に如露の如き口つき居り之を湯口にも水口にも自由に着けて勝手に頭を洗ふ樣になしある者もあり又一ト部屋毎に夫々鏡櫛ブラッシ其他背中を摩る爲めのブラッシ石鹸抔を備へ置きあり但し家に因りて

浴湯料之貴賞一愕

ゝ石鹸丈ゝ別に價を拂ゝねばならぬ處もあり

先づ湯錢ゝ下等にて六片（十二錢五厘内外）なり中等にて六片より一志（二十五錢内外）迄の間なり又上等ゝ種々にて一志より二三志までの者あり去り乍ら先づ通例は一志なれば一ト通りの湯屋と云ふべし左れバ下等生活の人民に取てゝ我東京人などの如く日々湯屋に趣く事ゝ迚も能し難き事にて一二ケ月の内にて一度入るか入らぬ位の事なるべし又中等の人ゝ各々其家よ浴室を持居れども夫れすらも日本人の如く頻りにゝ浴せざる方なり是其時候の熱する時節少なきにも由るなるべけれども又た一にゝ家内の部屋〳〵の便利よきが故なるべし余等の如きブセフ者にても彼地に在ときゝ毎朝其部屋の中に備へある顔洗鉢にて毎朝〳〵全體を水或ゝ湯にて拭清め然る後に衣服を着けたりしことあり是己の寢部屋に他人の勝手に立入り難く又他人に見透かさるゝの憂もなく部屋の中ゝ恰も人々の一城廓の如く之に加ふるに其部屋内にゝ水鉢顔洗鉢始め一通り手拭まで夫々綺麗に整へあるが故に何人も通例は毎朝起ると直に遠慮なく其全身を拭清め然る後其服を着ることなり且其服も日本の服の如く藍などの身につくべき憂なきが上に總て清潔ある白の下着を用ふる事なれバ身体の汚るゝことも少きことなり余等の如きも彼地にあれば日本に在る時の如く屢々浴せしとも濟し事なり

以浴湯之多少論之或亦廉乎

西洋諸國にてハ人の肌膚を露ハすことハ一寸にても非常なる恥辱の如くなり居れり斯く行儀正しきが故に其部屋と云ひ湯屋と云ひ全體を拭清めるに決して他人に見られざる樣に拵へあることなり左れば暫時の間ながら彼地の風俗の中に在りて日本に歸り來り會々浴室に導かれてナガシ抔と唱へ下男が裸体にて出で來り此方も亦裸体にて垢を流し貰ふなどハ何か變なる心持もしたりし因て察するに外國人あどの目にて我國の浴室の有樣を見なバさぞ打驚くことあるべし左り乍ら倫敦の如きも以前ハ皆入込なりし者の由なりしに政府より規則を出し遂に今日の如くなりしと云へバ唯だ彼國ハ我國より少し捗取り早きのみにて其初めハ畧相似たる者なりしなり

内地雜居期在于近矣
今而不矯正此弊風爲外人所賤視實幾許

英國にては餘り其類なけれども佛國にてはフリクションと稱へ別に價を拂へバ垢摩の小使ありて垢を落し呉るゝこと稍や日本の風と相似たり左れバ日本のナガシと謂へる者も亦一種の贅澤法と云ふべし

國々に因てハ湯屋に髪床の附き居る者鮮なからぢ右ハ甚だ便利なる仕組なり

英國の湯屋には湯浴場の外に水浴場を設けある處も甚だ鮮なからぢ此水浴場ハ奇麗なる石或ハ燒物煉瓦等にて造りたる大なる池とも云ふべき者にて其廣さハ十五間乃至二十間四方の者も少なからぢ是に清水を湛へ其深さも殆ど人の丈程なり夏分ハ青年の若者抔ハ此水浴場を泳ぎの稽古場どなして樂み慰む事なり左れバ此水浴場ハ無論入込なり然れども裸体ながらも各々其腰部を確と包まし むべき腰布備へあり入浴者ハ之を纏ふて這入るなり又場所に由てハ此地の清水常に新陳交代するの仕掛ある者あり

右の水浴場ハ男子のみならず婦人の爲めにも之を設けある者あり其場所ハ婦人のみの專有に屬し男子ハ無論立入ることも出きぢ

○問　バノラマと稱する一種の展畫之れある由承知せり是ハ何樣の趣の

ものにや

○答　パノラマハ先づ日本のノゲキ又はカラクリと申す處にて其大体ハ廣き場中を圓く仕切り其圓きなりに何處を繼目と分らぬ樣に大なる繪書を以て建て廻しあり見物人ハ其中央にありて之れを周覽することなり其見物人の周覽すべき場所と繪との間ハ勾欄を以て繪と平行線に仕切りあり早く云ハゞ蛇ノ眼を描きたるが如し中央の白き處ハ見物人の立つ場所にて黑環の外邊ハ卽ち繪の建て廻しある處なり而して其黑環の環ハ見物人と繪とを隔てある空間なり此のパノラマの繪ハ或ハ山水或ハ都邑等樣々あれども大抵自國勝利の戰爭を繪きたるが多きに居れり則ち伯林にて名高きはセダン(普佛大戰爭の時那破翁三世が計竭きて遂に降を乞ひたる所の地)戰爭圖のパノラマなるの類なり此のパノラマに就て目を瞰かすハ其繪き方如何よも眞に迫り例へバ一とつの草叢を繪きあるに半分ハ繪にて其半分ハ繪と續けて眞物の草を蔬へあるなれども何處までが眞物にして何處までが繪なるや見界つかぬ又た兵卒の打棄てたる破れ帽子空丸等繪中にもあれば其前に眞物も散亂させあれども是亦た覩まがふ計りなり繪の高さハ其大小により不同なれども通例先づ三四間内外ハあるべし而して中央の見物人の場處ハ凡そ一間許りも繪の裾より高く築き上げあり其間ハナダラになり居りて道なり草叢なり其他土石花木一切の景色都て前面の繪と續けて眞物を以て拵らへあり則ち是に由りて見物人の眼を迷ハせ孰れか繪孰れが眞物なるを想ひまどわさしむるの趣向なり流石ハ何事何物にも理學の入込み居る世界だけに顏料の使ひ方さへ斯く進み

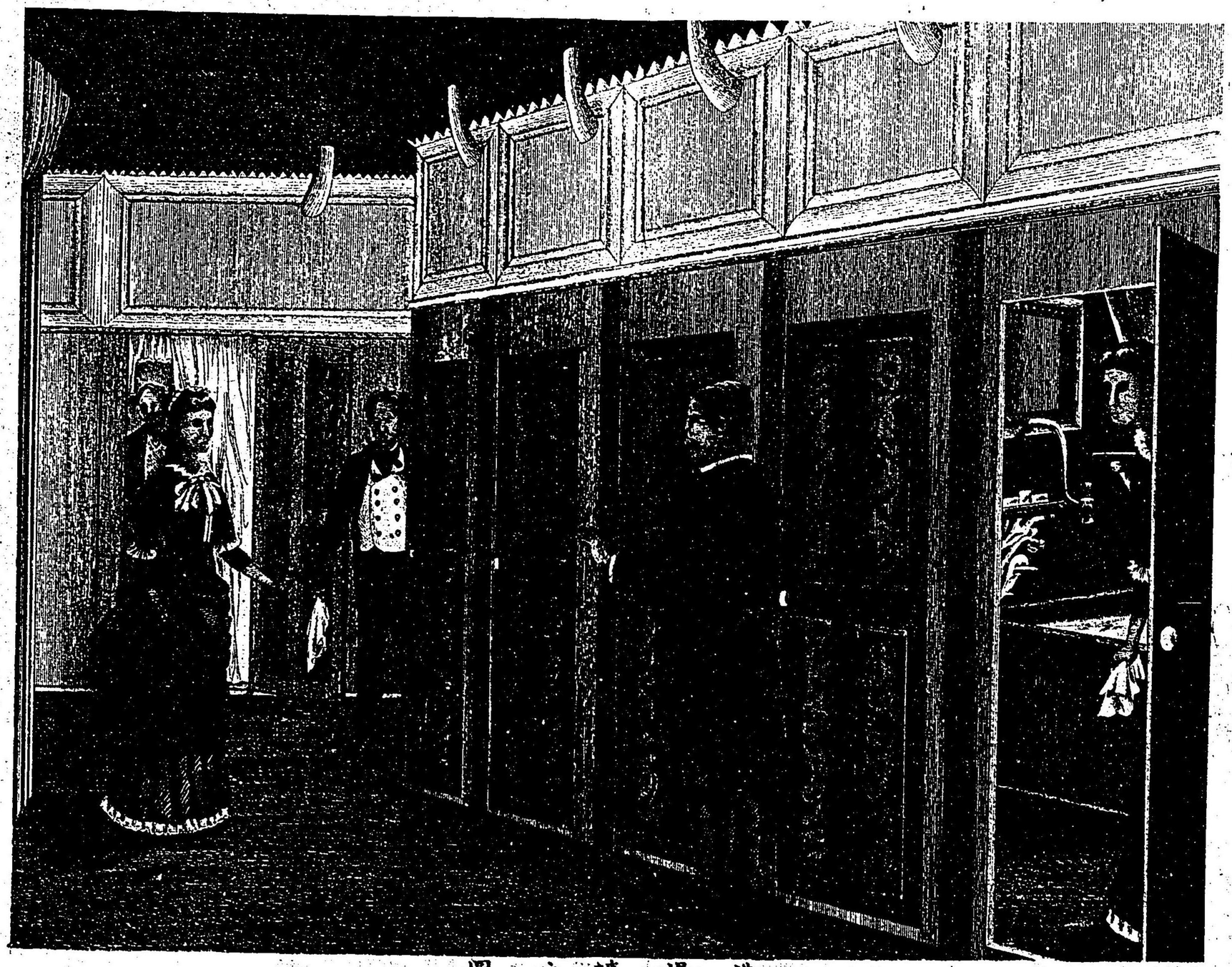
一小遊戲猶以理學文明之証可知也

て咫尺の中に居り乍ら繪と眞物とを視まがふ程にあらしむるハ感心の次第なり顏料乃次に人の眼を迷ハす元素ハ其遠近の釣合の如何にも巧みなる事なり例へバ前面ハ一望の青海原にて山影模糊として大船巨船ハすにも盈たぬ計りに見ゆる遠景なる處へ最近の濱邊に一幹の喬木を無遠慮に高く太く繪きあり其枝々の葉ハ歷々數ふべき程に分明なり此の釣合に由

りて前面の遠景ハ眞に千里際なきが如くに想はるゝなり又第三に人の眼を迷ハす本は其光線のとり方の甚だ巧みなる事なり見物人の頭の上ハ一面に圓き青幕の天井を以て蓋ひあり此の青幕ハ畫の際より幾尺か手前にて絶れ居り此の間より光線を容るゝ趣向あり而て其天井の端ハ亦畫の頂きよりも幾尺か幾寸か下げありて見物人の眼には畫は何處にて盡てたるやを知らざらしむ斯く前面を望めバ望む程明かるき事ハ愈々明るくして且り盡てしなき遠に見ゆるが故見物人ハ自然眞景を視る心地する管の譯あり何となれば若し此の天井にして何か別段の形あり別段の色ある者あらしめ又た是と畫との界判然と分明になり居らしめバ其比較にて忽ち其畫たること暴露すべけれバなり

用意尤密

バノラマ館の内には右の大畫の外に又た幾多の小畫を觀する樣なしあるが多し是ハ一ト切宛の平畫にて壁畫を觀ると同樣なり亦た鏡のなきカラクリを觀ると同樣なり又たバノラマと通稱するハ多く右の圓く建廻はし



洗湯場之圖

たる大書を云ふことなれども其中にハ眞に日本のノヅキ同樣幾個の平書を鏡にてノヅキ觀する樣にせる分もあり

巴里伯林等至る所一都府中にハ必ず幾個かのパノラマ館あるが通例なる倫敦にてハ割合に至て希れなり如何なる故にや相分らざれども或ハ倫敦ハ仕事所にて游び所に非るが故斯く不風流なるなりと云へる說もあり

パノラマの大書ハ同じ書中にても亦た別淚のものよて猶ほ日本の舞臺書割の如く其乃專門家に非ざれバ尋常畫工にハ出來難き由なり左もあるべしと思ハる

○問　彼地競馬の有樣ハ如何

○答　英國人が非常に競爭を好み或ハ舟、或ハ馬、其他球拋、クリケット、等の競爭會を開く事ハ殆んど絕へ間なき程の事なるが競馬にて英國第一の大賭はダルヒーレースと稱なへイフツムと云へる處に一年一度催はす者を

以て第一等とす同處ハ倫敦より滊車にて一時間内外の距離也又其時節ハ毎年六月上旬乃頃なりと覺ゆ英國の五六月ハ恰も日本の三四月の時節にて郊外に遊歩するにハ最上の好時節なり然れば特に此時節を擇みたる者と見ゆ先づ右の競馬所の地形より云ハゞ英國の他の部分と同じく渺々たる原野にして唯だ處々に丘岡の陵夷起伏せるあるのみにて先づ一面ヨ平地と云ふも可なり

偖其競馬所の周圍の廣袤ハ凡そ三四里四方もあるべく全体に芝原の如く細やかなる嫩草生茂りて僅か種々の樹木の其間に散點せるあるのみなり此廣野の中に一二里の長さなる環き線を畫き此環線を以て競馬の馬道となしたる者にて見物人の馬道に亂入せざる樣内外両側に手摺樣の者を設けあり而して其手摺より内の空地ハ見物人の遊び場にて種々樣々の見せ物テントなどを張りて店を連ね實に賑やかなること夥し其環線の外側の一部分にハ一の大なる建物ありて此處にハ競馬の節皇族貴族抔の棧敷をとる者とし其建物の左右に傍ふて見物人に貸し渡す爲に數百間棧敷をかけ渡しあり棧敷の休ハ下より上まで段々に腰掛る樣に階級を造り其數凡そ二三十段もあるべしと覺ゆ此大競馬ハ四五日打續くことにて其間毎日〳〵見物人ハ右の棧敷ハ勿論其他馬道の外側に傍てヒシ〳〵と込合ひ居れり通例の處にて一人前の棧敷代ハ一圓内外なりしと覺ゆ尤も其處によりて種々の高下ハあるべし又此棧敷と馬道との間の空地にハ賭札を賣者充滿し其組合の符調と馬の名前等を番附にし賭札を見物人に賣附けることなり其法ハ見物人惣休と賣人一人との勝負の者もあり其他の仕組もあり又見物人同士の賭もあるべくなか〳〵に混雜おびただしなり又貴族金滿家抔の豪奢を競ふ連中ハ幾十万両も賭け物にする加き馬鹿者もあれバ今日は何百万両の人の出逢ふ日なりとて平人ハ物語る事なり又此賭に行けバ裸休で歸ると云ふ諺のある程の事なり

英人不獨好競爭亦好賭如斯

余等の見たる中にて此の環線の全長を競馬の駈たることハ僅か一二回に

て其他ハ皆環線の三分の二或ハ四分の二位の所にて勝負となしたる又馬を數匹揃へて一聲の合圖に駈出そ事ハ甚だ少なし馬も豫ねて競爭のことを知り居ると見ゆ逸りに逸りきりて馬を揃へて未だ合圖も懸けぬ中出しぬけに先に飛出すを留めんとして止め能ハそ其儘に駈出す者あり又既に一匹の馬が斯く飛出すを見る時ハ他の馬も堪り兼て二三匹ハ乘主の制するをも顧みそ彼に伴ふて飛出そもあり然れバ多くの馬ゞ鼻を揃へて一齊に飛出すハ甚だ稀なる程に難き事と見ゆ定めて此等の事ハ日本の競馬も同樣なるべし余等の如く何れの馬の勝敗をも唯た冷眼に眺め居る者の身にハ何の興もなく肝腎の競馬よりも他の色々の見せ物慰み物が競馬所を廻つて興行せる者の方を面白しと覺る程の事あり

此日ハ賭をおして意外に儲をなして歸るもあり又巨大の損失を蒙る者もある中なれば其人氣も荒く從つてスリ騙の類甚だ夥し余等が競馬所より倫敦に歸る混雜の滊車の中にて例の三枚骨牌（三枚の骨牌を伏置き某の

馬猶然兄人乎

姉黠之徒彼亦有焉天下何處無校兒嗟々

骨牌ハ孰なりと暗射して勝負をなそ者なり是の術にて旅人行客抔を欺く奸徒ハ至て多き事にて餘程の田舍者に非れバ乘らぬなり）の仲間に出逢ふたることあり然れども其節ハ誰も引懸けらるゝ者あかりしハ勿論流石不愛想の英人なれバ之を見向く者さへなく其儘に彼の仲間ハ出て行きたりよく聞き合すに此日ハ往復の滊車中などにてハ種々の事も出來そる樣子なり

又倫敦より此競馬見物に趣く者ハ滊車を用ゐそ一種別仕立の馬車にて往く者多し定めて此ハ滊車抔の始まらざる以前に倫敦より乘人の出懸けたる頃の有樣を今日まで存じ居る者と見ゆ其馬車も通例の馬車とハ違ひ倫敦にて田舍行に用ゐる大なる長馬車なり之に大勢乘込みて日傘をさし喇叭など吹鳴らして威勢よく馳することとなり其喇叭ハ多くは厚紙抔にて製したる者にて競馬所の近處の露店なんどにて之を賣り居れり恰も日本の開帳の時厚紙抔にて可笑なる面を造り或は喇叭抔造りて此を見物人に賣

ると善く相似たる有樣あり歸途にハ男女共多く此喇叭を買ひ之を車中にて吹鳴らしつゝ復び威勢よく返ることあり最も中にハ眞の喇叭あるやも知れざれども先づ見かけたる所にてハ此の如し田舍路を丈夫なる大馬車にて往來することなれば大抵車中の人ハ砂塵にて其肩の邊眞白に見ゆるも鮮からぬ左うながら何か勇まし氣に思ハる丶者あり瀛車のなき時代こそ兎も角も今日ハ一時間經つか經たぬに通ふ鐵道のある者を矢張以前の如き大馬車を仕立て丶競馬に趣くなんどハ誠に面白き人情なり英國の競馬ハ恰も日本の祭禮と云ふべき樣子あり彼地の人ハ全体の職務に勉强することも日本人より劇しき代りに又種々なる慰み物を設け餘念なく心を樂ましむることも日本人より劇しきが如し

○問　其のタルヒーレースと稱する大競馬の時其近邊の賑やかさの模樣ハ如何

○答　前ゑ記する如く競馬所の周圍のみならず其近邊の野原一体に種々樣々の觀せ物愚み物あり其中にて日本の開帳などの時に之れなき種類なる者もあり又同樣なる者もあり今ま彼地の人の如何なる慰みをなすやを下に畧記すべし

第一にヲムチ氷水とも名づくべき種類の店澤山なり又慰み物の中にハ獸獵の眞似事ありて其仕方ハ見物人の所より十四五間隔て丶一本の柱を立て其上に長さ二三間なる十文字の棒を置き其棒の四隅に人造の鳥をつけ鳥の背にガラスの空球を結びつけあり其持主が繩を引く時ハ柱の上なる十文字の棒ハきり〳〵と廻ハり睹て其端に附きたる鳥ハ恰も自ら翔けるが如くに其柱の周圍を飛び廻ハるを見物人ハ此方より狙ひ射ることなり若し射中つれバ鳥背のガラス球ピンと碎け落つるなり日本を出しより久しく銃を手にせざりしかバ餘り左右に人のなき折を幸ひ一發之を試みたりしに其裝藥の强きよハ驚きたり殆んど是が爲に肩を突き仰けらるゝ程の恐地したり蓋し彼地の人ハ全体に强藥を擊つ者と見へ斯る慰の射的にさ

へ此の如き强藥を裝むるゝ驚くべきことなり又此外に恰も日本の室内射的場の如く小銃にて遠方の棒に垂下げあるガラス德利を擊たしむる處あり此れも見物人の手元より十間ばかり隔て大なる柱を立て此に長二間計の棹を横一文字に五ツ六ツも段々に結びつけ其一ツの棒毎にビールの空德利の二十ばかりも垂下げあり斯く棹毎に二十宛もある事なれば其數ゝ至て夥しく一寸眺むればビール德利が竹棹になりたる如き有樣なり此ビール德利を目懸け射擊することよて銃丸の中たる時ゝ美事に其の空德利を立割りてホロリ〳〵と落とすことなれば詰らぬことながら甚だ面白く見ゆるなり又此外に多き者ゝ拋球なり其法ゝ十間ばかり隔て、杭の上に木丸を載せ置き之を此方より球を投て擊落す事なり是ゝ最も容易き者と見えて處々此設あり其他三四間隔て、可笑なる人形を造り置き此方より木の丸にて其人形を敲き壞し擊落す樣な仕懸にて先年日本にて行ゝれし玉を打落す趣向の元祖なるべしと思はる又此外に弓の慰みもあり是も見物人の手元より十間内外の所に一坪ばかりなる大的を置き此方よりして射中ることとなり其弓ゝ一種の弓にて大さゝ殆ど日本の弓程なり但し少し短き樣に思ゝれたり矢も畧等しきなれども竹にあらずして木なりと覺ゆ去りながら其の餘り重に過ぎず輕に過ぎざる工合如何にも竹同樣に善く出來居れり其群衆どもが我れこそ命中せんと競ふて的を射る景色を見るに恰も日本人が楊弓を射る如く右の眼に右の手を着け狙ひ居る者多し左れば一本迚も十分の力を得て的迄直行し得る矢ゝ少なし多くゝ其前にて墜が故に之を避けんため又た度をかけて射るを以て其矢ゝヒユウと虹覽形に飛行く者のみなり餘り可笑さよ堪えざりければ詮なき事とゝ思ひしかども其所に立寄りて二ヶ手三手射たりしに幸ひにして三四本ゝ彼大的に容易く中りたれば傍の者共より頻りに感賞せられたるゝ我ながら可笑く覺え其儘其所を立去りしが長居せば不熟練の尾の露ゝれんことを恐れてなり昔し英人ゝ非常に弓術に巧なりし者にて大陸諸國の兵と戰ふ時常に

西滸生亦那須與一之亞流乎

弓を以て敵を敗りし程の名手多かりしなり故よ英國の弓ハ長さも稍や日本の弓に近かく他の西洋諸國の弓よりハ大なりしを用ゐたるあり左れバ其以前ハ那須與一に比しき手鍛練も彼國にハ多かりしなるべきに理科の學開け極めて微力なる者も能く數百歩の遠きに鐵塊を飛バせて敵を殪すの社會となりしより舊來の長技を失ひ今日にてハ慰みに的を射るさへ不器用千萬なる者のみとなりし世の變遷も亦甚しきにあらぜや

社會者是活物也與年變遷何奇異之有

嘗て此大競馬に趣きし時思はぬ慈悲をなしたることありき前に記したる杭の上に木丸を載せて之を撃落さしめて金を取るの仕組をなす者ハ概ね極て貧賤にて且つ十五六の子供の之を興行し居る者多し然るに己等の商賣上の爭より事起りけるにや十五六の子供兩人攫合を始め互に顔とも云ハぜ頭とも云ハぜ突合組合名々面部に大疵を負ひ血まぶれとなりて喧嘩せしが遂に一方は撃縮られて其處に悶絶せしに一方ハ尚ほも容赦なく打擲する有樣なり先刻より群集して眺め居る見物人の中より今にも兩人を引別るかと思居たるに一人も進み出づる者なく唯面白氣に眺め居る者のみなれバ餘り一方の殘酷を見るに忍ぜ其邊に歩み寄りて懐中より二三志の金を取出し是を一方の勝たる者に與へ余が此金を與るが故に汝等の爭ひを止むべし若し余が命を用ゐぜんバ巡査を連れ來るべしと言ひしにて其爭は辛じて息たりしが余等の爭を止むると問もなく群衆中より一二の老人の身元よく見ゆる人々出來りて余等と共に其爭を止めたることなりしが既に其時一方ハ半死半生の体なりき其後ハ如何ありしや余等も打棄て、歸路に着きたりし

一人之仁恤能感數人者乎

○問　伊太利に御越しよて風俗始め其他英國と相違ある箇條ハ意外の者なりや

○答　先づ人種より総ての事よ至るまで英國と異る者の眼に觸るゝ事多き中に日常の細事より云ハゞ先づパンの形抔の違ひ居る事第一に目に留まれり尤も伊國にても英國風佛國風のパンも之ある事なれども通例多く黄

卓に現れるゝ特に伊國に限りたる一種のパンあり其形ハ小指或ハ食指位の大さにて長さ一尺バかりの棒の加くなしある者にして之を五六本一把となし英佛等にて通常のパンを置く加く客の左方又持來り置く事なり此異体なるパンの樣ハ甚だ珍らしく覺へたり英人佛人等と談話して言伊國の事に及ぶときハ直ちに此のパンの事を語り出たること多し然れバ右ハ余等のみにあらず英佛の人なども珍らしき事と見ゆ此小枝の加きパンをバク〳〵と少し宛食らふ事なり又其次にハ伊國製の葡萄酒を盛りたる德利の甚だ異体なることなり其形ハ恰も日本の一輪挿なる花瓶の底の方丸く口の方細長く直立せる者と畧ぼ相似たる姿にして但だ其物質ハ勿論ガラスにて之を造れり其ガラスハ極めて薄手のものにして碎れ易きが故にや藁の類を以て奇麗に此德利の口より以下の全身を卷き掩ひ德利の底には其の倒れざる樣同じく藁にて圓座の加き者を造り添へり其の全身を藁にて卷き立てたる体ハ恰も薩摩の泡盛德利の加く甚だ古雅に見ゆる

者にして加何にも英佛抔にてハ斯る古風なる德利をバ見懸る事ハ出來ざるなり右の德利の大さハ二三合入りの者と見ゆ又た其の他食料より云ハゞ同國にてハ彼のマカロニーと稱ふる一種の素麺（溫飩と云ふも可なるべし）の夥しき一事なり此のマカロニーハ恰も日本の溫飩素麺と同樣なる姿にて又物質さへ同樣なる加く見ゆ但し其風味に至てハ日本の溫飩素麺よりハ少しく味の濃かなるかと覺ゆ蓋し此にハ溫飩粉の外に何か一種の交せ物にてもあるやと思はる通例他の諸國の料理にて時々用る所のマカロニーハ重もに伊國より輸入せる者なり則ち伊國ハ其本家だけありて其國人の此素麺を嗜むこと非常なるにハ驚きたり朝晩の食卓又此マカロニーの出で來らざる事は少き程にて初めの中こそ珍らしく賞翫したれ後々ハ少しく難澁する計りに頻々現はれ出來れり右のマカロニーの太さ者に至てハ恰も日本の溫飩の大さにて唯だ其異なる所ハ管の加く中心にハ穴の明き居る一事なり又素麺の加く穴無くして線の細かき者もあり實

色赤色等の色を着けある者もあり伊國の小都邑を通行する時ハ此の種々のマカロニーの澤山店頭に並べあるを見ることなり同國より之を輸出する額ハ實に夥しき者にて一昨年伊國にコレラ病の流行せし時英佛諸國にて此のマカロニーハ伊國よりコレラを持込の種子なりとて其注文を減少したる爲め伊國の製造者仲間ハ大なる響を蒙りたりとの評判さへありし程の事なり此外飲食の上にての行儀ハ都べて皆な英佛抔と畧々同樣にて著しき相違の所も見ざれども唯だ其料理ハ全体に粘厚き方にて何品に限らず油濃き者多く又其の油を用ゐる事も非常に多き樣なり同國にハ多く橄欖樹を植付け橄欖油を一の産物とおすことなれバ從て其油を多く用る事なりと云へり英國に比それバ佛國の料理ハ概して重くれたる旨味多き方なるが伊國の料理ハ佛國を超へて更らに尙一層重くれて油强しと云ふべし全体に其味濃かにして油强き方より順序を立れバ伊國の料理ハ第一とし其次ハ佛國其次は曼國其次ハ英國なりと云ふべし又淡泊にして油少

我國近年患同病者多矣其有影響商業亦隨而大也

なき方より云ハヾ此順序を逆まにして英國を第一と爲すも可なり尤も何れの國々も重なる料理屋は佛國を學ぶ事にて其料理人小使さへも出稼の佛人を雇ひ入るゝ者多けれども右ハ全体に其國の料理を區別したる者と知るべし

○問　伊太利の衣服家屋等に付異ハりたる風俗を承ハり度し

○答　衣服などの有樣より云ハヾ伊國の首府なる羅馬或ハ是に次べきフローレンスなどハ格別なれども其の小都府に至れバ衣服の風の甚だ面白き者多し先づ第一旅客の目に留まるハ日本にて坊主合羽或ハ廻合羽とも名くべき合羽の裙ハ足の踵にも屆く程の長き者を着け右の腕を合羽の外の合せ目の處より出し其右なる長き裙をばパタリと左の肩に打掛け居る事恰も袈裟を斜に掛けたるごとし則ち左のかたハ合羽の形まゝにて一面に垂れて踵に至り右の方ハ右の腕を露ハし之を斜に胸より左の肩に纏ひ居れり然して其頭に戴きたるハ緣の廣くして軟やかなる高き帽子の上を

一の字形に中に折込みたるものなり(明治七八年頃まで日本にて少し流行せり必ず讀者ハ記臆せらるべし)此の帽子を少し斜に打冠ふり彼の長き廻合羽を袈裟掛けにし細長き卷烟草をくゆらしつゝカフヒー店の門口の柱に斜に立居るハ是れ伊國田舍の若者の一寸意氣なる所と云ふべし余輩の眼より見れバ恰も中世の歐羅巴に至りし心地して當時の歴史上の事ども

假使此人注油於九段靖國之燈籠當顯一亦種明治忠盛

を思ひ出さしむるの種となる者なり又西班牙抔も右の長き廻合羽と畧同じき者を着け居る由なれバ是の裝束ハ一体に其昔羅甸人種の國々に行ハれたりし遺俗なりと見も伊國の卷烟草ハ其丸さハ英佛諸國のよりも甚だ細やかにて長きことハ殆ど此に倍せり而して卷烟草の口元より中心に極小なる管の如き者を刺しあり是を援きて吸ふ樣に爲したり全体に同國の烟草ハ甚だ強く辛き方の樣に覺ゆ

伊太利の諸小都府ハ殆ど日耳曼の諸小都府と同樣にて衣服帽子の有樣も種々樣々也丸帽子を冠り居る者あり高帽子を冠り居る者もあり誠に不極の有樣なり又羅馬の如き首府を以て云ハゞ高帽子を冠り居る者ハ先づ身元ある人のみにて通例ハ種々の低き丸帽子と戴き居る者多し又倫敦などにてマンチル及びチョッキハ黑の色揃にてズボンのみ縞物を着け居るが通例にして先づ縞羅紗などハ田舍行きか或ハ極打解けたる時かのみの外之を着ることなきに羅馬などにてハ縞羅紗の服を着けて往來し居る者も澤山に見懸けたり又人種上より云ハゞ恰も英國に茶色の毛多く黑色の毛少なき割合程佛國には黑色の毛ある者澤山にて赤茶色の毛ハ先づ少なき方なり倫敦などにて黑髮の日本人抔の背影を眺むれバ著しく目立つ事なるが羅馬等にてハ黑色の毛ある人多きが故に日本人抔も左まで目立たざる樣の心地せり又其面貌を云ハゞ佛國人ハ日本人などの風韻にハ極く適する方にて英人に比すれば佛人の顔ハキュッと引締りて意氣なる方なるが佛人に比すれバ伊人の方ハ尙一層引締りて意氣に見ゆる者多し又其顔色ハ淡紅の者(英人の如し)鮮なく寧ろダゞ白き方なり

又家屋の有樣ハ一体に諸都府共に英佛二國に比すれバ古びたる方にて其建築の模樣体裁ハ先づ似寄りたる者なり唯だ英佛諸都府ハ中古の建築風より漸々に進歩して種々の材料物質を煉瓦に造り又た遠方のものをも隨意に運送し得る今日の事なれバ昔しハ木材を用ゐし所にも今日ハ鉄或ハ石を用ゐると云ふ傾きにて万事輕便に趣くと云へる勢なるに伊國の諸都府に至り見ればそれ迄にハ進歩し得ぜして是ハ尙ほ中古の建築風をあし居る者なりと思ハしむるの有樣あり例へバ屋根瓦の如きも尙石瓦を用ゐぜして多く赤色の燒瓦の粗末なるを用ゐ且つ其屋根の勾排格好まで依然中古の畫圖を見る如き心地せしむる事多し又中古の建物の其儘ま存した

開運輸之便是建進化之基也

る町々は其家の壁などの馬鹿げて厚く丈夫なること實に人を驚かす程の事あり今日にてハ不要の處に下手念を入れて無用に物質を費やし使ふ事をバ爲さぜ諸事萬端唯だ其の入用なる處までに限りて切り詰め煎じ詰めて都てキヨウに賢く出來するに昔し物ハ昔し物程無駄念を入れ無用の塲所に材料物質を費やしゐるハ何れの國も同樣にて則ち伊太利の諸都府にてハ是に類する事共を夥しく其の建築上に見かけたり又昔しハ其府内の市塲に用ゐたりし者と見え小都府の中にハ必ぜ一二ヶ所大なる廣小路の如き空地あり處に因りてハ現に猶ほ府民が茲に集り色々の市を立て居るをも見受けたり又其の府内の諸街路ハ概して狹隘なるが上例の如く悉く石壘になしあり故ま車にて馳する度毎に甚だ困却する事なり伊國の諸都府にて用ゐる定時馬車乘合馬車等ハ先づ通例佛國と同樣なり

○問　英國にてハ日本にて稱する鳥屋の類之れありや

○答　鳥類を賣る店ハ鳥類專門の者もあり然れども通例ハ魚屋と鳥屋と兼帶なる店多し店の通例の處ま魚を並らべ置らて其上の方に鳥をブラ下げある者を通例とす

○問　鳥の種類ハ如何

○答　第一に多き者ハ鷄第二ハ鴨第三ハ家雁(畜ひ立たる雁日本にハなし)

のるゐなり右の諸鳥ハ何れも日本の物と同じことながら雞などの如きハ大抵日本の者よりも幾分か大あるも方多く先づ軍雞と尋常の鷄との合の子位に見ゆ一羽の價ハ通例二三志の間と云て可なり（五十錢より七十錢迄での間）又鴨の類ハ四五志の間（一圓卅錢内外の處）ゟして鷄も前記せる鷄と同樣にて日本の者より少し大なり京都邊にてよく畜ふ所の一種の大なる鴨よりも更らに大なる樣に覺ゆる併し先づ鴨ハ通例日本の鴨と同樣にて稍や似寄りたり其外に鵠鳥とか家雁とか稱ふべき一種の大なる鳥あり其大さは殆んど鵠鳥に同じき者少なゝらぜ左りながら其の毛色容子ハ總て野雁と同樣ゟて察するに其初めハ野雁なりし者を久しく畜馴し其子孫が卽ち今の家雁となりし者なるべし鵠鳥にハ其嘴鼻ハ處に凸肉ありて面を被り居る如く見ゆることと通例なるに右家雁にハ此の如き凸肉なく一切ヒシヒシと稱ふる野雁と善く相肖たり然れべ其以前は野生の者を漸々畜ひたてゝ一種の物となしたることハ疑無きが如し此等諸鳥ハ共進會博覽會抔に赴て見物するに右の家雁の種類にハ實に非常なる大物ありて其中にハ首の眞中を手にて握り廻されぬ程に大なる者多し又此家雁の外に眞の鵠鳥をも賣り居れり又七面鳥をも賣居れり七面鳥抔ハ價甚だ高き方なり日本にて云ハゞ年始歲暮を兼ねたる祝日とも云ふべき夫の歲末のクリストマスの大祝日にハ何れの家も皆な右の家雁、鵠鳥を料理する事慣例なるが如く見ゆ故に此頃に至れべ其價殆んど平常より四五割を引上ぐるなり又冬期にハ野生の鴨を賣り居るも多く通例日本の鴨の種類に異ならぜ

又日本の者と全く異る鳥類あり卽ち彼地にてハ「鶉」と云ふ總名を附し居る者種々あり如何にも之を類別すれべ鶉の屬なれども其大小ハ色々にて同からぜ日本の如く小さゝる鶉も稀にハ見懸る事ながら英和字書なんどゟて鶉と云へる譯字を下しある彼地の鳥ハ鶉の屬中にて甚だ大なる者なり卽ち其の大さハ殆んど雉子と鳩との間位にて其姿ハ先づ鶉なれども

全体に逞しき者なり又其の毛色い黒みがかりて赤き鶏冠様の如きものを戴き居る類もあり此等い日本にい無ふして彼地には多く人の好んで銃猟する所の者なり雉子も多く鳥屋に下がり居る者なるが此にも二種ありて其一い日本の雉子と畧ぼ同様なる者あり他の一種い日本の雉子よりも一層奇麗なる者よて先づ日本の山鳥と雉子との合の子の如く見ゆその背中い通例の雉子の如くよして頭より胸までい黒けれども其の胸前より腹一面にかけてい山鳥の如く金色の毛生たり（日本の雉子い此胸より腹の辺い一面に唯だ黒き毛生たり）又此雉子の中に白き首環の入り居る者あり此等も日本にては見かけざる一なり

○問　鳥類の風味い如何

○答　鶏、家雁等全体の家禽を云いゝ其の風味い無論淡泊なる方にて旨味なくシバ〳〵する心持せり偶々日本人などが打寄りてこれを日本料理に用ゐるに常に旨味少あしとの小言を聞くなり右い畜料の如何に由る者なる乎或い西洋人が好で此淡泊なる所を賞翫そる譯なる乎兎に角日本の料理に用ゐる時は何か旨味の足らぬ様に覺ゆるなり因て余等い後々い日本料理に斯る家禽を買入るゝを見合せ野生の鴨を買來て之を料理せし事なり人為の働の加いりし家禽類こそ色々の變化をも受けたるべけれ天然の儘の野生の者い日本と同じかるべしと想像せしが果して其理屈と見へ眞鴨其他野生の鴨類い先づ日本の味を感じたる事なり

又鵜抔の如きも銃猟にて之を獲るに日本の如く天然の儘の山野に天然の儘に鳥の栖み居るとい殆ど英國中通例の處にてい之なきものと見へ銃猟の為め別段に鳥の種を畜立る由なり皇族、貴族、金満家の如きい銘々己れの銃猟地面を所有し平生より其中に鶉、雉子、なんどの類を畜立て置き猟時節に至て茲に出懸る事なり又其外に商賣の為めに銃猟地面を所有し一日何程との條約にて銃猟人に之を貸渡す者あり然れべ前記せる雉子、鶉の如きい皆日本の如く純然たる野生の者にあらぞして半い畜立てあるが如き姿

なり然る故にもある間敷が鶉なんどを日本風の燒鳥に料理するに其味の淡泊にて旨味なき事殆んど鷄、家雁、と同樣なり蘇蘭の極北の地方或は愛蘭の邊鄙にいざ知らず通例の場所ならんよりは英國中には殆んど開け尽して如何にも鐵砲抔を携へ出懸けるも容易に鳥類に見當るまじと思はる、程の有樣なり是れ一は其國の平野にして處々に少しの丘陵あるのみにて日本の如く險しき山嶽少なく禽獸の栖所多からざるが故にも由るべしと思はる

雪津佐野常民君嘗而遊此地賦一律曰、題赫久間青史名、來遊今日最關情、七山起伏擁全府、一水縈河通兩城、臙代

○問　伊國羅馬府の有樣は如何

○答　羅馬は二千年來の古跡にて西史を讀む者の皆な何となく昔しなつかしく想ふ處あり余等の如きも日本に在し頃平素羅馬史を飜閲して古羅馬人が歐洲全土を一統し居たる時の事などを追念し其の擬樣は如くありしならん抔と想像し居たると久しかりしかば一たび吾脚を其境に着くるに及ては實に懷古の情に耐へぜ余はフローレンスより夜滊車に乘込み羅馬府を指して出發したりしに未明には既に羅馬府の近傍に馳せ着たり車中の小使が戸を開て最早羅馬に近づきたりとの聲に眠を驚かされ俄に衣服を更めて先づ滊車の窓より其邊の景色を打眺めたる事なりしが此日は細雨霏々として降りしめり太と穏やかなる初夏の天氣なりければ斯の煙霧蒼濛たる中に左とで險しからざる遠山の徐かにウチれる波の如く遙に西北に横はるを見たり是れ即ち彼の古羅馬人と爭ふたるヤビチ人種の棲みし地方にて余は地圖を案じ扨は彼處なりけりと思ひたり既にして羅馬府に近づけば彼の有名なる古水道の恰も無限の長橋の如く蜿蜒として平野に奔れるを見たり是れ則ち二千年前の遺物にして日本には是に似よりたる土工なきが故に類を以て之を比説せん事難けれども先づ通例の日本の長橋の橋柱を煉瓦にて凹形に疊み上げ其上に高さ四五丈の煉瓦乃洞道を幾十町となく直線に續けたる者とこそ云ふべけれ兎角する中滊車は間もなく敗頽して苔茂したる古城壁の間を横切りつゝ羅馬府

憲章邦外遍、古時宮殿地中、横、二服を更めて千餘歳、英雄迹、歴々興亡幾變更、

内に到着せり

概して羅馬府の地形を言へば初め余等の想像せし如嶮岨なるものにあらざる先づ一面の平野にて近くに三四里遠きは七八里の間に山勢極て温籍なる樹脉の遙かに羅馬府の幾分を抱擁し居るあるのみ是は余等のみかへ知らざれども初め羅馬の古史を讀み當時の地形を想像する時へ羅馬府は都て嶮岨なる山岳を以て立て廻へされたる者の樣なる心地し居たりしに斯る平坦なる有樣を見て先づ意外の思をなしたりしが又熟々考れば二千年の間にへ羅馬府近傍の地勢も相應に桑滄山谷の變を經たりし者にして昔の羅馬府へ恰も飢ゑ土中に埋もれ尽し今の羅馬府へ昔しの羅馬の府天井を基礎として其上に立ち居ると云ふも可なる程なり其証據にへ市中の片はとりにへ幾千年前の古高宅の下部の八分通りへ地底に沒して僅かに其上部の一二分の地上に露へれたるを利用して穴居同樣其の内に生活し居る貧民も少からぎ又地底より掘出したる古建物の四柱抔へ概ね皆な其の頂き今の家屋の土臺より下にある者多し羅馬府の人口へ概ね六十万人内外にて市街の建物へ全体に古びたる者多し左れども亦た中古建築の模型を存し甚だ丈夫に見ゆる者も少なからぎ今の王室が伊國一統の功を奏し十五年前茲を以て其の首府となせしまでへ此地へ唯羅馬法王に參拜し世界第一と稱するカドリック教の本山寺院なるサンペートルに參詣せんとて輻湊する所の信徒並に此地の名所古跡を探るが爲めに接踵來遊する所の旅客の二者を相手に全府の活計を立て居たる者なれへ市中に鬻ぐ所の品物も皆な是等の外國人の本國に持歸るべき土産物多く日用品の方へ左まで、ならざる樣に思へれたり左れば全体に町も狹く之を巴里倫敦などに視ぶれば其大小冷熱へ固より相比較すべき類にあらぎ然れども今の王室が此地を首府と定めしより漸々に市區を改正し新らしき建築抔も起り行々へ一の繁華なる新都會にも變ぎべき有樣なり先づ前記せる人口と此地の沿革の舊來とを察する時へ畧ぼ其他の事を推量すると難からざるべ

字書曰京大也師衆也天子之居必以衆大言之今伊國多利國王以羅馬爲京師至其衆大洵有以哉

し

○問　引續て羅馬名所の御話を承り度し

○答　巴里倫敦の羅馬府に及ばざる一事ハ其名所古跡の多きと是なり左ば余等の逗留中も新らしき繁華の場所へハ赴き覩ると少なくして暇ある毎ニハ輙ち古跡のみ見物せり西史を讀みたる日本人抔に取りて第一に珍らしきは彼の二千年前共和政治の始めより王政の始めに至るまで用ゐたりし古宮殿の跡なり又羅馬史中にカピトルと書し其節羅馬の本城とも云ひし處にハ今日も尙ほ其の上に羅馬の府會議事堂、府廳、あど建築しあり其の廣さハ二三町四方にて今日にても他の地面より一二丈も高く聳へ居れり前記せる如く今の羅馬府の基礎ハ昔しの羅馬府の天井の上に立ち居ることを考ふれば其の昔しの羅馬府の頃にハ此本城の地面ハ餘程市街より高く援んで要害の區たりし者と察せらる前記の古宮殿ハ卽ち此本城の裏手の麓にあり此古宮殿ハ舊と地面の下に埋もれ居たりしを中ごろ其土

を掘ひ上げて掘り顯ハしたる者なれば尋常の往來の方迫かに宮殿の圓柱の頂きよりも高く之を見物そる者ハ皆な往來より一段低くき地面に降り行くことなり此の宮殿の趾にて今日に存し居り認め得べき者ハ其一部の石壘と三四の圓柱と又其傍らに立てる一箇の凱旋門とのみなり此の石壘なる一區ハ則ち彼の英雄該撒が志士ブラタス等の爲に要殺されし所なりと言ひ傳ふ果して信なるや否や敬石は都べて大理石にて其圓柱の格好風韵ハ又た實に美事なるものなり

又此古跡の一方にハ四五町四方の小高き丘ありて是ハ羅馬が帝政に變じたる以後の皇居の趾なりと云へり丘の地質は都べて煉瓦にして其の舊ハ唯だ一個の宮殿なりし者が幾千の星霜を經る中に漸次土砂に埋もれて遂に今の一堆の丘を成せしにハあらざるやと思ハる、程の者なり四方より此地に遊ぶ旅客共が前記せる古宮殿の大理石などを持去る者多く之を制禁せされば終に其形を損する迄に至るべきが故に茲にハ伊國政府より出

寶希世之古跡宜留眼

張の番人ありて之を看守するとなり余等の加きも何とかして此の古宮殿の大理石を手に入れんとせしが左りとて番人よ咎らめれんも而白からぞ又其の大なる者ハ持歸るにも不便なれば唯だ余が遊蹤の印の爲めにもと其邊の大理石の一小片を打飲きて携へ歸れり他日之を彫刻して當時の紀念を爲さんと思ひ居れり

初め其の共和政治の時代に當り小亞細亞より歐洲を一統して以後羅馬人民ハ一体に奢侈の風を長じたりしが故に其宮殿の圓柱なども既に定めて美事よなり居しならんとハ今日に存する二三の記述を以ても之を想像すべきが其の帝政の始めより中頃にかけてハ取分けて建築術の進歩せしものと見ゑ帝政の頃の神廟の圓柱二三本右の古宮殿の傍に立居れるに其物質ハ紫色の大理石にて其割合の宜しきと彫刻の美事なることハ實に人を

して感嘆せしむ

古宮殿より少し隔りて一二の凱旋門あり是を過ぐれば彼の有名なるコロセオと稱ふる闘獣場の古建築あり其狀を畧記すれば圓形の飯櫃の加き者にて其圓形の周圍ハ殆ど七八町もあるべく直徑二三町もあるべし其圓形の中央に平場ありて茲にて猛獣を闘ハしめ或は奴隷をして互に決闘せしめ或ハ人と獣とを闘ハしめたる土俵舞臺共云ふべき所なり其の中央の平場より少し高く石を疊み上げゾレより圓形ありよ段々高く數十の階を輪づくり設けあり即ち見物人の席なり左れば見物人ハ中央平場にての決闘を立て廻ハして上より看下す樣なせるものなり而て其外面周圍ハ地面より幾丈の高さに直立し居れり又其闘獣場の地底にハ穴庫の如き部屋幾個もあり是ハかねて猛獣を入れ置く處にて決闘の時に茲より之を例の平場に引出す樣になしたる者ありと云ふ此の闘獣場の中央ハ總て廣大なる石を以て疊み上げたる者にして其昔しハ總て彫刻せる大理石を以て内外共に飾り鍍めたる者なりしが中古歐洲戰國の時に及び羅馬ハ古物の悉皆零落せし頃羅馬の一侯國の主某が其の宮殿を造らんが爲に此闘獣場の大理

現今猶然往古之形狀亦如何

石を過半取り去り唯だソレのみにて一個の大なる宮殿を建築したりと言ひ傳ふ其他亂世の事なれバ何者が取るともおしに思ひ〳〵に之を奪ひ去り遂に今日の如く其中央の骨のみ露殘するに至りし者と云ふ如何にも以前大理石にて飾りし証據にハ今日にても其の或る個處よハ尙ほ一二彫刻大理石の剝落しのこりて存し居るを見受けたり今日に存せる古羅馬の建築物中にて此の鬪獸場こそ則ち古色第一と稱せらるゝ所にして四方來遊の旅客の昔しを忍ぶ人々ハ風清月白の夜に乘じ此邊を逍遙して流光の廢墟を照らすを賞するも多しと聞けり彼のギッボ氏の羅馬帝政史ハ英國文藝社會よりて有名の一書なるこの初め同氏の此に在る頃一夜月を踏て此の邊に散策し俯仰低回感念の依々たるに堪へぜ乃ち帝政の史を編みて往事を叙述せんとの志を此時に發したるなりと言ひ傳ふ此の鬪獸場の寫眞ハ日本などにも持歸れる者多けれバ時々諸處にて之を見懸けし者も少からざるべし

此月照
此處使
此八書作
此書乎
將八
感此月
爲此書
作乎
余亦
此余
書亦
此久
之

○問　家々にハ日本の如く毎朝八百屋などの來ることありや

○答　然り此の事ハ少しも日本と異らぜ出入の八百屋ハ毎朝十時より十二時迄の頃よ中以下の家をバッレ〳〵用聞きに廻るとにて其店の大小に應じ各々皆な小さなる車を持ち居り之に青物菓物の類を積みこれを馬に牽かせて行くとなり又牛肉屋の如きも毎日其の得意先を廻ると八百屋と同樣なり牛肉屋が牛肉を盛りたる器ハ一種の板皿にて板の中を細長く窊り取り盆の如くなし其四角なる角々にハ取手の如き者を拵へあり又八百屋の方にて青物を運ぶにハ日本と同樣の笊を用ふるとあるが世人の知る如く彼の地にハ一切竹と云ふものなけれバ余等も最初ハ何物にてザルを編み造るやと思ひ居たりしにコク〳〵調べ見れバ皆な小さ𝔞河柳の心を以て造りたるものなり則ち日本にて柳行李に造る材料の柳の枝を以て日本の竹籠の如く編みたるものなり唯だ余等の目よ最も羨ましきハ何事にも皆な馬の力を用ひ八百屋にても牛肉屋にても苟も得意先を廻る程の者

不獨品行言語亦慎既爲習慣

ならんにハ其荷車を馬に牽かせ居らざる者稀れなり又馬を用ひ得ざる程の者ハ驢馬を用ひて其荷物を牽かせ居るも尠なからぬ若し日本にて馬の飼料に入費多しとならべ責めてハ驢馬なりとも用ひたし之を用ふるだけにても大に人力を省くるとなるべきなり

又牛肉の事に付て思ひ出せる一事あり一日余等の下宿屋の使男が「日本にてハ牛肉のとを何と申すや」と問ひしゆへ「牛と云ふ」と答へしに「然らバ牛のとを何と申すや」と尋しゆゑ「矢張牛と云ふなり」と答へしに使男ハ大に之を笑ひ又た余等に向ひ「羊のとハ何と申し羊肉のとハ何と申すや」と尋るがゆゑ余等ハ復た「孰も羊なり」と答へしに復た大に打ち笑ひ「偖てハ日本の婦人ハ牛肉のとをも牛と云ひ羊肉のとをも羊と云ハるゝにや餘り婦人にハ似合しからぬとなり英國にてハ御存の如く牛肉のとをばビーフと云ひ生たる牛のとをバオックスンとかカウとか云ふ也又生きたる羊をバシープと呼ぶも羊肉のとをバモットンと呼ぶ故ゑ甚だ優しく聞ゆるとなるに生きたる羊又ハ牛と其肉との稱へが同じとにして婦人方が之を稱ふるにも亦牛を食ひ羊を食る抔とハ如何にも下品に荒くれておかしく候ハぞや何とかして生きたる躰と肉とハ別々の名に致さぞてハ婦人方ハ嘸かし之を詞に發するを迷惑に思ハるゝあらん」と云ハれて考へれバ如何さま英國にてハ牛羊と其肉とバ名を別にし稱へを異にするがゆゑに幾何か優しく品よく聞ゆる場合あり我國も行く〳〵ハ定めて兩者の間に相應なる別名を生ぜるとにも立至るべき歟

去りながら他の西洋諸國の中にハ生きたる牛羊と其肉との名を同じくし居る處も隨分之なきに非ぞとのことなれバ右ハ日本のみ獨り優しからざる下品の詞を用ゆとハ云ひ難きなり然れども若し生きたる牛羊を其肉と別々の名を稱ふると出來得べくんバ之を殊にするこそ然るべきことと思ハるゝ如何にも優しき婦人の口より牛を食べる羊ハ旨し抔とハ少し不似合なる處もあるが如し

○問　西洋諸國の新聞紙の体裁ハ互に相同じきや又日本の新聞紙との異同ハ如何

○答　英、佛、伊、墨、等の國々にてハ其体裁の同じきあり又異なるもあり今ま諸國の相異なる箇條一二を畧述せん。に英國まてハ雑誌類の外毎日發兌の新聞紙にてハ十の八九までハ概して小説を掲ぐる者なし然るに佛國伊國に至れバ其國に大勢力ある一二の新聞紙を始めとし其以下に至るまで日々發兌の者にも皆な小説を載せざる者なし是れ英佛伊の著るしく相異る所以なり英佛共に一二を爭ふ國柄なるに如何にして其新聞紙に斯る相違あるやハ甚だ解し難き事なれども去りながら余等の想像にてハ英人ハ全体に不風流なると且つ其國非常に繁昌して物事に忙ハしきとの爲めに其新聞紙上に慰みに類する閑散の事柄ハ幾んど掲げかねるの風をなしたるものと覺ゆ之に反して佛國の如きハ文學の風韻あると英國に優れるが上に歐洲第一繁華の地とハ云ひながら凡百の業務の忙ハしく多端なるとハ

新聞者社會之耳目人情之代表故人情異又隨而異之

稍々英國に一歩を讓るの有樣なきにあらぞ此等の異同より両國の新聞紙に此の如き相違を生じたる者にあらずやと思ハる又伊國と英佛二國との新聞紙の相違を云ハゞ其新聞紙に大抵小説を掲ぐるとハ佛蘭西と同樣なれども唯佛蘭西に異なる所ハ伊國にハ毎日發兌の繪入新聞ある一事なり英佛二國にてハ雑誌類にハ繪入のものあれども毎日發兌の繪入新聞ハ之れなしと云ふて可なり英國ハ勿論の事ながら佛國にても然るべき勢力ある毎日發兌の繪入新聞ハ見懸けざりし樣に覺ゆるなり伊國の分とても固より毎日發兌の事なれば其畫圖などハ先づ高尚ならざる方にて其畫圖の精巧に至つてハ毎週發兌の雑誌の方に落を取らるゝと云ふの有樣なり蓋し伊國ハ英佛二國に比すれバ業務も多端ならぞして一体の事柄に閑暇多く又た舊國なるが故に人心も稍や都び居るよりして遂に此の如き新聞紙の体裁を生ぜし者ありと見ゆ我報知新聞の如きも半ば佛國伊國の新聞乃体に同じからしめたる者にして日本の舊國なると其國人ハ文學の風韻あ

ると事務事業の英、米、二國の如く繁忙多端ならぎして記載すべき事柄の世間に少きことを察し寧ろ佛、伊、二國の体を交ゆる方然るべしとの相談にてついに今日乃如き体裁をバなせしことなり然れバ若し英、米、の新聞のみを見て世界にて新聞と云へるものハ皆な此の如しと思ひ其方に反する者ハ新聞の仲間外をなし居る如く考へらるゝ者あらんなハ是れ大に誤まる者と云ふべし

又記事の上より云ふも英、佛、諸國の新聞の特に日本に異なる所の點ハ其紙面に外國種の割合に多くして又世間の耳目ハ是れに集まるの一事なり尤も歐洲諸國ハ瀛車電信の便宜の快利にして彼我の交通非常に容易頻繁なれバ各國間の出來事ハ皆其の利害甚だ已れに切實あるの故にも由る事なれども全体に讀者の眼界甚だ廣くして新聞も亦之に應じ世界の事を漏さぎ一纏めに其紙上に載するとを云ふの舊發常に見に居れり左れバ彼國の新聞にてハ外國の事も常に殆ど內國の事の如く讀者ハ感せしむるの便利あるなり然るに日本にてハ日本以外の事ならんにハ最早新聞の種の中にハ入らざる者の如く思ひ等閑に讀過する者鮮なからぎ是ハ全く外國交通の日尚ほ淺きが故なるべけれども行く〳〵ハ我日本の新聞も世界中の幾千分の一にも當らざる小さき國內の事のみに心を留めぎして眞正の世界のことを紙面に載せ大切なる大体の事に目を注ける樣自然に成行くべきあり又た斯く成行かねぎならぬ必要ある者なり何となれバ今ぎ英領濠洲に於て石決明板屋貝の柱等の產出盛大に赴かバ支那の得意ハ忽く之れに奪れて、我國の取引ハ立どころに衰べし又亞米利加のテキサス近傍にて尽力し居る桑の景況次第にてハ我國の生糸も大なる影響を蒙るべし日耳曼地方にて廉きビールの製造場を生せバ我國の商賣人ハ爲めに無數の損得を受くるに至るべし一事一物我國の相手ハ外國に在るの世の中に立ちながら外國時々の模樣を知らぎしてことの濟むべき道理は決してあられまじき譯なり將た斯る經濟上の問題のみならぎ學術にあれ兵事にあれ何一つと

僅々數語我商業家頂上好一針

して外國の事變に差響を受けざる者のあらざる時節に新聞紙上にハ唯だ我が國内の事柄丈けを載せて獨り是れのみ眺め居るハ實に不覺の極と云ふべし然れバ我邦の新聞紙ハ是非一度ハ日本國内の事柄のみを寫し出す小鏡にハあらずして全世界の事變を洩れなく寫し出す一面の大鏡となるを期せざるべからず目下日本の新聞紙と英佛の新聞紙とを比較し重なる相違の點を求めバ先づ茲にありと云ふも可なり

○問　日本にて洋服を着たる人を見るに其外套(英語にてオーバーコート)の形ハ種々にして或ハ何も飾りなくして其長さ膝切りのものあり或ハ襟袖口等に毛皮抔を飾り付け其丈も少し長きあり或ハ又た全体の地の厚くして裾ハ足の踵に屆く程長く腰の邊りに帶締革の類を着けて引き締めるやうに爲し居るもあり右ハ彼地も同樣なりや如何

○答　外套の形ハ國々にて種々流行の相違ある樣に見受けたり先づ英國倫敦を以て申さば此の二三年ハ襟袖口共ま少しも飾りなく又其丈も膝切り有るか無しのものを用ふること通例にして決して他の形のものなし故に偶々余等が寒氣を防ぐ爲めに異躰なるものを造り之を着けて外出する時ハ何か頻りに人に見らるゝ如き心地すること多かりしかり尤も稀れに他の形の外套を着け居る者も見掛ること乍ら能く注意するに其骨格容貌多くハ他國の人にして英人にハ非ず然れば近來兩三年倫敦にて通例の外套の形ハ先づ前記せる如く極めて飾りなきスラリとしたるものにて其の流行も餘り多く變はりたることと少しと申すことを英人より承りたり

倫敦ハ日本に比すれば夏の季節短くして冬の季節長く全半ヶ年ハ唯だ寒き氣候にてその餘の半ヶ年を春夏秋に分ち居る有樣なれバ外套を着けざる季節は甚だ少く少し寒を恐るゝの人は一年中僅か二三ヶ月を除く外八九ヶ月間ハ常に之を着け居ることとなり斯く冬の長き代りに倫敦ハ常に霧深くして歐洲大陸の諸國に比すれバ寒氣ハ稍や輕き方なり先づ東京の寒氣より強ひて甚だしとハ覺へざる程なり英人の氣丈なることハ寒中外出

英人之能堪寒氣習爲性者也

するにも一向に襟巻を用ふる者おく凛々たる寒風の中に襟に飾りもなき外套を着け乍ら喉の邊より頬顋をむき出しにしサッ〳〵と歩き居ることなり然れば此間に立ち獨り襟巻抔を爲す時ハ何か人より目を注けて可笑しく思ハるゝの有樣なきに非ず又婦人の外ハ襟巻を爲す者おきに男子の獨り之を爲し居るも何やら元氣おく思ハれんかと恥かしさに余等の如きも寒中にも大抵頸の邊りをバむき出しにて外出せることなり男子が襟巻を爲すハ孱弱げに見ゆるゆゑ之を避るハ理屈あるなから婦人ハソレにも及ぶ間敷と思ハるゝに中以下の婦人ハ冬分外出するよ襟巻を用ひずして其の鼻端きを眞赤にしながふサッサと歩き居る者頗る多し尤も年老ひたる婦人ハ多く襟巻を爲し居れり然れバ若き婦人ハ一は其品を作り襟巻を爲さゞること、見ゆるなり若き男子の襟巻を爲さゝるも一ハ此の邊の意味より生せしにもあるべき歟又老年の人ハ男子と雖も襟巻を爲し居る者を稀には見受けれどソレすらも通例ハ小さき襟巻を用ふることにて日本人の用ふる如き大なる物ハ極て罕れなり但し右に述る所は都て中以下を云ことにて上等の人々ハ出入共に手馬車を用ひ居ることなれば車の四方をさへ締むれバ寒氣を恐るゝにも及バず然れバ是等ハ格別のこと、知るべし去り乍ら極寒ならぬ時公園抔を驅り行く人を見るに母衣を開き或は箱馬車の戸を開きたる儘にて寒風に吹かれ乍ら頸の邊りを暴ら玄居る人も甚だ多きことなり之を概そるに英人ハ平生より行儀至て嚴しく幼少の時より暑寒にも其身躰を崩さゞる樣方正なる行儀の範圍中に生育され遂に其の性を成せる者と云て可なり日本の社會の何事も不極りよして士君子淑女共に幼少より暑寒に堪ゆる行儀の規則なく其身躰を柔弱に爲し居る者と相比すれバ實に大なる相違あるに思ひ付きたり

又夏分傘をさし日を除けるハ婦人のみに限ることにて婦人なれバ歩行するに皆な蝙蝠傘を開き居れり然れども市街中にて加何に暑けれべとて決して男子の傘を開き居るものなきハ不思議なり孰れも皆な照り付けの馬

暑中不用傘是無有害衛生乎

車抔に乘り作ら平氣に澄まし居る者多し余等の加きも既に斯る國風中に交れば獨り傘を開くも何とやら柔弱らしく其儘にて歩行すること多し尤も日本の加く暑氣の甚だしからぬことなれば先づ耐へ難き程にの非ぞ去り作ら余等の身に取ての隨分傘を開きたく思ふ時も甚だ少なからぬことなり曾て此の事も英國にて聞合せたるに傘の一事の左して禮法の中にの入れ居らぬ積りにて少し田舍に旅行する時抔の英人も皆な拂わぞ傘を開きて日を避くることあり左迄規則嚴びしき譯にも非ぞとて笑ひ居たり去り作ら倫敦市街中にての實に申合せたる加く殆んど一人の傘を開きて日を避くる者なし

又男子の外套の色合の通例無地にて縞物の少なし其無地の色の樣々あれども先づ焦げ茶、溝鼠、黑抔も少なからぞ唯だ赤の勿論淺黃類の甚だ少きことなり去り作ら右の唯だ市街を往來する時の外套を云ふことにて少し旅行にても爲さんとし田舍抔へ赴くときはの縞物抔の長く踵に至る程の外套を用ふる者少からぞ故に流行の外套と平日の外套との全く其趣きを異にすと云て可なり又巴里抔の二三年の外套の有樣を申せば種々の流行もあることならんが先づ通例の前記せる英國と同樣にて二三年の處の襟、袖口、に飾りなくスラリとしたる短き物多し一ト口に云へば英國の外套の都びて上品なる方を用ゆといふて可なり去りながら同地にての襟、袖口に、毛皮抔を用ひたるを着けし人をも間々見受る樣に覺ゆ是れより北のかた日耳曼などに至れば寒中に用ふる外套の特別に長く厚く英國との全く其趣きを異にせり是れ寒氣の殊に甚だしきが故なるべし又魯國抔の模樣を聞き合すれば寒氣强きがゆゑに外套の制も亦之に應ぜる樣に益々厚く長くして毛皮抔を多く用ひ居れりと云ふ然れば先づ氣候の寒温に因て國々に相違ありと云て可なり

我國近時流行外套多擬日耳曼或魯西亞者

○問　英國にて議員大改選の節改進保守の兩黨が其選擧に勝敗を爭ふの有樣は如何

英米人民之富政治思想非本邦人所企及也

○答　余輩の親しく見聞するを得たるハ一昨千八百八十五年の大改選及び昨年の臨時改選の有樣なりしが一昨年の大改選ハ保守黨の內閣敗れて政府の全權ハ改進黨の手に落ちたる儘五ヶ年の間打ち續きし後の大改選なりしかバ双方の爭ひも非常ゑ劇しき方なりし由なり英國の內閣が五ヶ年間持ち續くハ先づ珍らしき例にて此の百年間に長きハ十八九年續きたるものもあれど先づ平均の年數は三年內外を常とす然るに保守黨が敗れてより以來五ヶ年間ハ改進黨の勢力實に旭日の如く一昨年春夏の頃迄ハ猶は十餘年も持ち續くべきが如くに世間にても噂し居たる程なり左れバ保守黨ハ此度の大改選を以てハ是非とも勝利を得て政權を回復せんと非常ゑ盡力せしも亦た當然の事と云ふべし去り乍ら一昨年の大改選にハ到底の勝利ハ先づ失張り改進黨に歸すべきやに見へたりしなり尤も世人の知る如く大改選の兩三ヶ月前に改進黨ハ內閣を退き保守黨代りて政權を執り居たる事なれども迚も保守黨の永續せんとハ覺束なく政權ハ再び改進黨の手に歸すべしとの前表ハ先づ十人の九人迄ハ認め居たりしなり然れども兎にも角ゑも五ヶ年目にて久々の大改選なれバ双方の用意も亦た十分行屆きたる有樣なりき

米國の大統領選擧抔ハ全國諸州同日に之を爲すことなれば唯だ一日を以て双方の勝敗を決するなり然るに英國のみハ古來よりの慣習にて國內の諸州諸都府にて其日割種々に違ひ早きあり晩きありて最初に投票の始まる地方より最後の地方に至る迄ハ凡そ十五日以上を費やすなり其間日々電報にて各地より兩黨の事務所ハ勿論新聞社に當て某州にてハ何黨勝ちたり何都府にてハ某黨の方當選せりとの報道引きも切らぬ而して新聞社の外面の窓にハ又た其時々に各地の兩黨の勝敗の數を貼出すこと故之を觀んとて新聞社の前ハ見物人にて黑山を成し居るなり斯く群集して貼出しを觀居る處へ又た一州より改進黨が勝ちしとか保守黨が勝ちしとかの知らせ來りて之を窓に貼り添ゆる時にハ見物人の中にて其の勝ちたる政

恰是如我評相撲之贔屓

黨方に最負なる者ハフライ〳〵とかワーッとか聲を立てゝ興を揚げ勝利を祝するに又た負けたる政黨最負の方の見物人はウヽーン、ウヽンと聲を立てゝ呻くあり彼地の詞にては此の呻きをクウランと云ふ他國人が聞き居る時には實に笑しなるものなるが不平方ハ頻りに大聲を出たして此の呻きを立るなり左れバ選擧の問重なる會同舘又は新聞社の前は毎日朝より晩まで見物人の絶ることなし實に盛なる有樣なり

扨余等は英國の中にて何れの地方の撰擧の有樣を見る可き歟と相談せし處龍動より西北五六十里を隔てたる有名なるボルトンハムの都府は其製造工業の繁昌なるのみならず政治上には人民の殊に熱心なる土地にて同府の民ハ各人皆政治家ならざるはなしと仇名さるゝ程なり之に加ふるに此ボルトンハムは彼の改進黨中最も世人に屬望さるゝチャムベルライン氏の鄕里にて同氏の本營と頼み居る地方なり且つ此度の大改選には有名なるジョン、ブライト氏も同府にて撰擧區を爭そひ又た保守黨にて今日屈指の人物と稱せらるゝチャーチヒル氏の加きも亦た同府にて撰擧を爭ふ譯なれバ其土地と云ひ其候補者と云ひ此都府こそ先づ英國撰擧の手本とすべき一番の觀物たるべしと聞きしかバ乃ち同府に赴くこと、決したり扨て同府の各區の投票日と定まりし日の一日前に余等ハ龍動より發足して同府に赴きしが餘り心急きたるまゝ滊車を乘り過まりて同府を通り過ぎ二十里許りもマンチエスターの方に赴き中途にて復た他の滊車に乘移りて再び同府に至る抔不都合なること多かりしも同府に着せし時ハ幸にして尙ほ甚ハだ晩からざりしかバ同夜チャムベルライン氏の演說の定刻ハ間合ひたり

○問　引續てボルトンハム府にて親しく御聽きなりしチャムベルライン氏の演說の模樣及び其他大改選の景況を承ハり度し

○答　余等ハ旅宿を定むるや否や直に同氏の演說の場所に驅け付け覗れバ早や聽衆ハ堂内に充滿し其中庭までもヒシ〳〵と詰め合ひ居り尙ほ其

上に多人數外より推入らんとするを屈强なる巡査り十名餘も立ち塞りて之を防ぎ居る有樣よて中々演說堂內に入ることは思もよらざる有樣なりき因て一と工夫を按出し其處に居合はせ一二名の巡査を傍に招き我々は

富政治思想一証

同氏の演說を聽聞せんが爲めわざ〳〵遙々と龍動より來りし者なり何とかして堂內に入れ呉れよと懇に依賴し聊の心付を與へしかべ彼等も外國人の遠方より來りしを氣の毒よや思ひけん今ま暫時待つべしとて種々に盡力すれ共何分雲霞の如き聽衆が堂外より押寄せ推詰め居ることなれば如何とも爲すこと能わぜ一時間許りも庭內に佇み居たれ共爲術なけれべ余等は痛く失望して早や旅宿にも歸らんかと思居たるに四五名の巡査來りて如何にもして堂內に送り込むべき間我等の間に介まり給へとて前に二三人後に二三人にて其間に余等を夾み聽衆を推分けて入口の前に進みたり豫ねて打合せありしにや入口に達そると斜めに少しく戸を開くや否や其處に群集せる人民は一同に激浪の如く押寄せ來るを巡査の盡力にて余等のみは首尾好く堂內に入るを得たり(因に記す英國の巡査は最も身材の大いなる者を選拔すること、見へ左らぬだに丈高き英人の中にて更に目立つ計りの大男のみなり伯林巴里抔の巡査わ其骨格身材の大小に至ては迚も英國の巡査に及ぶこと能わぜ左れべ余等の如きわ其の腕下をも潜るべき程の大男が五六人余等を夾みて堂內に送り呉れたることなれべ斯くは首尾能く其中に入るを得たりしなり)

扨て堂內に入り見れべ立錐の地無き迄に聽衆わ充滿し居れ其兎に角に尙は庭前よて人民の推合ひ居る程の窮屈なる有樣にはあらぜ躰を斜にして群衆を推分くれべ彼方此方に動き行くことも出來たりき尤も椅子抔の如き腰掛あるわ只だ演臺に近き前の方二三間の所にて其他は聽衆は皆お立ち居るなり正面を望み見れば恰も日本の棧敷より舞臺を見たる如く一段高き演壇ありて此時よわチャンベルライン氏今ま方さに演說し居れり同氏わ演臺の前面に立ち其の前にわ卓子あり卓子の上にわコップに水を入

れあること恰も日本の演説の有樣と同一なり尤も演説者ハ卓子の前ヨハ立たゞ卓子より離れて近く聽衆に進み近づき演説し居れり又た其演臺ハ舞臺の如くにして其上ハ少し手廣なれバ此區の改進黨の重立ちたる人々世話人ハ及び數名の貴婦人ハ皆な演説者の後に椅子を並べて二十餘名も列席し居れり扨て予等ハ此度ヨ限らゞ彼地の人より丈低く何分人の肩の間見へて遠方の有樣ハ見難きが故に成るべく人を押分けて前の方に進行かんとしけるに聽衆ハ早くも余等が外國人なるを認めたりと見へ口々ヨ「外國の紳士なり前に通せ〳〵」と傳呼して成べく路を開き呉れけれバ余等ハ好き事ヨ思ひ路の開けしを幸ひムヤミに演説者に近く進み行くに隨ひ益々路開け次第に ズリ進みて演臺より二三間の所に達せしかバ最早此ヨて宜しと止りしに演臺の上なる世話人等ハ早くも余等を認めゝにや其中の一兩人降り來りて其處ハ不自由なるべし此方に然るべき場所之れ有りとて彼の演壇の上に伴はんとしければ余等ハ幸なる事に考へ導かるゝ

が儘演壇の上に登り他の紳士、貴婦人と共に椅子に凭りて聽聞したることなりき此度に限らぬヨながらボルミンハムの人民が外國人を親切に取扱ふの好意ハ余等の深く感謝する所なり之を思へば外國人とさへ云へば直ちに之を敵視する東洋人の風ハ實に慚愧に堪へざるなり面想容貌の相違にて直ちに外國人と見るや斯迄に丁寧に取扱ハるゝハ万里の他郷に在る者の身に取りてハ實ヨ喜ばしく思ふなり右の世話人らしき紳士が外國人を斯く取扱ふハ先づ然あるべきことながら演壇より隔たりたる聽衆ハ多く職人体とも見ゆる有樣なりしに斯る者共に至る迄口々に「外國の紳士なり」〳〵とて故さらに路を開き前に進ましむるなどハ實に感ぜるヨ餘まりありと云ふべし

不獨自重亦敬愛他人彼地風俗實可稱乎哉

○問　引續てチャムベルライン氏演説の模樣を承り度し

○答　扨てチャムベルライン氏の演説ハ先づ英吉利風のうちよてハ活潑なるものなるべし余等ハ當夜四五間傍にて近く聽居たることなれバ余等の

耳まも先づ大抵ハ分明に意味を解し得たりしことなりボルミンハム府ハ全体に氏の部下多けれバ此夜の聽衆も大抵ハ同黨の人々なりしなり氏の演説の大体を言へバ聽衆をバ殆んど掌の中に入れ居る容子にて其の喜怒を支配し抑揚そること自由自在なるの有様なり其一例を言へバ右撰擧の時ハ彼の地面論の事喧しく「牝牛一頭と地面三エーカル」の話の名高き頃なりければ氏の演説も專ら地面の事に關係し居りしが聽衆の中に一人ノ〱と叫びし者ありしに氏ハ直ちに其邊に向ひ「諸君此處にも一人の地主あり」と笑ひ指せしに之と同時に聽衆ハ聞を作て其ノー〱の聲の發せし方に涙を溺へすが如く推し行きたり聽衆の喜怒ハ一に氏の言ま因りて左右し得べきこと此の如し

演説の論意ハ聽衆次第にて或ハ深く或ハ淺き・ハ勿論免かれ難きことなり氏の當夜の演説を氏が平素議院にて述る所の議論の体に比較するときハ實に淺く分り易きを主とせしものと見へ其論意に於てハ曾て感服すべきも見へず只だ如何にも聽衆を悅バし躰方ま勢をつける勝手の理屈のみを述べし者と評するも可ならん左れバ概したる所當夜の有様ハ先づ一口に言へバ政治上の祭禮とも稱すべきものなるべし元來此區ハ氏の選擧區ま・ハあらぎ但だ其の部下の政友を此區より選擧せしめんが爲に援兵に出懸けしものなり果して翌日の選擧に此區ハ改進黨の方に多數を得たることとなりき

援兵之力果有効

又演説壇の前にハ各新聞社の通信者ありて各々傍目もふらぎ筆記し居り七八分若くハ十分毎に其書き終りしものを傍らに待居る小使に持たせて銘々の社に送り遣はす有様抔ハ實に忙敷ことなりし

扨て右演説の翌日ハ投票の當日にて則ち兩黨が其の勝敗を決するの日あり豫ねてハ投票の當日ハ定めて賑かなることならんと想ひ居たりしに其靜なることハ實に意外なりき先づ各區に臨時一二ヶ所定まれる投票の役所を設け之に役人出張し居りて朝九時頃より夜八時頃に至る迄の間各選

舉人はソレ〳〵其の役所に赴むき投票を爲そとなり其法ハ先づ三四寸四方の骨牌の如き紙ありて之に其區の候補者の姓名を記載しあり通例ハ改進保守の兩黨より各々一名を出すことなれバ候補者ハ二名なれ其中立黨或ハ獨立黨抔の其區にある時又ハ改進黨保守黨中にて候補者の相談調ハゼ一黨より二名の候補者出づる時ハ右の骨牌の上に三四名の姓名を記することもあり左れど先づ通例ハ兩黨の候補者一名宛合せて二名の姓名を印刷しあるなり扨て選舉人ハ先づ此役所に進み行きて右の投票用紙を求むることなり其時役人ハ其者の姓名番地等を問糺し選舉人ハ逐一之に返答せざるべからゼ左するときは之を豫ねて扣へある選舉人姓名錄に引合せ愈々相違なきに於てハ候補者の姓名を印刷したる右の投票用紙を渡すことなり選舉人ハ鉛筆にて其二名の内己れの好む所の候補者の姓名の上に十文字の印を付け之を投票函の中に投じ然して後ハ出で行くあり是にて其選舉人の投票の手續きハ先づ終れるものなり

處事簡略而整頓貴重

右ハ至極簡單にて甚だ手間の入らざる仕方なり選舉人ハ只だ其選舉せんと欲そる候補者の姓名の上に十文字を記して函に投ぜる丈の事あれバあり然れども茲に不正の行ハるゝハ他の選舉人の姓名を僞ハりて役人より投票用紙を受取り我黨の候補者ハ一枚よりも多數を與へんと試むるの一事にて是にハ重き罰あり一昨々年の選舉の節ハ各地方にて往々右投票の賊をなす者之れありし由當時の新聞紙上に見へたりき

時刻之風可知矣

○問　其他投票の手續及び自餘の有樣ハ如何

○答　投票の始末先づ前記の通りなるが故に外部より觀れバ只だ投票所に選舉人の出入を爲すのみにて別に何等の賑かなるともなし但だ茲に舊くよりの仕來りの殘れるハ兩黨が各々其の重もなる躬方をバ別仕立の馬車を以て投票所ハ送り込むことなり英國にハ嚴重なる選舉令ありて選舉の爲に賄賂を行ひ或ハ賄賂を受け或ハ金錢を以て種々のことを爲すハ背嚴罰あり左れバ何事も只た金錢の緣を離れ相談づくにて爲すことならで

ゝ出來ず若し然らざんば反對黨の爲に苦情を申し立らるゝの恐れあり故に通例商賣の馬車抔を金錢にて借入れ之を用ふるゝ法律に背くが故又其黨内の人の手持の馬車抔を貸渡し之を其黨の用又供そることなり選擧の節には各選擧區又兩黨とも各々臨時に其事務所を設けあり其黨中の事をべ万端此の臨時事務所又て取扱ふなり左れば右借用そべき所の手持馬車をべ多く事務所に來るを待ち右の馬車に打乘せ馬車の横には各々其黨の得意の文言抔を貼付け或ゝ其黨の候補者の名前等を記載し此車にて事務所より選擧人等を投票所に送出すことなり去乍ら是れすらも餘り賑かまゝ見へざ先づ一通りのことなり英國にては概したる所改進黨にゝ金滿家少なく保守黨にゝ財産家多きが故又事務所より選擧人を投票所に送る馬車抔ゝ各區共又通例保守黨の方の賑かなるに勝を取らるゝなり

又其區の候補者ゝ馬車にて時々其區内を乘廻り己の顔を見せて選擧人に勢を付け躬方を勵ますの一手段と爲すなりナヤーナヒル氏の室ゝ集て美人の名ある人なりしが其夫の勝利を助けんが爲に同日も馬車にて頻りに選擧區を乘廻りし由なれ其余等ゝ行違ひて之を見るを得ざりし扨て此日も暮れて十時頃に至り最早各區投票の結果も布告さるゝならんと待居たるに此の結果を調ぶるにゝ立會人ありて一々之を監査する等其他鄭重の手數あるが故に中々急には纏まらざ十二時前後に至りて始めて結果を警察署の前に貼出したり兩黨の選擧人共に結果如何と待に待て眺居たることなれば其貼出しを掲ぐる毎に双方最負の見物人ゝ黑山の如く群集し居り互に鬨の聲を揚げて勝利〳〵とて躍り狂ふもあれば負け方は又例の呻き聲を立てるもあり中々に大騒ぎなり尤も群衆の一番多く集まる所ゝ府廳の前なる廣小路なりき愛蘭人民の同府に出稼ぎを爲し居る者等ゝ職人ながらも各々其帽子に白き紙を付け之ゝ「行け、汝の國を救へ」の文字を書して之を正面に被ぶり三々五々相伴ふて歩行し居る者も見受けたり勝

是亦一手段手

早輸入來此風習以見此雜沓之狀

てべ勝ちし樣に負けれべ負けし樣に各々得意もあり小言もあり同夜は三時四時迄も廣小路の近處又ハ殆んど人通りの絶へざる程の賑ひぶりし扨て同日の結果ハチャンベルライン氏ハ勿論ヨョン、ブライト氏（何れも改進黨の先輩）も當選せしがチャーチヒル氏ハ反對の候補者の爲に敗ぶられ直ちに引返して龍動府内のバッテントンの區に出て是より二三日後に當選せり同氏ハボルミンハムにてハ迚も當選ハ覺束なきは畧ぼ知れ居りしも同府ハ常に改進黨の爲に蹂躙せられ保守黨の勢少きが故又同氏を請ふて先づ其候補者と爲せしものなり聞け左もあるべしと思ハる

以上ハボルミンハムの選擧區の有樣を畧記したることあがら投票の摸樣両黨の事務所の有樣其他都べて何れも先づ之と同樣と知る可し以下又ハ全体の選擧の有樣を畧述そべし

○問　然らば其大改選總体の有樣ハ如何

○答　大改選の爭ハ先づ其豫期の投票日の畧定まる時より漸々に始まることなれ其両黨開戰の端ハ先づ両黨の重なる黨員が其撰擧區の人民に對して銘々の意見書を發布する時より啓くるものと云ふて可なり此意見書の發布ハ両黨の中一方ハ先きに一方は後るゝ如き譯にて借は甲黨の方にて先づ乙黨をして意見を發露せしめ然る後之を攻擊するを以て勝を取らんと欲する時ハ成るべく控目にして自分の意見書を發布することをバ俟居るべく又た雙方ハ持論ハ畧ぼ平日より定まり居ることなれバ斯る駈引にハ關せず己れの必ず勝者たるべきの地位を恃み自から先きんじて意見書を發布するも有るべし一昨々年の如きはグラッドストーン氏が第一に其意見書を發布し保守黨の方之を俟ち受てけ攻擊するより戰を開きたる姿なり又両黨の中にて末流の候補者等ハ先づ其黨中の領袖たる人々の意見書の出づるを俟ち居り之に摸擬して己も亦た己れ相應の意見書を作りと之を其選擧區内の人民に示すことなり両黨共に其末流の候補者が只だ其黨の先輩の出したる意見書の骨髓共言ふべき箇條を簡單に少し許り寫し

具氏之先陣他黨不遂及焉

取り書き直し之を己れの意見書として出すもなか〳〵に笑しく興あり撰挙の時節に諸方を行き視れば處々の停車場の壁抔に其區〳〵の兩黨の候補者より出せし意見書を印刷してあちらこちらに貼付けあるもの多し又た候補者ハ右意見書を發布せし上に少くも一二回ハ其區内にて演説會を開くことなり又た其他各黨〳〵の内會を開きて躬方の勝利ヨ付色々相談抔もあり凡そ是等の諸會ハ皆な其區〳〵の重なる黨員が世話掛となり之を執行ふなり余等も知人に伴はれて一夕某區の保守黨の内會に赴きしことあり是ハ内會のことなれば先づ保守黨最負の譜代の人々のみ集まりて此度の勝利を得んことを相談するの會あるが見渡したる所五六十人計り あり白髪の老翁其半を占め日本にて言へば歳にも恥ぢぞと云ふべき程の人々が白髪頭を振立て、頻りに躬方の勝利を工夫する抔冷眼より見れば笑かしき程に熱心なるハ感ぞべき事なり

又た候補者の演説會も保守黨の方ハ先づ聽衆にハ豫め入場の切符を渡すことゝし聽衆をして勝手次第には入らしめざる向多かりし蓋し斯く爲さいれば反對黨の者共多く入り來りて妨を爲すの憂あるが故なるべし改進黨の方ハ概して自由集會ヨて切符を用ゆるに及べざりし者多し如何にも地方ヨ因て反對黨非常に多く劇暴も爲し兼ねまじき場合には切符集會を爲して聽衆を肆まゝに入れざるも時に取ての良謀と云ふべし後來日本抔にても國會議員選擧の節抔に一黨のみ非常に多く他の一黨非常に少く隨意集會を爲す時は他黨の爲に亂暴なる妨を受くるの恐れあるに當てハ是非共之を嚴制せざるべからぞ斯る場合にハ巡査を用ること通例なるべしと雖ども右保守黨の如く切符を用ひて集會を爲すの法も亦一の好手段なるべし

此一事足見改進黨勢力之強

又選擧の七八日前より其區内の處々に貼紙を出して之ヨ「何黨の候補者某を選擧せよ」と大字にて認めしもの多し或ハ「候補者某平和主義の躬方を爲せ」とか或ハ「某の主義ヨ躬方を爲せ」とか一二の詞附加へあるものも之れあ

り其貼紙の大さは通例二三尺四方のもの多し四尺以上のものゝ先づ見當らざりしと覺へたり扨て爰に奇異なるゝ黨に因て此の字抔の色を異がへ居ること是あり例へゞ右貼札の大字を書するにも保守黨ゝ必らず青色を用ひ改進黨は多く赤色を用ゆ故に其字の色を見れゞ通例敵躬方を區別し得ることなり去乍ら地方に因ては改進黨に青色を用ふるものも少からず保守黨よりは吾黨の色を盜みし抔と嘲けり誹るを以て見れば青色ゝ全休に保守黨の色なりしと見ゆ斯く青ゝ稀れに兩黨混淆する事あれ共赤に至てゝ保守黨の決して之を用ふることなし右の敵躬方の紛れを避るが爲に保守黨の中にゝ黃色を用ふる者もあり是れ蓋し保守黨の首領たりし故ビーコンスフヒールド侯が櫻草を愛せしが故に其花の色に象どりて遂に保守黨の一の色と爲すに至りしものと云へり又た青ゝ五色の中にて最も久しきに耐へて變せざるものなりとの意味より保守黨の方ゝ之を其主義に近く永續の義を表するものなりと爲し古き時代より之を以て其黨の色と

爲せしと云へり

○問　彼地にてメスメリズムと或はスピリチユーアリズムと稱へ一種不思議なる力を用ふる者之れあるやに聞しが果して如何のものなるや

○答　如何にも其事ゝ豫てより承ゝり居れりメスメリズム或ゝスピリチユーアリズムと稱ふる奇術家の内にゝ人の面部を輕く撫で擦る眞似を爲し居ること二三分も經つ時ゝ其の術を施されたる人ゝウト〳〵と眠りを催はし又たゝ庶術者の命ぜるが儘に如何なる擧動をも爲さしむる者あり又た頭の上をッと手にて撫る眞似を爲すこと暫時なる時ゝ其術を施されたる人の意中悉く見顯すことを得今ゝ爾々の事を思ひ居るならん斯々のことを欲し居るなるべしと之を探ぐり當てる事に妙を得たるものなり又た室を隔て他人が紙上に如何なるものを描きしか如何なる形ちを寫せしかを云ひ當てる者あり右は折々新聞紙にも見へ又た話しにも聞きたることなれば一とたび右の奇術家に出逢ひたしと思ふ心頻りに起り來れりさ

一聞忽疑其奇怪

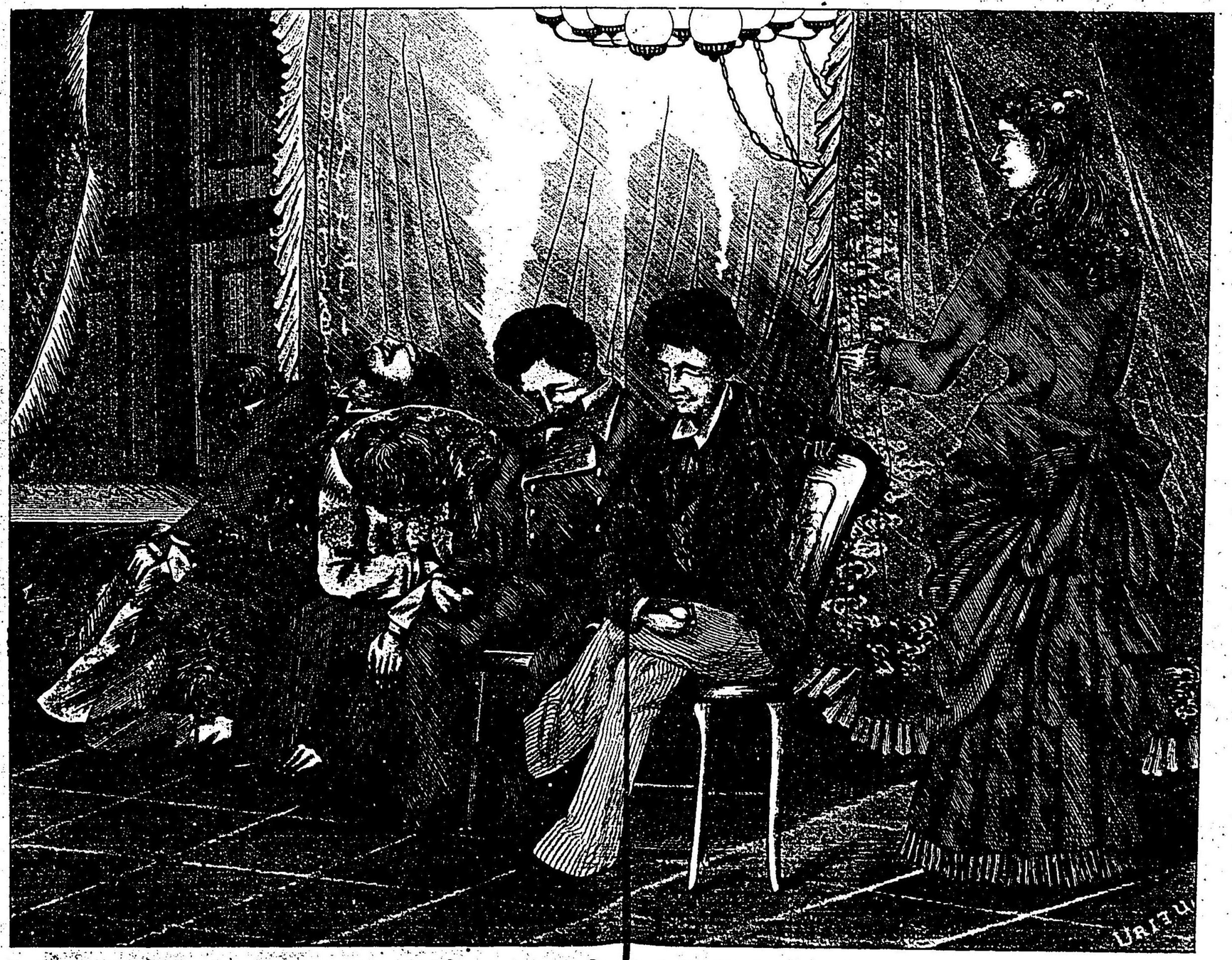
りながら餘り世間にありふれざるものと見へこれを見るの機會に出逢ひざりしを甚だ遺憾に思ひ居たり然るに一昨年の夏の末つ頃余等が倫敦西北隅に寓居せしに圖らぞ其の近所の街頭に右の奇術家現れたることを聞き出せり尤も通例の落語或ひ芝居の如く席を設けて此の術を施し見物人より席料を収る仕組みにて其奇術家ひ佛人マ・ダム某と云へる者の由頻りに評判せり且つ所々に貼り札抔も見受たりければ之を宿屋の主婦に語り「御身ひ如何に思ひるゝや斯の如き奇術は隨分實事に之ありと思はるゝや」と茶飲み話しに話したるに彼の主婦ひ「左れべなり先年我懇意の者が其妻を失ひしに跡に一二歳の小兒ありて毎夜母を慕ひ終夜眠らぞして泣き續けて居たりしが遂に不眠の病症となりて其の父親ひ無論親戚さへ甚だ難澁したりけるさりながら後にひ其小兒に夜中藥劑を用ひて眠らしむることゝなしたれども何分魔睡劑を屢々用ふるひ身体に宜しからぞと大に心を傷めける折しも幸ひ其の邊に眠りを催はさしむる奇術家ありけれべ之を雇ひ來りて毎夜其術を施さしめしに毎時も小兒ひ能く眠りたることあり左れべ強ち右の奇術の之なきにも非るべし」と答へたり「左らべ其の子ひ後年まで成長したりや」と問掛けしに「如何にも尋常の子供と異ることなく成人せしと親しく我知れる所なり」との答を得たれば今は轉た右の奇術を見物したしとの心を増し左れべ兎も角も行て其の模樣を試し見んとて二三人打連れて見物に出掛ることとひなれり

二 更に迷ふ虚實

偖て右の興行場に至り見れべ通常音樂抔を爲して人を集る場所なりけり先づ場内ひ芝居場の如く又た通例の寄席に髣髴たり向ふにひ舞臺の設けあり此方にひ上等中等下等棧敷あり殊に此の夜は既に大入にて見物人ひ七八百人も場内に充滿し居たり就れの國の寄席にても少しく入りのある時先づ第一に見物人の充滿するひ中等下等の場所にて上等の棧敷は明き間多きが常なるが此の場内も亦同樣にて大入なれども未だ上等の棧敷ひ滿ち居らざりしかば余等の連中ひ則ち此の棧敷にも席を定めたり尤も舞

臺より僅かに二三間を隔て居る所なれば都てのことを見物するにハ甚だ便利なる所なり

已にして彼の奇術家の婦人現れ出ると與に滿場喝采の聲宛ながら湧くが如くにて其婦人と云へるハ先づ三十前後の年齢にて美人と云ふ程にハあらねども其の人品も卑しからず如何にも佛蘭西人に一寸相應なる骨格にて其の身躰顔抔ハ與に少し平たく肥りある方にて髮の毛ハ黑く顔の色ハ雪を欺く程に白くして少しく赤みを帶び其上美事なる衣服をさへ着け居るまとなれバ適れなる品格にぞ見へたりける只た其の目元如何にも鋭く其の言語擧動ハ沈着にして最と靜かなれども底意の惡しき氣象自から現れ來り恰かも小說抔に形容せる魔法使ひの女と云へる容貌なりけり同伴せし宿屋の主婦抔ハ之を見て如何にも薄氣味惡き女かなと評したるばかりなり扨て此女の奇術家ハ先づ見物人に向て默禮し其の術の事に付き聊か演說せり其の大体ハ「抑もこの術たるや決して怪み驚くべきものに非ら



メスメリズム奇術ヲ施ス圖

ぞ理學上より其の理あるを諦め得べきものにて只其の力世人の耳目に物珍らしきがゆへに之を疑ひ怪しむものあれども右の大なる誤解なり」と云ふにありて何か理學に緣因せし樣に演說爲したり右終りて再び見物人に向ひ「我れ只今我術を試みたく思ひ候へば見物人の內より九人ばかり此所に御出あらんことを乞ふ又た茲に申し置くべきことあり此のメスメリズムの方多く感ぜる人と少く感ぜる人とあること恰も倘ほ電氣よ對して多く之に感ぜる人と少く之に感ぜる人とあるが如しされば我術を試みたる上にて其の感じ少き人もあるならん其れ節い代り人を求むべし又た我術を施ぞ問い我命ぞる所を守らぞして叶いぬことなり我が命を守らざれべとても此法に感ぜべきもれにあらぞ斯る人此方より相斷るべし能々此の旨を諒せられよ」と云ひ出したり

扨て何者が試驗を受けに來るやと思ふ內に下等棧敷の方より十餘人ばかり出來りしかば其內九人を取りて跡をば斷いり元の棧敷へと返へらしめ

たり何處も人情ハ同樣と見へ中等以上の人々ハ衆人にて斯る試驗を受けんが爲めに舞臺に上るは其品格に關することなれべとて上中等の棧敷よりハ一人として動くものなく我れ先にと出る者ハ皆な下等棧敷の品格を構はざるものバかりなり扨て此の受驗人等ハ舞臺に上るや否や其の數に應ぜる丈げの椅子を見物人に面して一列に並べ受驗人等をして一々之に着かしめたり此の時下等棧敷の方よりハドット一度に鯨波の聲を上げ手拍敲ひて騷ぎ立てしハ此の試驗を受けに出掛けたる仲間をはやしたると見へたり

扨て今や試驗を施こさんとするに方り彼女は受驗人等に打ち向ひ都て何事も我命ぜる如くに爲そこそ肝要なれ先づ各々右の手を出すべしと云ひけれバ受驗人等右の手を差出して掌を開きたり此の時彼女ハ懷中より直徑二寸許りと見ゆる碁石形の丸き平たき物を採り出して一々受驗人の掌の上に置き「我の留むるまでハ瞳を定めて一意此の品物を見詰め居るべし」と命じたり右の碁石の如き物ハ定かにそれと見分け兼ねしが其の面渦形を爲せる樣に見受けられたり扨て「其の儘に見詰めて我命を守るべし」と聞くより此方の受驗人等ハ皆な一同に脇目も觸ぜず其物をのみ一生懸命に見詰め居たりしが中にも心輕ろげなる者と見へ時々ヅロリ〳〵と見物人の方を打詠め或は彼女の顏を見る者もありけり彼女ハ斯くと見るより其傍らに近か寄りつゝ「左樣にてハ迚もこの術の行ハるべきものにあらぜ疾く〳〵棧敷に返るべし」とて一両人を逐返したり扨て五分或ハ八九分も經ちしかと思ふ頃彼の受驗人等ハ其の頭フラ〳〵と搖るゝ樣に見へたりしが一人二人其の坐し居る椅子よりバタリと倒れ其の儘に眠り居たり又た他の者を見れバ其手を詠めながらユラリ〳〵と睡り出し何れも久しからぬ內椅子より落ちて其邊に倒れたる儘睡りたり其時彼女ハ彼の碁石の如きものを一々に仕舞ひつゝ見物人に向て「メスメリズムの力を以て睡らしめたること斯くの如し又た是れよりメスメリズムの力を解き

三問驚奇術有驗

放ち受驗人をして元の如くに立ち返らしむべし」と云了りて彼の倒れたる受驗人の一人を引き起し己れの顏を打ち守らしめ其の面前にて左右の手を以て「八」の字の如き形を爲そこと四五回に及びし後ちハッと叫びて手を明くと共もに受驗人ハカッと目を見開き正氣付きたる有樣にて恰も午睡より起き出しもの、如く顏の彼方此方を撫で擦りつゝ伸びしたるバかりなり彼女ハ斯くの如くして一々受驗人の目を覺まさしめたる後ち彼等に向ひ「如何なる心持せしや足下等ハ今睡りしが如何なる譯にて眠りしや我ま語り聞かせよ」と云ひければ彼等ハ「如何なる譯ま や只眠りたるのみにして其譯を知らぬ」と答へたり

夫れより双た受驗人を一列に並べしめ我が顏を見詰めて我爲す通りに爲すべし」とて先づ直立して左右の手を一文字ま開き再び之を合してハ開き開きてハ合し斯くの如くすること十餘回なりしが其の後ちハ受驗人等自ら止めんと欲するも止むること能ハぬ恰も海邊にてウナ蟹と云へる蟹が爪を上げて幾回となく打續けるが如く又機械の運轉するが如く右の七八人が均しく体操運動を初めたるまハ余等も覺へぬ失笑したり此の時彼女ハ見物人に向ひ「若しメスメリズムの力を解かざれば御覽の如く幾時間も此の開合運動を爲し續くべし最はや十分御見物になりたれば是れよりこの力を解き放つべし」とて一人づゝ以前の如く兩手を「八」の字形に爲すこと二三回にして其後ちハッと叫びて手を打てバ受驗人ハ各々ダマゲたる如く茫然として其運動を留めたり斯くて後ち又云ひけるやう「此次には二人宛聯合せしめ見るべし」とて二人を一と組と爲し各左りの手と右の手を一つに組ましめ兩人の肩を密接せしめ然る後其の襟元より肩の邊を何か頻りに撫で廻ハして居たりしが暫くして受驗人の組合ひたる者ま、向ひ「君等の力にて今互ひに組み合ふたる其の片手を與ま引き離れぬ然れば善し君等の力にてハ到底引き離し得ぬと思ふや「我之を解き遣かハすべし」とて又た肩先より襟の邊を撫る眞似を爲し手を打て何れも其手を引き離し見るべ

讀者亦當失笑

し」と云ふと右の者等は其の組み合ふたる手を容易く別々に引き離すことを得たり

○問　引續きメス、メリズム試驗の摸樣を承りたし

○答　扨て例の刻限に彼の場に至り、余等の一行ハ雇ひ入れし者共を皆なそれ〳〵の棧敷に入れり兎角して幕も開き彼女ハ例の如く現れ出て又た例の如き口上を述べ見物人の中より十餘名來るべしと求めたりスハや今こそ余等の雇人も出づべしと眼を注で見てありしに大勢の望み人の中より先づ十餘名ハ舞臺に出ることゝあれり其中に余輩の雇ひたる者二人丈け入込むことを得たり左ちべ此者共が如何なる力を感ぜるやと片唾を呑んで見てありしに其一人は試驗を行ふに及べゞしてムザ〳〵と刎ね出されたり今一人ハ後に遺りしかべ先づ好しと思ひ居たりしに問もなくして其の者も亦た遂に刎ね出され余輩ハ甚だ失望したりしことなりしが又た能く〳〵見れべ舞臺に昇りたる受驗人の中の二三人ハ先夜も舞臺にて見掛けたしり受驗人に相違なく慥かに其の顏付きに見覺へありけれべ扨てハ一杯食ハせられたりと早や茲に感付きしかべ尙ほも其心して都ての事に注意するに疑ハしき事のみ多かりし斯くて其夜も打ち出しとなり皆な打ち連れて歸りし後ち余等ハ彼の雇人等に向ひ「汝等ハ如何にして只だ二人のみ舞臺に昇りて他は昇り得ざりしや」と問ふに、後逸の棧敷より上等の棧敷の間に一二の關門ありて嚴しく取締り容易に人を入れゞ何か譯ある事にや其關門を取締るものが隨意に人を選みて舞臺に昇るべきものを定むることにて我々は眞先に飛出したれども右の關門にて支へられたり」と答え又他の雇人か「彼の舞臺に昇りて受驗人に用ひらるゝ中にハ余の知れる男あり彼ハ毎夜舞臺に昇るなり定めて彼女と彼との間に何等かの約束にてもあることならん」と云へるも可笑しく又た其の他の樣子を見るに甚だ不都合なることのみなりければ余等の仲間にてハ「扨てハ一杯喰ハせられたるに相違なし」とて果ハ笑ひになりしが兎にも角にも余等の募りに應

四　明初知彼等非基眞理學而一種詭計

じたる者共を其の儘に返へさんも氣の毒なれば迚各々一二シルリングの金を與へて返へし遣りたり右の始末よて余等ハ十分に試驗を爲すこと能ハざりしが先づ其乃時の有樣ハ右の如くなりき

推測洵的中

若し深く疑ひを懷きて右の事情を判斷すれば彼女の用に供そべき若者を豫じめ廿名若しくハ三十名雇ひ置き是等をして毎夜替る〳〵入迚ひに受驗人たらしむるものなるやも亦た知るべからぞ或ハ彼女が試みに豫じめ其の術を施し其の力の能く感ぞる者丈け撰みて之と契約を爲し置きて見物人の前にて之を施すものなるやも亦測るべからぞ多分右の両樣の外ニハ出でざるべしと思ハる何人と雖も十分右の力に感ぞるものハなきハ明白なる事實なり如何に物好きにもせよ同じ受驗人が毎夜舞臺に現ハるハ兎に角怪しき事柄にして其の力の不十分なるを証するに足るべし右ハマダム某と云へる女の力乃みに就て斷案を下したるまでなり然れども廣き世間よハ如何樣の事有んも知れざれば世上のメスメリズム、スピリチュアリズムハ概して皆な右の如しとハ云ふべからぞ其の後彼地にて人に逢ひ偶ま此の話しに推し移る時其人々の話しを聞く其の力に感ぞる者も稀にハあることなりさりながら十分に感ぞるにハあらぞと云ふ彼地に遊びし人の中にハ定めて右の類を見分せし人もあるならん余等が出逢ふたるハ右のマダム某一人にして其の他ハ不幸よして之を實驗することを得ざりしなり

○問　西洋の芝居ハ如何に候や西洋よてハ王公貴人も表向き芝居に參るを憚からざる程に芝居の品位高く從て役者の身分も立上りて取扱ハるハ樣承候如何

○答　大間違に候芝居ハ西洋とて日本とて何れも同じく衆人の觀せ物に致候ものよて其座主の心持ハ是の興行にて何卒澤山儲け度と思ひ狂言作者の心持ハ是の書下にて何卒見物に面白がられて報酬を滿ッチリ貰ひ度と思ひ役者の心持ハ何卒是の役にて見物よ悦ばれ給金の昇る樣爲し度し

と思ひ胥お歸する所ハ金儲けにある有樣ハ誠に簡單無造作、罪も僞もなき處にて西洋も日本も毫しも異なく候役者中にハ隨分心掛宜しく材藝も研き品行も正しく士君子の間に容れらるゝ者も一二ハなきにあらぞ候へ共是ハ其者の心掛宜しき故の事にて役者ならぞとも材藝品行兼備ハりたる者何とて人に賤まるゝとあらんや是等ハ別段の話にて先づ概しある所役者ハ正當の者とハ認められぬ方なり西洋ハ女役ハ女役者にて務め男役ハ男役者にて務め芝居ハ都べて男女入雜りなり左るに是の女役者なるものハ恰も日本の藝妓と申す形ありて陰にハ種々媚を献じ嬌を呈するとを恥ぢぞ貴族富豪抔の少年子弟の之がため身を持ちくづそハ少からぬ事に候又男役者の方にありても色々不始末不身持の行迹を致すもの多く凡そ家風正しき士君子又ハ年若かき娘ある家抔にてハ役者を近づけ候事ハ一切嚴禁と致すとにて尚そめにも役者を近づけ又ハ之を出入り致させ候抔の噂相立つ事ハ尋常の良家にてハ甚だ不面目と致す事に候なり前にも申す

外國亦如斯乎

加く元が紅粉を粧ひ聲色を弄そびて衆人の觀せ物慰み物と相成候者の何とて立上がりたる身分として珍重さるゝ道理あるべきや又た王公貴人の參るを憚からぬと申すハオペラ(假りに能と譯はべし)のことにて尋常の芝居(シヤヤター)にハ決して其樣の事之れなく候尋常の芝居ハ隨分夫れ相應に卑陋の事共も少からぞ無論王公の覽に供ゆべき品位のものにハ之れ無く候

○問　芝居とオペラとハ如何なる差違のある者に候やオペラハ王公貴人の見物をも添けなふする程の品位のものに候や

○答　芝居ハ日本の芝居と同樣なる事ハ前にも申したる通りの次第尤も其仕組セリフの工合又ハ道具立の有樣小屋掛りの造方等に至りてハ流石に文化の異なる丈に異なりたる處色々之れあり候へ共大体の上ハ矢張り芝居にハ紛ぎれ隱れなく候オペラの方ハ先づ假りヨ日本ヨ引當てゝ見なバ能と申す處なり役者の舞臺にて述べ候セリフハ一々歌となり居り皆雜

し方の雖しにつれて之を唱ふ事なり故に悲しき處ハ沈みたる細き調子を
なして文句をも長く引き怒りたる處ハ揚りたる太き調子をなして文句を
も短く促みかける抑聲韻に種々の加減上下はあれども兎に角一切悠永な
る歌唱を以て問答應對する事なれバ從て手足の動かし方仕打萬端尋常の
芝居とハ遙かに異りたる趣をなそ事に候日本の能がセリフハ謠譜にて述
べ手拍子足拍子共一種の舞の態をなそと善く相似たるものなり左れど先
づ其オペラと能との相殊りたる重もなる個條を擧れバオペラにハ脚色の
樣子によりてハ幾人も〳〵の役者一時に舞臺に現われ出で、彼此交々セ
リフを唱へ立てる事尋常の芝居に異ならぞ能の役者のシテとワキとに限
りたるが如きに非ぞ又た舞臺の書割飾付尤も念入にて山なれバ山、城なれ
バ城、座敷ハ座敷、町中ハ町中、と恰も具物を見るが如き精巧なる道具立を用
ると尋常の芝居に異ならぞ又た役者の扮粉衣服よ至りても務めて花々し
く綺麗びやかなるを用ひ皇后一人現われ出れバ其裝束につける金銀珠玉
摺箔縫箔にて舞臺一面炫やきわたり又た一場の劇廷を描き出せバ百官有
東西同一輙鳴呼妙哉抑都べて涙出〳〵しきと能舞臺の簡古樸茂なるの比に非ぞ左れどオペラ
に演する世界ハ謠譜の如くに幾番と云へる番組こそなけれ其作者ハ皆な
昔時の大家にして前に古人なく後に來者なしと申す擇抜きの名人が心を
凝したる中の又た傑作と稱せる者のみにして中々に近今の文人の一時漫
然筆を執りたれバとて之とオペラ舞臺に演せらるゝものに非ぞ茲等が西
洋にてオペラと芝居との大差違ある所にて芝居にハ新作者新作物代々之
あり候へ共オペラハ昔より傳へ來りの世界の外新作物の侵入するを許
さぞ是れ恰も日本にて芝居にハ近松並木の後に世々河竹あるを得れども
能は内外二百番の上に一番を増し得ぬと同樣よハ候ハぞや又脚色セリフ
に就て申候もオペラハ芝居の書下の如くに卑陋なる事野鄙なる事淺墓な
る事淺間しき事の類ハ甚だ少く均しく男女の間柄を描し候にも今の俗世

八情之所嗜好

界を今の儘に寫したるものと異なり候が故只だ優にやさしくして何となく氣韻の高き心持致し又た同じ憤恚の詞を吐くにも恨むが如く訴ふるが如く自然に餘味を存する抑ゝオペラ擅場の處と覺へられ候其品位格式の高きとゝ亦た恰も日本の能が芝居に於けると善く相似たるに候ゝそやオペラは斯く品格の高きものに候故是こそ王公貴人の覽に供ゆるも耻しからず王公貴人も之に臨て物体の下ると申す程にゝなき事に候左きゞ西洋にてゝ現に宮廷附屬のオペラ舞臺ある國々少からぞ德川氏の時芝居ゝ河原者と申せどお能ゝ朝勤會同の燕にも備へ置きたると同樣の譯なり又た世界の日光とも申すべき綺麗第一を誇こる巴里の大オペラ舞臺ゝ那翁三世が列國王公貴人の游び處とせんため念に念を入れて普請したる者にして今に於き毎年佛國政府より幾何の保存補助費を給する所に候又た伯林にて王宮の直ぐ並らびに小さなるオペラ舞臺あり今の維廉ゝ常に屢々此に臨む由に承候是の如き次第にて王公貴人のオペラに參るとゝ表向き面目に關すると毫も之れなく公然見物致す事に候尤も芝居とても國中第一と申す大芝居にて平生より品格も極々上流に置かれたる者にゝ間々王公貴人の見物もおきに候ゝねど是ゝ希有の事にて且何れかと申せゞ物体にも宜しからぬ方にして先づ通例ゝ王公貴人の目を樂ましむるゝオペラと定りたるものに候

○問　日本の能の變体たる狂言と申すが如き類ゝ西洋には之れなく候やと狂言との如き關係を有し居候へ共是の滑稽オペラゝ頗る下りたるものにして新作物も勝手に出來一体の樣子向き何かと鄙しく覺へ候成程セリフゝ大抵歌唱にて述べ身振ゝ多く踊りの態に致す抑オペラの變体とゝ見受けられぞも日本の狂言の如くに名人の傑作を選りて番組を立あるが樣ある品格にゝ參らぞ候先づ目前花々しく賑やかに女子供の悦やぞなる工合に拵へたる者に候

○問　日本の俄と申を樣なるものゝ之れなく候や

○答　西洋にも滑稽芝居と申がありて尋常の芝居の前幕に一寸一ト切出し候事多くあり左れども東京にて致す俄茶番大坂にて致す俄狂言抔の如く扮粧を異樣にし厭ふべき身振仕打なし見物を强迫して無理よ笑へ〳〵と責め立てる同樣なる拙劣の譯のものにゝ御坐なく又た故さらに姪りが間敷事厚顏しき事を述べ立て並べ立てゝ見物の憫笑乾笑を買いんとするが樣なる卑陋なるものにも御坐なく一寸見たる所にてゝ仕打抔も何の事なくサラ〳〵と爲て了けるが如く裝束迚も別段に格外異樣のものを着たるにもあらねど只だ之を觀るうちに自然腹を抱へる樣に相成るなり例へば麁卒かしき男が或る娘を尋ねたる處にて其娘の氣に叫ふ樣面白がる樣なる話なさんとて頻りに手を振廻いし乍ら喋べり立て居るうち鈕の留め方や惡しかりけん左りのカフス（白襦袢の袖口に蒙ぶせある飾りなり）スポリと拔けて膝下に飛散るを忙しく拾ふてテーブルの下にて娘に見へぬ樣に揑める是時其男の話の調子を變へて娘に悟られざる樣との心配心急く儘なか〳〵にカフス揑まらぎして益々氣焦燥つ工合氣焦燥に從ひ頻に手を挿きて身体甚だ穩やかならぬ格好抔別に其男が妙に變な身振長々となすにもあらぎ只拾ふて二三度揑め損なふ儘々四半分か廿秒かの間の所作なれども鈕の歪がみたるも失禮とぞる作法嚴しき國にありて婦人の前にてゝ別して行儀を正くする習なるに殊に是男別に詞や色にこそ出さね是娘に懸想せる趣ゝ疑ふ可らぎ左るに我が屬意の婦人の前にて其氣よ叶いんと勉强して話す折も折とて是始末なれバ其心中の周章狼狽推量るべく思ゝぎも噴き出さゞるを得ざるなり是ゝ唯だ一ト幕の内の一事を擧げたるものなれども同じく男女の間柄の模樣を種子とするにも其趣の立上がりて品よきと足の如し以て其他の事其を御類推あさるべく候又彼の談下手の人が可笑しき事柄を談ぞにゝ己れまづ唖々と自ら笑ひ乍ら談しかゝれども談したる處にて聽者にゝ存外可笑なく又た上手の人ゝ地味に徐

周章之狀如見

我不遠及

々と談せども聽く者ハ頤を解す抔の相違ハ乃ち日本の俄と西洋の滑稽芝居との摸樣の異なる所と覺へられ候故に第一に品の上下第二に技の巧拙と是の二ッの相違の彼此の間に存することを御合點なさる可く候

○問　芝居オペラ等惣体小屋掛り舞臺棧敷抔の有樣如何に候や

○答　小屋掛りの大体よりお話申せバ四角なるもあり三角なるもあり外廓の形ハ其場所の廣狹近旁の家の建込方によりて一定せぬ候舞臺棧敷の位置ハ概略皆な一定にて舞臺ハ正面に「一」の字形に横たハり棧敷ハ舞臺の両端に付け根より半月の形を成して連なり對し居候に絃極めて短く弓幹極めて長き弓ありと假定むべし絃ハ即ち舞臺にて弓幹ハ即ち棧敷なり舞臺ハ日本の樣よ幅廣くして奥行狹く短冊を横にしたる如きと異がひ幅と奥行と相似て恰も式紙を置きたるが如くに候棧敷ハ四層乃至六七層も重なりて段々になり居り恰かも棚の如くに候是の半月形の棧敷と「一」の字形の舞臺との間ハ廣く平にて日本にて申す平土間の處に當り申候一寸見たる所にて第一に日本と相違をるハ舞臺に花道の無き事と雛方の平土間の最前(大阪邊にて咬附と稱する處)に控居る事となり平土間の中央より後の半分ハピットストールとて極賤すき處なれ共其前の半分はストールとて甚だ貴き處なり是のストールの前即ち舞臺の床の付け根の處を一區畫丈仕切りて雛方ハ茲に見物を背にし舞臺に向ふて陣取れり尤も地ハ堀凹ばめありて雛方の頭ハ皆な床よりも低くなる樣におしおれバ見物の目障りになることハなけれども ストールの最前に坐せる見物ハ最後に坐せる雛方と手の屆くまでの近くに相接せるとハ接し居候

○問　雛方の外に床の淨瑠璃又ハ呼出しの陰歌抔申す類ハ之れなく候や

○答　左樣之れなく候

○問　然らバ唯だ樂器にて雛立候のみに候や

○答　左樣

○問　然らバ前面に坐せる雛方一と組の外は何もなく候や

○答　否、時ありて幽かに悠遠なる響の颯々として地底より湧出るが如く聞こゆることあり是時前面の囃方ハ一同に手を歛めて靜まり居候是床下か或ハ舞臺の背にて奏る事と存せられ候但し是ハ常に有る事にハ之なく候

○問　幕の工合ハ如何に候や西洋にても矢張最負連より幕を贈る抔の事あり候や

○答　幕ハ皆な釣上げ釣下ろす事に候西洋の舞臺ハ天井甚だ高くして舞臺の幅ハ割合に廣からぜ故に釣上げ釣下ろす方便宜にて曳く方ハ不便に候尤も曳き幕を用ひざるハ必しも舞臺の幅に關する譯にハ候ハねど打見たる所の体裁より申すも左樣に候又幕ハ其座附の幕一張あるのみにて他より贈る抔の事ハ之れなく候

○問　然らば役者抔最負なる者ハ如何よして己れの最負を示し候や

○答　示すよも及ばぬ事に候最負なれば屢々其芝居を見物に參るべく候又た強て其意を先方に通じ度べ手紙を遣ハすも宜し公衆に觸れ度べ新聞に投書して其旨を吹聽するも宜し尤も貴族富豪の子弟が愛顧の女役者を招聘する抔ハ又た別種の事柄に候倫敦巴里抔にて所作事の終りたる處にて見物より藥玉の如くに圍るめ飾りたる花を卽座に其女役者に贈りたるを見し事ハ折々之れあり候是等が眞よ花を持たせたる者とも申すべき歟但し是迚大芝居にてハ餘り見掛けたる事御座なく候又男役者の貰ひしをも見掛けたる事ハ御座なく候

○問　近來ハ東京も芝居小屋段々宜敷相成り候新富座千歳座抔ハ隨分美事あるものに候ハぜや西洋と比較致したる所にて如何に御考相成候や

○答　誠に殘念乍ら是ハ比較にも割合にも掛り申さぜ候餘りに懸隔方の甚敷候故何よりお話し致さんかと立迷ひ候先づ其方より御尋下さらべ之に應じて御答申すべく候

演劇場猶且然況他物乎

○問　棧敷にハ矢張ケットでも敷きあり候や

○答　敷物を敷きたりと申すより一切錦(日本にて云へべ)を以て經ふたり

不覺之者或疑非答者之誇張邪

と申す方適當なるべく候大抵赤色の極厚き毛氈を以て一切包み廻ンし柱も凭欄も椅子も悉皆同樣同色なり何處ゑ觸ンるもブク〳〵としてシナヤかなる事何か手近く喩へて申さゞ左樣〳〵先づ別製の人力車の內張りの如きものと御承知あらゞ捷徑なるべく候又芝居によりてン上等の處にン綾の幔幕を垂れたるも之れあり候

○問　平土間ン如何に候

○答　桟敷の外ン皆な一人腰掛の椅子を平一面に並べたるものに候桟敷の方ン素より一ト間々々仕切ありて其中に備へある椅子ン一個宛何處へなりとも移し動かそと自在に候へ共平土間抔の椅子ン一人宛に分別こそ致しられ跟脚ン一聯一串にて作り付けに候故に平土間に並び居候者共を上より眺むるときは小學校の子供等が教場に坐ンり居る時の工合に似たる者を御會得なさるべく候

亦足以徵其國風之嚴整

○問　其平土間の椅子ン少しン綺麗に候や

○答　少し處にン御座なく異常に綺麗に候滿團ン皆おパチ入り肱掛ン皆な小枕付きにて其切地ン極厚き毛氈又ン綾の類に御座候

○問　日本にて土間の前を低くし後を高くし惣体に勾排を着けたるン見物に便利なる仕組に候何れ西洋にても斯く致しあるとゝ存候如何

○答　左樣に候西洋にてン土間の外桟敷の區畫の致方にも氣の利きたる事を致居候御承知の如く日本にてン桟敷の間の仕切ンン只低き馬堰板を入れたるのみの事に候へ共西洋の桟敷は悉皆別室の如くに隔て了りたる者に候故若し日本の通りに舞臺と平行線に仕切りてン少し後邊に坐ンり候ものン隔ての壁に障へられて馬車の馬同樣己れの對面を一直線に視るより外何も視能ンぬ事と相ひなるべし故に之を避くるため東西兩側の桟敷は皆な舞臺に向ふて斜めに仕切あり候恰も矢の羽が兩側より鏃の方に斜めに向ひ居候と同樣の狀に候是等も初めて見たる私共の目にン異樣に覺へたる一個條に候

○問　燈火の工合ハ如何に候や

○答　燈火ハ電氣瓦斯等種々交じへ用ひ候通例小屋の中央に天井より下げある大燈火などハ數千(誇張の數にはあらず)の蠟燭形の瓦斯火(瓦斯の火口を蠟燭の形に致したる者)が團々と相聚りて大きく椎實狀に相成り居り其間に球樣の電氣燈を交じへ挿さみたる工合黃色白色の火相映じて陸離、彩を成し明かるき事も甚だ明かるければ美くしきこと亦た極て美くしく候是の椎實狀の大燈火ハ建物全体の廣狹によりて無論大小のあるとに候へ共大きなる分にて其最も太とき處ハ直徑二間以上あり候

輝耀之狀爲欺白日

○問　舞臺廻はりの燈火ハ如何

○答　尤も妙を覺候ハ舞臺の前端卽ち雨落の處の燈火に候雨落の處を少し斜に前端の方框內まで切下げて是の窪處に燈火を仰むけ置とに候故に明るみハ十分舞臺に照りわたり乍ら見物の目にハ框が障とありて直接ま燈火の光体を認むることなし左れバ蠟燭の如く見物に眼花となく又たブリキの蔽をつけたるが如く目ざわりとも相成らぬ事に候一寸したる事乍ら氣の利きたるものに候ハぞや

好結構

○問　舞臺の飾付ハ如何に候や

○答　斯く申しては何か些と繪畫論の領分に踏み込む樣に候へ共全体繪畫の巧拙の差ハ無論の事として扨置くも西洋の繪畫ハ彩色に富居候故同じ雲の色を描き候にも嵐の彩を點じ候にも如何にも眞物を面のあたりに見る樣に覺へ候加るに倒の燈火の使ひ方甚だ巧みにして借とへバ森谷の場を現出し候ときハ前の方に群樹交錯の狀を描き樹身、樹柯、樹葉の外をバ悉皆切り拔き恰も眞物の如くにせるを飾付け其背後に又た種々木石を排置しある上に天井より斜ま綠色の燈火一線を差して是の群樹と背後の木石との間の空隙を照らすが故恰も太陽の光の鬱茂せる枝々をくゞりて蒼然の色を成せるが如くに見ゆる事に候又た其道具ハ一切上に鈎上げるか下に繰下ろすかの二ッにて其仕掛も至て整ひ居候故幕の間ま槌釘相觸る

彩色之妙加有配置之妙眞僞殆不可辨

、響丁々として常に人耳を亂だす樣の騷動之れあきまの亦た快き事に候

○問　芝居の事の一應大略を承りしが尙ほ詳細の摸樣の如何

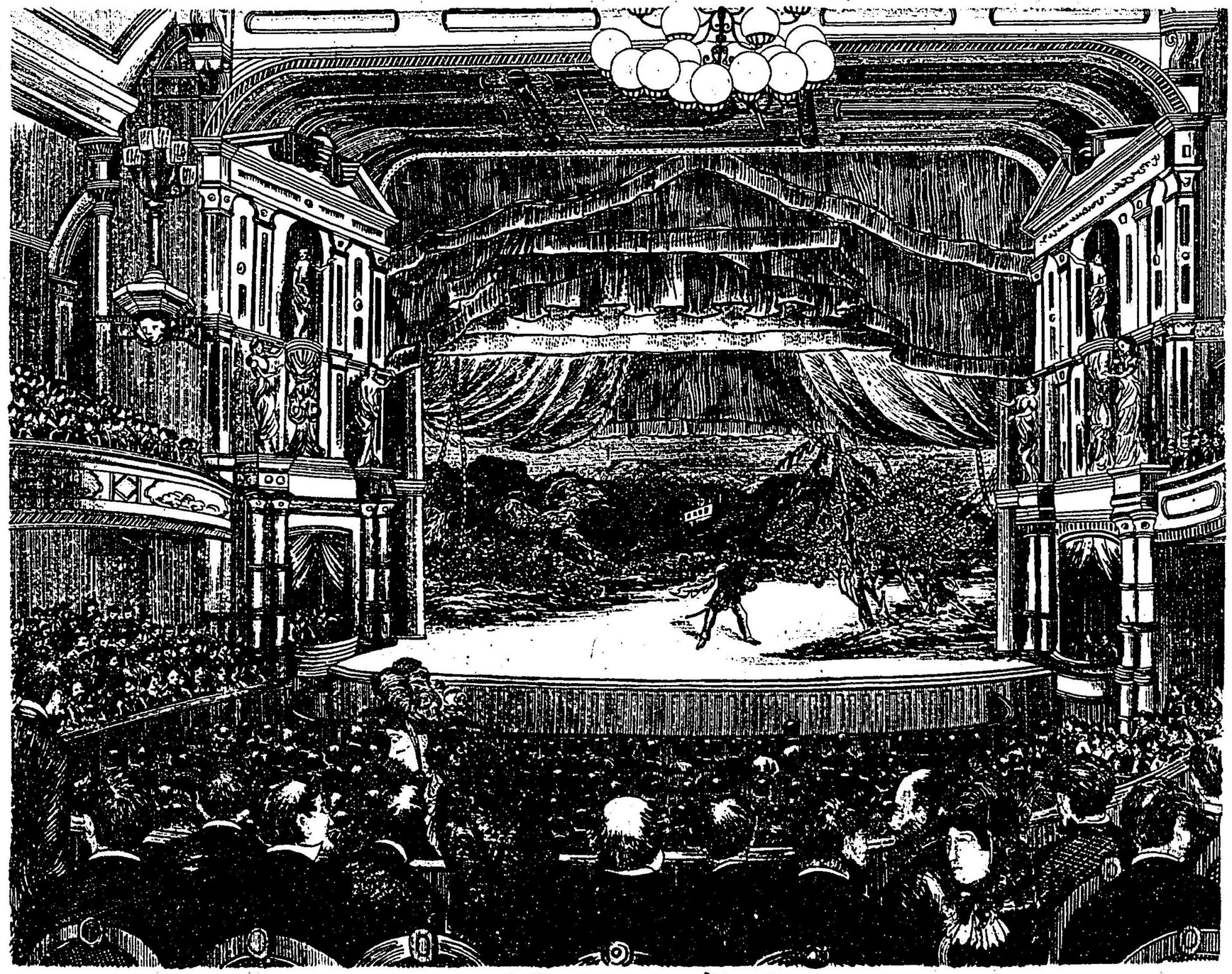
○答　當節の日本にても芝居改良抔と芝居の事の世間の談柄となり居るが故に少しく詳細の處を述んに嘗て記したるが如く彼地にも芝居に色々の種類あれば一寸之を我國の芝居と比較して言ひ易からざる場合あり然れども今ま先づ日本にて盛んに行はるゝ通例の芝居なる者と粗ぼ同じ種類のものを引き來りて双方の異同を示そべし尤も余等の日本の芝居に精はしからざれば道具立、所作事、其他の名稱に至ての專門家より之を觀ば必らず不都合なる處もあるべし去り乍ら先づ一通りの事を左に述ぶべし東西與に人情の左して異りなきの實に爭ふ可らざる者にして我が芝居と彼の芝居と善くも相似たる所あり其の一例を擧ぐれば我國にてダンマリ抔稱し賑やかなる處より俄かに變じて寂寥たる暗中の摸樣と成に至ては其の闇くなると共に幽かに沈みたる繁き音色の三味線となりチ、〳〵〳〵

不期而符合者

チン抔と寂しき調子を見はるとあり彼芝居にても三味線をこそ用ひざれ是と同樣に如何なる樂器あるかの知らねども明闇俄かに變じて暗中の光景となる時の亦た微かにチ、〳〵〳〵チンと寂しき音色を奏するとあり是等の双方與に幾ど符合したるものと云べし又た我芝居の彼より勝されりと覺へられ彼に無くして我に有る所のものの床の淨瑠璃の仕組なり其の一例を擧れば我方は在ての舞臺にて喜怒哀樂或の沈默の所作を演するに當り當人の勿論無言なるに床の方にて三味線に合せ文句を語り舞臺は動き居る當人の胸中を說明することと通例なり然るに彼方にての一切斯る仕組之れなく事を叙し或の當人の所思を見物人に示すにの當人が獨語を述べ立てゝ自ら之を說き明すことなり之を區別すれば我方の當人が默して傍らに說明者を置き之を述るに彼方にての當人が自分自身に獨語にて之を演說する譯なり此の區別の則ち我芝居と彼芝居との間に大なる相違を生せしめたりと思はるゝ所多し彼方に在ての舞臺にて動く當人の外の

傍らに説明者なきが故に當人が胸中を説き明す獨語の處ハ最も大切なる關目をなし其の文句抔ハ最も作者の力を要することなり又た役者の之を演説するにも其の言廻しに大なる巧拙あり皆な茲を競ふて骨を折ることあり故に然るべき演説風の文句ハ自ら彼方に多くして我方に少なくなるの傾をバ生ぜべき筈の譯なり

右の獨語と淨瑠璃との區別ハ著しき彼我の異同なるが果て其孰れが優り孰れが劣ると云ハヽ双方共に各々一得一失にて塲合に因てハ當人の獨語するも似合しからぜ矢張り日本の如く傍らよ説明者ありて文句を述べて之を説明する方の優れる處もあり又た彼方の如く當人自ら説明して傍らより他人の説明せざる處の優れる處もあり一概に一方のみ必ず優れりとハ斷じ難し左れバ逆やりて彼の眞似のみなすも如何あるべき歟先づ淨瑠璃の仕組抔ハ日本の劇場中に自然と生じ來れる一種の妙味なれバ之を存そるも然るべしと思ふ向も定めて我芝居學者中に之ゆるべきことなり



演劇場之圖

日本にても能樂ハ彼の芝居の如く當人自身にて萬事を説明する仕組にて先づ舞臺に現れ出ると「是ハ義經殿の御内にて忠信と申し候」抔と當人自身に名乗り出で萬事胸中を獨語するなり稍や彼の芝居に似たる趣と云ふべし蓋し我國の普通の芝居ハ元と或ハ人形芝居なれば一方の淨瑠璃の説明者ありて人形が身振りを爲すのみなりし仕組の世と共ゐ推移りて遂に役者の動く今日普通の芝居にも其典型を傳ふるに至りしもの歟兎に角に此の一事ハ我ハ彼に劣らざるのみならず或ハ優り居るものなるべし

又我國にハ出語りとか稱し所作事を爲を節にハ音樂人一同異樣なる上下抔を着け舞臺の上ゐ現れ列なりて音樂を奏することあり斯る事ハ彼方の芝居にハ一切之なきことなり尤も嘗て記せしが如く音樂人ハ十五名二十名若くハ三十名打揃て黑の禮服を着け白襟ゐてソレ〳〵樂器を携へ舞臺の下土間の最先きに出席し見物人と同樣舞臺の方に向て並び居ることなり故に舞臺より見物人に對して云へば先づ第一に音樂人其の次に土間の見

上下者我國舊時之禮服彼既服着禮服是亦不期而符合者乎

物人並び居る譯なり

○問　彼地の芝居にて慘酷の所作をべ慎で避るとの事ゝ加何

○答　彼方にては上等の芝居程慘酷の事をべ甚だ慎み之を見物人の目に現ゝさざるなり例せべ然るべき人物が打合て一方ゝ小腹を突かるゝ体あるとせんに其の突れたる方ゝタヂ〳〵とヨロメキて傍の柱壁抔にも寄り掛る拍子にバタリと倒れ其の柱の蔭になりて最早や決ゝ見へぬなり苦痛し乍ら死する有樣抔ゝ多く見物人にゝ觀せぬことなり又た餘義なく血の出でしを現ゝを時にても只白シャツ抔に一二點の血痕を示す迄おり從來日本の芝居にて最後の時赤色の真綿抔が腰の邊より垂ら下り又た其口中よりゝ血を噴くなどに比すれば實に雲泥の相違あるなり總体に彼地の社會は行儀正しく猥褻慘酷のこと言語にさへ慎しむ程の世の中なれば芝居抔も斯くあるべきは怪しむに足らぜ又た日本の社會の都て無作法不行儀にして士君子と雖も衆人廣座の中にて直ちに歌舞の物語りを爲す等の不取締りなる世の中にてゝ芝居も夫れ相應に無作法千万なること多きも亦餘義なき次第なり但だ後來ゝ今少し改良したきものと思ゝるゝなり

又た彼の芝居にゝ日本にて云ゝゝ花道なるものなし只だ舞臺の左右なる両角の口より出入を爲すのみなり日本の芝居學者中にゝ花道の事ゝ付て大議論ありとか聞しが右の花道も一種の物にて是も德川氏昇平中に我芝居の進歩したる一証あるべし遠方さして去る有樣或ゝ遠方より來る有樣抔形容するには此の花道の有ると無きとゝ大なる興味あることなり然れべ我々ゝ不巧者ながら他日然るべき大なる劇場の出來することあるも此の花道ゝ日本の芝居に一種固有の物として存し置くこそ却て外客などの目にゝ賞美せらるゝことなるべしと思ふ

○問　彼地の役者舞臺等の有樣は如何

○答　日本よてゝ女ゝ女のみ一座男ゝ男のみ一座にて一座を興行することなれども彼の地にてゝ一と芝居に男女混淆して男役ゝ男女役ゝ女にて

婦來種言男撰不
人有不風子粧及
生一可妻雖更

之を務むる故人情を寫そにゝ甚だ都合好きこと多し去り乍ら女役者と云へる者は隨分世間の風儀を亂ることにて女役者の爲めにゝ種々の事を惹起したることも彼地にゝ澤山之あるなり然かし是も強て咎むべきことにも非ざるべし若し後來我國の芝居に男女を打混ぜることゝ爲せば夫にても宜しかるべし年老ひたる男が如何に粧ふとも女の身振りを爲す處抔ゝ餘り見好きものに非ぞ孰れと云へば女の役ゝ女役者の勤むるこそ興あるべし其初めゝ我國にても男女打雜りの由なりしが女役者の風儀を亂ること甚しきより幕府の爲に禁制せられ遂に今日の如く男子のみの世界とゝ變じたりと云へり左もありしならんと思ゝる

何事に限らぞ芝居の世界にて彼地の方優れること多き中にも先づ劇場の建築結搆の綺麗なるゝ勿論其の舞臺道具立萬端の行屆きたるゝ又更らに異事なり日本の書に比すれば西洋風の油繪ゝ殊に眞に迫るの摸樣あるゝ世人の知る所なるが其の油繪にて妙技を盡して描きたるもの多ければ眞

物よりも一層場合宜しく思るゝなり一寸見受る所にてゝ家屋抔の如きものゝ其の骨組は木或ゝ鐵にして其の上を切地にて張り之に油繪にて壁は壁の如く彫刻物は彫刻物の如く描きたるもの多し又た樹木抔ゝ其の幹だけは眞物を用ひ其の枝葉をば切地に描きゝを切り抜きて着たるもの多し是ゝ造作もなきことなから大に趣を添ゆるものにて粗末千萬なる造り細工の枝葉が見苦しき迄に幹にブラ下かり居る抔に比すれば寧ろ枝葉を描きたるものを切り抜きて着けある方甚だ視勝さりせるなり

道具立の變る時の仕掛ゝ色々あり或ゝ左右にキリ〳〵と開きて改むるものあり又ゝ都て空中に引揚て景色を改むるものもあり蓋し是等の仕掛ゝ其建築の大小性質にも關することなるべし

嘗て一とたび廣狹を記載するに方り彼地の大なる芝居にても其の正面の廣さゝ新富座の劇場程あるまじと記し置きしが今日より考ふれば大なる誤りにて彼地の物は何に因らぞ規摸宏大なるが故ゑ狹しと見へたるもの

も其の實ハ甚だ廣きことにて歸朝後篤と彼我の事物を考合し比較し直す時は最初の想像と相違すること少からぬ舞臺の如きも則ち其一にて少し大なる舞臺の正面の廣さハナカ〳〵新富座抔よりも適かに廣きことなるべしと思ハる眞物に違ハぬ二頭牽きの大馬車或は荷車抔がサッ〳〵と何の障りもなく舞臺を往來するを見れバ餘程廣大なるものなり

○問　彼の芝居の馬抔は如何又た其他の事にて我との異同い如何

○答　馬にても車にても通例ハ先づ眞物を用ひざることなし馬抔も定めて善く馴らしあるものと見へたり去り乍ら孰れの芝居にても舞臺に接近して見る時は其舞臺の上の穢きにハ驚きたり他の部分は先づ飾り粧ふが故に左程にもあらざれども只だ舞臺の上のみは殆んど地面同樣の有樣なり蓋し我方にてハ舞臺の上に坐ハりもなせバ晩づきもなす次第なるが爲に自から之に注意して光澤あるまでに拂拭も行屆き居る譯あれども彼方にてハ元より斯る事なきが故に斯くハ汚れ居るものなるべし然ども兎に角に他の万事に比較して其の穢なきには驚きたり

佛蘭西、伊太利、の境にて千戸ばかりの小都邑に宿せしことありしが別に知人とてもなく客窓蕭索甚だ無聊に堪へぬも折しも宿屋の主人の話に今夜ハ芝居興行あるとのことなれバ田舍芝居を一見するも面白からんとて心に輕蔑しながら其の場所にと赴きたり云ハゞ一山村にて勿論繁華の地と稱する處にもあらぬなれども尚ほ其舞臺はナカ〳〵ゑ美事なるものにして新富座抔の企て及ぶべき所に非ぬ其他の事も万端之に應じて一切整ひ居たりしに誠に案外せる程ありしが但だ田舍廻の役者のことなれバ其所作ハ感服せざること多かりしが中にも下稽古も不十分なるが故往々セリフを忘るものと見へ傍らより之を教ふる者附き添ひ居ることなり一寸正面より見たる所の舞臺框の中央の處に恰も日本にて子供を寢かすに用ふる母衣蚊帳と云へる者の如き黑く圓く西瓜を半截して伏せたる形の蒲鉾なりの物あり其高さ二尺計り廣さ三四尺も有べき乎此の蒲鉾なりの物ハ

本邦第一之演劇場不及遠彼山間僻陬之一小劇場乎實可謂痛嘆之極

見物人に向へる方ハ圓くなりて役者に面せる方ハ切り落しになり居ると見へ彼のセリフを敎ふる者ハ此の蔭より口上を述ると役者は之を口に移して舞臺にて動くなり尤も伊太利語なれバ余にハ其義ハ一々解し難かりしかども兎に角に女役者抔が何かセリフを述ぶべき順序の時に先づ例の沸鉾なりの中より低音にて物言ふ聲漏れ役者ハ之を述りて述ぶるさま頗る見苦しく覺へたり去り乍ら日本の黑坊か背後ゟ附き居るに比すれバ或は寧ろ此の方を優れりとすべき乎後ちに聞合すれバ舞臺の上に右の沸鉾なりの物あるハ佛國にてハ珍らしからぬことなりと云へり然れども倫敦抔にてハ通例の芝居にて一向見掛けざる事共なりしなり

○問　芝居筋書の譯を承りたし

○答　女優の詞を聞くよりも夫ハ太く打喜び「シテ我身ハ如何にして彼の惡貴族と相見るべき歟」と云へバ女優ハ「左れバなり櫻上にて遊闘なハなる頃に我身用事ありと伴ハり此座敷に降り來らバ彼人も亦た我身を尾い引續きて降り來るべし其の時御身は此の隣室より出來り思ふが儘になし玉へ」と云へバ夫ハ益々悦びて「左らバ何分頼み入る必らずことを誤り玉ふな」と辭を遺して名殘り惜し氣に隣りの室に入り行くアト目送て彼の女優ハ打萎れたる思入れありて暫時思案に暮るゝ休なり此の時取次の者出で來たり「貴族某々君御來遊に候」と告れバ女優ハ慌てゝ涙を拭ひ形を正して待受け居る程なく入來るハ五六人の貴公子にて孰れも伊蘭西世の支度にて劔を帶び髮を戴き膝に達する計りなる靴足袋を長く穿ち各々六七名の從者を率ひ此の席に進み入る女優ハ恭しく禮をなせバ貴公子等ハ又た之を返へし「相變わらず端麗なる御樣子を見て皆々滿足したり」と述れバ女優ハ高貴の御方々の辱けなく來遊せらるゝの幸榮を述べ此の處にて暫時ハ何くれとなく物語り居る內復た取次のもの來り「貴族某君御來遊なりと」案內すこれに連れて入來るは則ち彼の惡貴族の某ゟて其の身休ハ肥滿り其の容貌逞ましく早や見物人をして而憎く思ハしむる樣に打扮せり

文章家所謂伏案

此の貴族ハ女優に對し挨拶終り少しイヤミの口上抔ありて前の衆貴公子と茲に一座とある此時女優は來賓に向ひ「イザ二階の廣間にて御饗應仕らん」と案内すれば諸人ハ從者諸共に皆な其の地位の高下に從ひ先後の序を整へつゝ女優に引かれ二階の廣間に昇り行く

暫くして女優ハ二階より下り來り姑し此席に憩ふ内彼の惡貴族某ハ果して女優の跡を尾け又た此席に降り來りそれより女優に向て其の愛情を述る種々の仕打あり女優ハ夫ある者なればとて休よく會釋し居る時を見すましサッと扉を押し開き顯れ出しハ女優の夫「如何に貴公子ヨモヤ忘れハ仕玉ふまじ今朝衆人稠座の中にて某に對しョクも彼程迄の辱めを與へ玉ひしぞ縱へ地位ハ異るとも誰か其の面目を重んせざる者あらん思ひも掛けぬ此席にて貴殿に對面あしたりしハ天の某を惠む所是非とも貴殿に對して某の滿足を要求致さねばならぬ御覺悟あるや如何にぞ」と樣子を變へて詰め寄れば彼貴族は苦笑ひし「扨ても仰々しき其の辭若しも金錢にても所望とあらば如何程にても參らせん左樣ある讎呼ハりハ自から損害を求むる者なり料見あつて然るべし」と太と横柄にアシラへば女優の夫ハ嚇と急き立ち「如何に貴族なれバとて他人の名譽面目を傷るの自由ある可からぬ金錢抔とハ事笑し縱へ貴殿は如何樣に道辭を述べ玉ふとも此の儘にハ濟む可からぬ刀に掛けて名譽の滿足御承知あるや如何にぞ」と其の傍らに詰め寄れば身躰長大にして相貌逞ましき彼の惡貴族は小癪なる小童奴と云はぬ計の容躰にて斜めに此方を打眺め「刃に掛けて滿足とは笑止千万去り乍ら强て所望とあらバョシ〳〵拙者も承諾せんイッ何時にてもあれ汝の求に應ぬべしと」と聞くより此方ハ尙は詰寄り「イッとも云ハぬ只今此處にて」「今と云ハゞ今にも命を斷ち呉れん我等も今こそ倔强なれ」「彼方の庭こそ」「左らバ勝負の支度せよ」と兩人扉を開き外面の庭ヱ立出る

爭論之狀寫得群密如目擊耳聞

○問　其續ハ如何

此妻實可謂兼智勇矣遇生死不容髮之時抑意矯情呈笑演技不露其心裡苦惱肅然而舞秩然而趨非有智勇奚得如此邪

與源豫州妾靜御前少將相似

○答　女優ハアトを目送り乍ら此室の扉をハタリと閉ぢ夫の死生如何にぞやと憂ハ面に顯ハる、折しも樓上なる衆賓及び彼の惡貴族の從者等ハドヤ〳〵と降り來り「主の女史ハ孰れに在すぞ皆な〳〵待詫び居るものを」と其の邊に坐並びて扨も其殿にハ(惡貴族を指す)何處へ行れたるや」と云を打消し彼の女優ハ「只今用事ありとて他の室に入らせられたり最早や間もなく此室に御返りあるべしイザ何事をか樂みて今宵を過させ玉ハぎや」と云ふハ今ま扉一重を隔てたる彼方の庭にハ最愛の夫が貴族と死生の決闘若しも此場の人々に樣子をソレと知られなば必らず助太刀に赴くならん若し左もあらば多勢に無勢夫の命ハ亡きものを如何にかして此場を濁し一個と一個の決闘を首尾好く果させ終らんと心の裡の巧をば知る由もなき他の人々ハ「左らば例の如く主の女史の舞の一ト手を所望せんハ如何にぞ」と一個ゞ云へバ大勢が口を揃へて「然り〳〵之に上超す慰みなしイザ立せ玉へよ」と勸めらるゝを好きシホに女優ハッと立上り有名なる芝居中

省畧有法籤笠京傳爲讓一步

の或る一ヒ所作事を擇み或ハ歌ひ或ハ舞ふ折しも聞こゆる刃の響、聽き耳、立る此場の人々、ソレ聞のしてハ大髮と女優ハ聲を張り上けつゝ諂ひに紛らし遮れ其ァッと魂消る手負の聲「コハ何事」と立上る一座を止めて「何事にも候ハぞ先づ所作事を御覽あれ」と妙技を盡して人々を引留めんと心の憂千万無量の苦ハ知る人もあき我身ヒ上窓の外にハ夫の死生、刃の響傷手の聲、敵を打ちしか擊れしかと氣遣ふ胸を押し隱し笑ひ興ぞる所作事にて敵の從者を釣り留て夫の存意を遂げしめんと二ッに係る一ッの心乍ちにして戸外ゑ在り乍ちにして所作事に在り舞ふ手踏む足亂れんとし亂しもならぬ一呼一吸復も聞こゆる刃の響、アット叫び魂消る聲、「コハ只事に非ぞ」と在り合ふ人々身を起す「それ遣てハ」と立ち塞がり心も亂れ氣も狂亂最早や手足の定まらぬまで息も絶へ〳〵に身を撫よしつ仍はも人々を遮らんと推隔りろ折しもあれ扉を開て入來るハ其の夫にて右の手にハ劔を提げかねて決闘の式の如く上衣チョッキを脱ぎ去て白シャッ一と重に血を

帶び乍ら呼吸忙しく駈け入るを「本意を果し玉ひしか」と叫びも敢へぞ取縋る女優を右手に抱きとめ乍ら「我妻本意を果せしぞ我も重傷を負ひぬれども敵をば見事に撃ちしぞ」と云ふを聞くより此場の人々「扨ては事こそありたれ」と柄に手を掛け一同に立上る一方にて女優は「アヲ嬉や」と云ふ聲與に屠弱き女の身を以て今まで胸の苦痛をおさへ敵の從者を釣り留めんと笑ひに紛らす所作事に其腸も寸斷せしと見へ今や本意を達したる夫の顏を見るよりも其心の弛みしにや遂に夫の腕に倚れる儘悶絶して命を落すにて幕終る

惜此斷章

右の芝居は一と幕物乍ら如何にも能く仕組たるものと感心せり只だ大切なるは右の女優の役目にて夫の死生を憂へつゝ心中には保ちかぬる悲を懷き乍らも其の面には色をも見せぞ笑に紛らし面白きを感せしめ敵の從者を引留めんと心を用ふる有樣は實に見物人をして手に汗を握らしめたり其の所作事を爲す内にもアッと叫ぶ聲或は打合す劔の音の更るゝ其所作事の間に聞ゆる抔は實に見物人をして危なき心地を感せしめたりキスピーア○シルラー○ボルテール等の如き名家の作物は姑く措て論ぜず近來の作物にては蓋し斯くの如く簡單ゑして斯の如く感じ深きものは先づ余等の見物せし内には之なかりしなり有らゆる事柄を見分する爲に彼地に遊びしことなれば余等も芝居とあれば大抵見物せざりしはなき程なりしが其内にて目に留りたるは此の芝居なりき

紀事

吉田熹六

歷的濶洋の世人乃熟知せる如く風浪殊に險惡にして盛夏、風死し水眠るの時と雖も猶ほ怒濤山を崩その勢あるに況してや時正さに臘月風雪の候に際し膚を劈くの寒風は空撲つ水を激して船体の簸搖一方ならぞ秋の木の葉の風に舞ふ心地して數百名の航客概ね船暈を感せざる無し余は印度洋の海航以來中々に剛くなりたる積りにて最初は何程の事かあらんと威張り反りて甲板を散歩せしが遂に耐へ切れぞして房中へ逃げ込みたるま

激浪怒濤之狀敍得周密

、五日計りの間い起き出づる能いぞ空しく呻唸の中に日を暮したり五日目の夕方より我慢して床を離れ食卓に就きたりしが船い猶は頻頓して止まぞ食堂寥々として食卓に向ふ者甚だ少し以て其風浪の尋常あらざりしを推知す可し

一日余い朝飯を了へて喫煙室に入り倫敦婦人と題せる小説を讀み居りしが傍らに幾多の航客此處に三人彼所に五人と類を以て集りつゝ或い骨牌を鬪いして雄梟聲中頻りに輸贏を爭ふあり或い將棋を弄して運籌經營頃を疲まして交々勝敗を競ふあり酒を命ぜるもの茶を飲むもの雑談するもの喫烟するもの千差萬別思ひ〳〵に一方に割據して消遣の道を求む偶ま一人あり突然余に向ふて君い日本の貴公子ある歟と問へり余驚き怪んで其故を問へば即ち云ふ下等室に二人の日本人あり思ふに君の從者あらん富貴の人に非らざるよりい遠く從者を引連れて海外萬里の遊を試むる能いざる可しと余い其言の意外突然あるに驚き日本人い己れ一人の外他に乘組おきものをと空嘯いて取り合いざりしが餘りにヒツコク尋ぬるゆへ余い單身孤客の一揩大あり從者も無ければ朋友も無き滿船余を外にして復た一人の日本人おきに非らぞや何と間違へて左樣おことを云いるゝにや其意つや〳〵解し難しと一本參りたるに彼れ益々ヤッキとあり否とよ從者と見たるい余の誤りにもせよ日本人の君の外尚は二名の客あるい慥かあり同國人の乘組居るをも知らぞして反て余を間違あど、云いるゝこそ迂遠千萬おれ若し僞りと思いゞ請ふ試みに下等室に到り見る可し必らぞ吾が言の誤りおきを知らんと威丈け高にありて論ぜる傍いらより他の洋人等も口を添へてッハ相違おし我れも見たり我れも知れりと異口同音に唱ふるゆへ今い受太刀とおるりて聊か閉口の色あり充分にい信せざれども心中若しやと疑起り試みに實驗するに加かぞと思ひ直ちに階を下りて下等室に到り見れば折節孰れも甲板に出でゝ遊び戯れ居たりよく〳〵眼を注いで之を見れば何如にも日本人の骨格容貌に相違おき者二人を見出

せり扨ハ左樣にてありしか今まで知らで過ぎたるこそ不覺千萬なれ何處の何人かハ知らねど海外万里の航海中に偶然同鄕人に出逢ふことの喜バしさよと走り寄りて先づ一禮を施し君ハ誰殿である乎と日本語にて慇懃に問へども彼れ茫然として一言を發せず此奴失敬な男なりマサカ啞にてあるまじきにと少し腹立ちしまゝ一層聲を高ふして君ハ日本人ならずや御姓名を承ハりたしと問ひ掛けたれバ彼れ倘ほ呆氣にとられたる面色にて漸やくに語を發し英語にて私ハ貴客の言語を解することと能ハずと答へたり扨ハ日本人にてハ無かりしか大失策を爲したりと急に言葉を改め英語にて君ハ何國の人なりやと問ひしに西班人にて候と答へたり此に於て余ハ大に其無禮を悔い事の顚末を話して只管ら粗忽を詫びたれば彼れ亦た言を卑ふして禮を反し貴客のみならず是まで度々日本人と見違へられて迷惑せしことあり決して御心配にハ及バずと挨拶し互に笑ふて其場を立去りたり失望と不平との二感ハ此時余の腦髓を刺撃して止まず責めて

本邦人猶誤見況洋人乎

ハ前きの洋人をゝコヤして此腹を慰せんものと取て反して已前の洋人等に向ひ君等の言ハ皆な虛なり彼れハ日本人にハあらず西班人なり君等のお蔭で大恥を掻きたりとて散々愚痴を排べ立たれバ現在日本人のお前さへ大恥を掻く位に似て居るものを我々が見違へる無理ならずヤ咎め立てする道理やあると果てハ大笑にて其座の興を添へたり全体西班人、葡萄人等の中にハ其の容貌骨格日本人丸る出しと云ふが多く時々見違へて失策すること少なからず往來にて人の後ろ姿を見、太早計に吾が信友と見違へ突然言を掛て大赤面することあり能く似た話にて隨分問の惡るきものあり

紐育に着する二日計り前の朝なりと覺ゆ兼ねて船中にて懇意になりし一英人が余に向ふて云へらく紐育着港の日も既に間近く迫り一周日餘の久しき此船を家と爲して互に睦み合ひたる我々上等航客百五十餘人の家族ハ今ま一日二日にて散〻に訣別し再會の期も測り難き譯なれバ今夕ハ

英人未知吉田氏之非凡庸人者乎

一同懇親の宴を設けて互に名殘を惜み度く思ふなり船中の貴女紳士い皆な同意にて其議既でに定まれり足下も不同意おくべ臨席されたし尤も徒らに酒を飲み肉を食ふのみの飲食會にてい餘りに殺風景ゆへ餘興として各々得意の技藝を現いすべき約束にて或いピアノを彈ぜる貴嬢あり頌歌を謠ふ紳士あり或い滑稽の落し話を爲す人演説を試む者思ひ〳〵に役割を定めて歡樂を罄す趣向あり足下い我々に取て殊に東海萬里の珍客おれば是非席上の演説を願ひたき了簡ありコハ拙者一已の私願に非らず實に乘合一同の公望なれば何分にも受引かれたしと事をわけての示談なれども余い甚だ閉口を極めたれば御覽の如く日常の談話そら片言交りに辛ふじて其意を通ぜる位の始末あれば中々以て演説などゝい思ひもよらず其義い平らに御免を蒙むりたし席末に列せんことい素とより拙者の希ふ所なりと挨拶して立別れたりしが其日も既でに暮れ行きて午後七時と云へる豫定の時刻となりければ續々食堂に集り來りて思ひ〳〵に坐を占めた

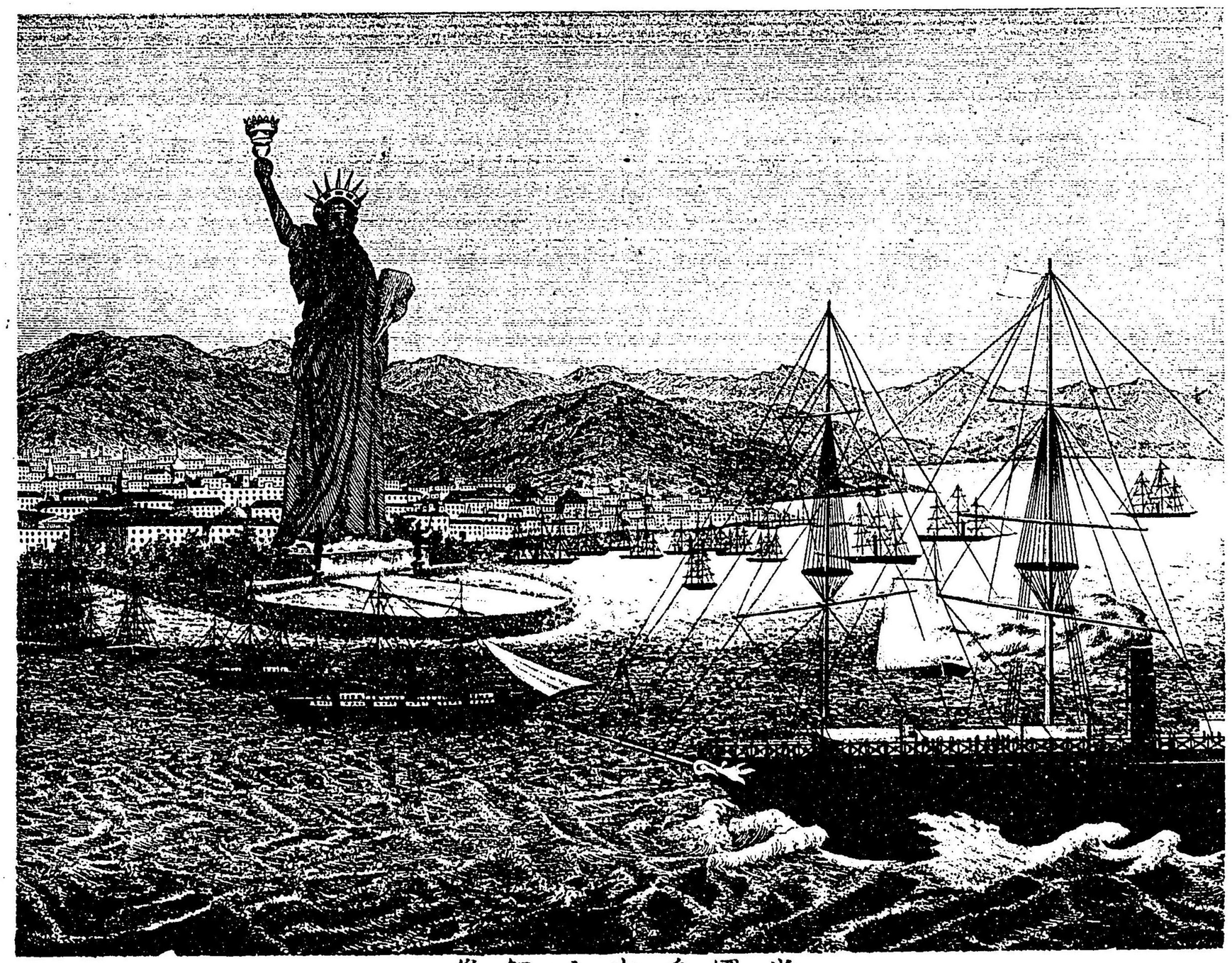
り中央にい一壇高く會頭の席を設け航客中にてい最も貴顯の地を占めたる英國海軍中將某氏一同の推薦によりて會頭席に就き手短かに本會開設の主意を述べて各々充分に快樂を盡されんことを希望する旨を語り且り豫ねて約束の如く銘々得意の藝能を試みられたし其順序姓名の加きい別紙目錄を製去置きたれば就いて一覽の勞を取られんことを希望すと説き了りて一小片紙に何か印刷せしものを配布するを見れば是れいなん豫め今夕の技藝者演説人等の順序を定め船中備置の印刷器械にて刷行せしものにて第一某女彈琴第二某氏謠歌第三何某に演説と一々其人の姓名と其試むべき事項の種類とを掲げ示したる一覽表あり余い何心なく其第一席より讀で第八に至れば何ぞ思いん第八席日本紳士吉田君の短簡演説(No. VIII. Short adress. Mr K. Yoshida. Japanese Gentle-man)の數字を見出さんとは扨てい今朝の英人めが余が謝絶するをも肯かぜして目錄の中に我が姓名を加はへたることならん、さりとてい理不盡千万の仕方ありと心中不滿に

堪へざれども今更ら彼此れ爭ふ可きにもあらぬ其期に及ば、詮術あらんと先づ默して控へ居しが第一席より段々と順を逐ひ來りて既に第七席の演說も濟みたれば會頭い起て余の姓名を呼び一坐に向て吹聽せり此時余が心中の閉口い譬ふるに物なけれど事既でに此に至て最早やゞ〳〵躊躇すべき場合に非らねば思ひ切て其席を起ち先づ一禮を施ふしたるのち會頭幷に貴女、紳士諸君、余が萬里聽零の孤客を以て圖らぬ諸君の知遇を受け今夕此の盛擧に陪して諸君の名論卓說を聞くことを得るい誠に意外の幸榮にして余の謹んで諸君に鳴謝せんと欲する所あり今朝某氏い余に告くるに今夕此盛筵に列ある可き旨を以てし且つ勸むるに演說の一事を以てしたり然れども余の英語に熟せずして日常寒暄の挨拶尙は且つ容易ならざるい諸君の現在親しく見聞して熟知さる、所あれば余い固辭して肯せざりしに今此場に臨むに及んで何ぞ思いん目錄表中余の姓名を見るあらんとい余の眩惑實に譬ふるに物なき也然れども事既に此に至る徒らに默して禮を諸君に失す可きに非らぬ是れ余が自ら揣らぬ敢て一言を發する所以なり余にして若し英、佛何れかの語學に長せんか余の此好機を幸とし我が日本の近狀に就て諸君の聽を煩いさんと欲すること甚だ多し唯だ憾むらくべ不肖にして外國の語音に嫻いぬ胸中の萬分一を漏らすこと能いざるが故ょ余い止だ下の數語を以て此席を下る可し曰く謹んで諸君の健康を祝し彼我兩國の交際益々親密にして永く各國の泰平を保持せんことを祈る

僅々數語包含幾多無限意味

と述べ了りて逃ぐるが如く其席に復したるが滿場の男女い余が向ふ見ぬの大胆あるに驚きしが將た其言語の整いざりしが可笑かりしか兎に角拍手喝采して暫しい鳴りも止まざりしが余い益々閉口して慚汗、背に滿り たり冒て倫敦滯留中誘いれて或る英人の青年同盟會に臨み演說を强請されて同一の迷惑に出逢ふたることありしが英語の達者に饒舌らる、人い反て愉快得意にも思ふ可けれ余の如き片言交りの厥驚が晴れの場處に法

法華經を歌ひされてゐ實に當惑せざるを得ぜ併し是れ亦た旅中の一興か扨て豫定の如く演說もビアノも順次滯はりなく終りを告げたれば會頭ゐ起て鄭寧に謝辭を述べ且つ一同に向ひ今夕の諸入費に充てんが爲め各々應分の義金を醵出ありたき旨を告げ直ちに給使人をして一個の丸き盆盆を捧げ片端より出金を促がし歩行かしめたり斯くある可しとゐ兼ねてより覺悟し居りたることなれば懷中より紙入れを取出し是れ丈けあらば澤山なりと英貨三志(シルリング)即ち今日の相場にして凡我九十錢計りを用意し給使の來るを待ち居しに給使先生ゐ段々と回ゐり〳〵て遂に余の前に來りたれば卒ざ喜捨せんと手を擧げあがら圖らず起て盆中を瞥見すれば何ぞ思ゐん一磅(ポンド)(即ち二十志)半磅等の英金貨ゐ二弗五弗等の米國紙幣と錯落相交ゐり一志銀貨の如きゐ其影をだに見ること能ゐざらんとゐコハ餘りの奢り樣なり畢竟洋人の瘦我慢にて負けぬ氣の贅澤より斯る法外の金錢を投じたるものならん左りとてゐ愚の至りなりと心中不滿にもあり惜くもあれ



米國自由之銅像

吉田子此行爲實不隕我同胞三千七百万之面目可謝々々

どさあがら日本國を代表するとも云ふ可き余一人が鄙吝な事して輕蔑を受くるも殘念千萬なれバと終に思ひ切りて半磅の金貸を投與せりあとにて聞けば此夜の集金高凡五十五六磅(我二百七十圓餘)に上りしと云へり此金員ハ皆な當夜の入費に充てたるものにて何人も横着をせし譯にあらざるハ云ふまでも無きことながら思ひも寄らぬ課稅なれば貧生余の如きハ一時頗るまごつきたりチヨトせし旅中一夕の談話會にも斯く奢侈を極むる習慣なれバ浮かと上流社會の交際仲間にハ這入れぬ譯なり是れ併しながら積んで能く散じ勞して能く樂む歐人固有の氣象にて東洋風の驕奢遊逸とハ同日の話に非ず右了りて孰れも卓に就き交も杯をかハして更闌くるまで笑ひさゞめき興じたり

二十日の曉にハ米陸の山影、漸やく眸底に入り來り烟靄糢糊の間、微かに扇顔の笑めるがごときを見認めたれば船中一同喜び合ふて知るも知らぬも言葉を懸けて互に無事着を祝し合ひ往時閣龍が始めて米の陸影を認め

たるも斯くやと思へる心地して愉快の情面に溢れて見へたり僅か十日間の航海なれど去る十一日出帆以來到着の今日に至るまで一日として風恬浪靜の天氣ハなく始終荒れ詰め搖り續きの中に苦められたることなれバ斯く一同の喜び一方ならざりしも理いりなり船漸く進んで陸影漸く深ぶに隨ひ宏大なる樓閣の尖頂などもおひ〳〵眼底に印し來るに及び首を擧げて前面を眺むれば屹然たる巨像の高く雲を凌いで矗立せるあり是れ卽ち近日佛國人民より米國へ寄贈せし有名なる自由の銅像にしてベドロース島の岬頭に建てたるものなり其高さ無慮十五丈一尺あり像の全体ハ女神の形に摸し右手にハ巨大なる電氣燈器を捧げ一たび火を點ずれバ光明萬里を輝らすと云ふ所謂る世界を照らす自由の光輝にして米人の最も得意を鳴らす所なり近時米國人民ハ何事にも世界第一と云へる肩書を得んと を熱望し種々工夫を凝らして宏大異常の事を企て往々天下の耳目を聳動せり此大像も卽ち世界第一の一つにして假令ひ米人自ら建設せし者にハ

非らざるも既でに贈られて其有に歸する以上ハ則ち米國偉觀中の一なること勿論あり此像ハ極近時の設立に係り矢野森田兩兄の此地に立寄りたる頃ハまだ工事最中にて兩兄も目擊せざりしことなれば余ハ紐育滞在中是非ベドロース島に渡り親しく就いて其の模樣を一見せばやと心懸け居たりしが生憎く連日風雪の爲めに阻せられ遂に造り觀ることを得ざりしハ甚た遺憾に思ふ所なり併し滊船ハ間近く其前面咫尺の間を通過するがゆへ細かに像身を視察することを得たり此像の事に就てハ曩に本紙の雜報中に詳記せしことありと覺ゆれば繁を厭ふて今ま復た追記の勞を取らぜ兎角するうち船ハ既に紐育港内に入り其會社持ちの停繫場に止りたれば乘客先を爭ふて船を下れり此際の雜沓喧嘩ハ實ま非常にて余の如き一人旅にハ隨分煩勞を與へたり余ハ荷物の檢査もことなく濟み直ちに馬車を僦ふて領事館、正金銀行支店等に抵り暫時談話の後ち去りてウエストミンスター旅館ま投ぜとき正さに午後五時斜陽漸く殘光を收めて暮色蒼

然たるの頃なりき

前にも記せし通り余が今回の歸途に一日片時も迅速を要する場合ゆへ紐育にに僅か一夜の滯留にて直ちに桑港へ向け出發の心算なりしが歴的瀾洋の航海にて非常に苦しめられたる爲めにや身心何となく快からぎ加ふるに俄かに非常の寒氣に觸れたるより忽ち邪熱に冒され心氣頗る懊惱を感じたれど此分にて迚も即時に發轫すること能はじと思案の折柄在紐育の人々に懇ろに余に勸むるに諸處游觀の事を以てし先般矢野君の一行も折角此地を過ぎりながら滯留周に滿ぎして匆々に去られたるに甚だ遺憾に思ふ所なれば願くば二三周間を此地に費して商工業上の視察を兼ね彼地此處、見物せられなば宜だに貴社の爲めに便益少からざるのみならぎ我々も亦た大に滿足する所なり紐育にも觀察游覽するに足るもの多し歐洲を見たれば米國にぞふでもよしと云はぬ計りに冷視さるゝ頗る不平を存ぎる所なりと諷刺勸告取り交せて頻りに滯遊を勸むる

邪熱之障害反得遊覽之快樂

言の最と親切にして且り理はりに聞ゆれば彼此の事情を慮かり終に忍を決して此地に越年と覺悟を定め其趣を本社へ通じて暫く御興を据ゆることゝはなりぬ因て紐育滯留中に目擊耳聞せし事柄のうち記するに足る可きもの數項を左に掲ぐ讀者若し西洋風俗記中の一部として一讀せば則ち可なり

下宿屋

既でに十日以上の滯遊と決心したる以上はペン〳〵とホテルに逗留して毎日代枚四弗、五弗の旅籠料を拂ふは不經濟不得策の甚しき譯なれば早速相當の下宿屋に投ぎるこそ肝要なれと人にも頼み自身にも奔走して探し歩行きたれど何分二周間や三周間の短き下宿は面倒なるゆへにや言を左右に托して承諾せぎ甚だ當惑を極めたりしが幸に一軒あり是れまで絶へぎ日本人が止宿して主婦は能く日本人の性質習慣をも承知し居る由なれば コは屈竟なりと早速に面談を試みたれば快く承諾して何時にても差

支なしとの返答ゆゑ即日（到着の三日目）ホテルを引上げ直に此家へ轉宿せり爾來此下宿の体裁と各所に散居する友人の止宿せる下宿屋の模樣とを對照し且つ永く此地に滯留せる人々に就いて聞合せたる廉々に據りて粗ぼ當府下宿屋の狀況を窺知そるを得たり大体の上より云へば巴里倫敦と大差なきに似たれど細かに穿てゞ隘分相違の廉なきにもあちそ尤も下宿にも樣々ありて廉なるゝ一周間四五弗より不廉なるゝ三四十弗にも及ぶをもて其取扱の模樣家内の休裁等に至ても夫れ相應の區別段階ありて一概に論そ可らざるゝ勿論のことながら概して云ゝど諸物貨の不廉なるとゝもに下宿料も巴里倫敦等よりゝ遙かに不廉なり朝夕の食物も直段によりて相違ゝあれど矢張り概して粗惡なるに似たり且つ紐育に到着以來毎に余をして困却を感せしめたるものゝホテルにても下宿屋にても靴を磨き呉れぬ一事なり巴里倫敦などにてゝ何如なる安泊り安下宿にても客人の靴ゝ毎朝必らず奇麗に磨くを以て例とせり余ゝ最初矢張りその積りにて寢に就く前靴を戸外に直し置きしことと屢々なるも朝起てこれを見れゞ依然たる宵の汚れ靴ゆへ詮方なく出でゝ街頭の靴磨きに掃除せしめざるを得そ毎朝チャンと磨いて置いて呉れると一々自身が街頭に出でゝ靴磨きに磨かせるとゝ其便不便の差一方ならそ隨分五月蠅さ次第なれば大抵ゝ我慢して汚れたまゝに穿ち勝ちになるが人情ゆゑ往來の男女が爪先を見れゞ何れも汚靴を穿ちて行き通へり之を巴里倫敦等の男女が鳥の羽を欺き漆違なりと云ふ可し

佛、曼、英等歐洲の國々にてゝ一般人民常に酒を嗜み朝飯を除くの外ゝ大抵卓上にビール、クラレット、セリー等諸酒の上らざるゝ無し殊に麥酒のごときゝ價廉にして量多く何人の口にも容易く上ぼり得可きを以て人々毎ねに水の代りとして之を用ゆるほどなり故に酒ゝ甚だ自由にて全くの下戸連ゝイザ知らそ少しく酒を嗜める者ゝ取りてゝ誠に愉快便利を極むる譯なり余ゝ元來、百川を吸ふの豪にゝ非ふざるも亦た三蕉に耐へざる

の量にも非らぬ何れと云へど先づ上戸籍に列する方ゆへ斯く自在に斯く廉價に瓶を傾け得らるゝ何よりの都合にて下宿に居てもホテルに泊うても友人を訪ふても散歩をしても渴を覺ゆれば卽ち此靈水で喉を濕はすを常とせり然るに紐育に着以來、ホテル及び割烹店等の有樣を見れば男女に限らぬ杯を手にする者甚だ稀れにして皆な茶、珈琲を用ひ居れりホテル、割烹店すら既に斯の如くなれば況して一般下宿屋の如きに尙は更ら酒の緣薄く水と茶と、珈琲にて持ち切りの有樣なれば余に甚だ寂寥を感じたり左りとて米人に限り酒を嗜まぬと云ふにに非らぬ年々米國にて製造する酒類及び歐洲大陸各地より輸入そる數量の統計を見れば實に驚く可き高に上ぼれるのみならぬ各町到る所、居酒屋を見ざるになき程なるに何故斯く一方にに酒嫌ひの風習あるにや頗る解し難き理屈のやうなれど少しく熟思それべ直ちに其原因を發見す可し元來歐米人に一休に表面の休裁を飾り上部の行儀を嚴重ゆすること東洋人の比に非らぬ屋漏に

其失望可想

に隨分愧づ可き醜態あるも外部にに燦然たる錦玉の面を覆ふて品行端正なる士君子の品格を失にぬことに注意するが中に取り分け米人に此風、盛んにして休裁を飾ること一層甚しければ成る可き丈け人前を取繕ふ傾あり現に余が滯在中或る雜誌に米國の婦人中喫烟を好む者多く堂々たる貴婦淑女にして密かに一室に閉ぢ籠りスパ〳〵烟を吹かしシガレットを吸ふもの甚だ少からざる旨を記載するを見たり飲酒も之と同樣にて米國にてに從來禁酒、節酒等の論を唱ふるもの多く酒を嗜む者に常に社會の擯斥を蒙むり聖典の敎に戻る者として蔑如さるゝ風儀なるゆへ婦女子に云ふまでもなく男子たりとも公然、杯を傾け酒樓に入る者少なく渴を忍んで殊勝氣に人前を取繕ふが故に斯く歐洲に比すれば一般に酒の勢力薄くして茶、水の跂扈を極むる所以なり然れども一たび其裏面を窺ひ去れば戸棚の片隅にに始終、酒を絕たぬブランデーはウイスキーと並び立ち葡萄酒に利休酒と隣り坐しビーアの口を揃へて門番するあればボルー、ウィ

ンの頭を排らべて行列するあり一室人無く晝靜かなる時に當りてハ家族交も杯を引いて咽を鳴らす素とより男女に論なき也是れ元と一般の風俗にして特に下宿屋に限りし譯にハあらざれど余がいつも不平を感じたるハ下宿屋の食事時よ在りたるをもて序でながらに此條下に附記せり是れ亦た米國風俗の歐洲諸國に異なるもの丶一なり

表裏懸絶實可驚

余が止宿せし下宿屋にハ日本人三人獨逸人一人米人一人女學校の女教師一人と主婦及ひ娘を合せ凡そ七八人の男女相混じて食卓に就く事なり主婦ハ六十有餘の老婆にて隨分小六かしき婆樣ある上同宿の洋人ハ何れも上等社會の人物ならねば其擧止言語も素より士君子、貴女たるの品格ある者に非らぜ余等に對する擧動の折節不敬に流るゝことあるより余ハ勿論他の人々も時々不快を感じて互に其無禮を憤り合ひ居る折柄忽ち一珍事出來せり或る日の朝いつもの如く食事を報ぜる號鐘響きしゆへ余ハ匆皇階を下り將さよ食堂に入らんと欲する際丁度新聞紙の配達に會ふたれば其まゝ手に携へて食堂に入れり食事の間だ〳〵に一坐の男女絶へぜ言葉を交ハして雜談嬉笑するハ彼地一般の風俗にて之れを以て交際上世辭愛嬌の一つと爲せることゆへ彼等ハ色々な話端を啓いて彼れ一句此れ一句、面白ろそうに談笑し居れど余ハ少しも面白味を感せぜ能くクダラヌ事を繰返して話の種とするもの哉と心に冷笑しつゝ退屈のあまり携へ來りし新紙を披いて一再讀過せり扨て食事も了て余ハ少しく用のあるはゝお先へ失禮と會釋して自分の部屋へ入り來りしが間もなく他の日本人も上り來りて余が室に集りて云ふやふ今ま君が食堂を去りたる後、洋人等頻りに君が食事中に新聞を讀みしハ不敬の擧動なりとて非難し居たり些細の事にまで喙を容れて彼れ此と評論するハ彼等の常併なれば御參考までに申上置くとの心注け故サレバなり余も其失禮を知らざるにハ非らぜ然れども彼等が平生我々に對する言語擧動ハ果して禮儀を失し居らざる乎彼等の擧動に比すれバ新聞位ハ何でもなし己れ先づ修りて而後人を責むること

彼以無禮對我々亦以無禮應彼待彼之誹譏而試一擊可謂奇策矣

彼果陷謀

是則試一擊者

そ可けれ己れゝ始終野鄙賤陋の言語擧動を以て人に對し乍ら嗚呼ケましく他人の小事を咎め立てするこそ心得ぬ畢竟日本人と侮りての傲言なり其儀ならば此方にも心得あり御心添の段ゝ千万辱しと答へ置き其夜晩餐の卓に向ひし時余ゝ突然席を起ち威儀を正して恭しく滿坐に向ひ拙者ゝ此度初めて米國へ參りし者なり英佛諸國にゝ春來暫く滯遊して粗ぼ其地の風俗習慣を承知致したれど當國の事情にゝ甚だ暗し定めて食事中にも諸君に向て間々失禮の言語擧動ある可し然れども是れ元と有心故造の惡意より出づるに非らず全く事情を知らざるに坐するの罪なれば其邊ゝ枉げて海容ありたく且つ若し拙者の言語擧動にして不敬に渉る廉あらば事大小となく公けに訓戒忠告されんことを望む必らず謹で其教に從ふ可し但だ後へに議し密かに誹るが如きゑ至てゝ啻だゑ拙者の取らざる所なるのみならず亦た堂々たる紳士貴女の品格ゑも關する譯と存ずるゆりと述べ了て席に就きたれば一同呆氣に取られたる面色にて座中甚だしちけて見へたりしが此より後ゝ流石に氣耻しくや思ひけん彼等の待遇全く一變し交も機嫌を取りて俄かに敬禮の意を表するに至りしも可笑し何分黑髪黃顏の東洋人と見れば直ちに未開の人民なりと賤視し萬事に輕侮の痕を顯ゝすゝ海外を旅せし者の等しく熟知する所にして此方に温順にすればする程、蔑意を生ずるゝ彼地中等以下人民の免かれ難き所なれば旅中及び下宿屋などにてゝ温順中に威嚴を保ち折節ゝ無遠慮ゑ攻擊を試むるも宜しと存ず

高架鐵道

米國ゝ近時草創の新興國ゑして百事、歐洲諸國の如く秩序正しく整頓ゝせざれども廣茫たる天然の沃土と燦爛たる自由の薰風とゝ忽ち其國の富强を促がし建國僅かに百有餘年の幼齡にして既に世界を睥睨し眼中殆んど人なき勢なれば百般の事業も常に壯大新奇を競ひ諸種の發明工夫日に月に隆起するゝ天下の共に驚嘆して措かざる所なり左れば歐洲諸國に於て

米國文明日進之狀繁有光

ハ未だ曾て聞見し得ざる處のものにして米國特り之れあるの事物少からぞ今ま此に記述せんと欲する高架鐵道の如きも亦た其一ょ居るものなり

啻だに歐洲に其類なきのみならぞ米國にても紐育府を除くの外未だ其設立を見ぞと云へり此高架鐵道と倫敦の地下鐵道とハ併び稱して世界の一大奇工事とも云ふべき歟彼れハ地底を潛るの鼠の如く此れハ天上を飛ぶの鵬に似たり其趣ハ異なりと雖も文明の奇工たるに至てハ則ち一也思ふに今後文化益々進み厚生利用の道愈よ開くるょ至らば草澤山林用ひ盡して車を行るの餘地なく終に到る所煤炭、空中に燃へ車轍、地底に轟くに至るや必せり然らば則ち今日の奇とし妙とする所ろも幾べくならぞして不奇不妙の觀を爲すに至らん嗚呼文明の流潮も亦た盛なりと云ふ可し今ま余ハ讀者の爲めに此鐵道の摸樣一斑を叙述す可し鐵道流行の今日にハ適當の話柄ならん

扨そ新たに一事業を起さんとするに方りてハ其事の目新らしきと異常なるとに依り往々世俗の非難を被むり種々の困難障碍に出逢ふことは古今一轍の常態なるが此高架鐵道の如きも其草創の始に當りてハ攻擊百出、排斥の聲四もに起りて容易に實施さる可くも見へざりしが首唱者は毫も屈撓の色なく百方經營して終に土工に着手せしが爾來實際の運轉を試むるに及んでハ啻だに一人の不平を唱ふる者なきのみならぞ皆な翕然として贊成の意を表し前きの排斥の聲ハ忽ち變じて稱嘆の音と化するに至れり是を以て創設以來僅々の年處を經るに過ぎぞと雖も其之が爲めに紐育府民の幸福利便を進め紐育府内の繁華隆盛を加へたること甚だ著大なるものあり實利の著大なる斯くの如きあるに止らぞ其空中に横架せる彩虹と天上を飛行する大鵬とハ實に紐育府の壯觀を加ふるものにして流石が文明國の大都たるに負かざる心地せらる扨て此高架鐵道ハ日今四線路に分派して普く全府に貫通し停車場ハ短きハ二三丁長きも十丁内外の處に排置しあるを以て甚だ乘り下りに便なり停車場ハ道の兩側に設けあり

着眼異其處是所以排擊之起

所謂大鵬之心燕雀未知者

て一ハ上り車一ハ下り車の停車場とす構造ハ頗る簡易質素を旨とし絶へて華美に流れざと雖も待合室、喫烟室等凡べて必要の事物にハ欠ぐ所なきを以て決して不便を感ぜざ乗客の乗り下り亦た甚だ簡易都雅にして毫も喧囂雑沓の憂なし乗客ハ先づ切手賣捌所に於て切手を買ひ之を傍らに備へある硝子張りの小さき箱の中へ投じ去るなり此箱ヨハ一人の番人附添ひ居て乗客の切手を投入そるを監視居れり乗車賃ハ遠近の別なく通じて一人五錢を定則とす故に切手の文面、恰好、色合皆な一様にして區別あるなく乗客ハ一たび此切手を買て箱中に投じ去れば何れの停車場に下りるも勝手次第なり鐵道馬車、乗合馬車の如きも其車賃ハ遠近を論せざ一人五錢の定めなれば馬車よりハ瀬車を撰ぶ人多ゆ其遠方に往來する人ハ云ふまでもなくチョト近處へ用足しに出るにも此瀬車に乗りて往來そるゆへ乗客ハ常ねに込み合ひ押し合ひ始終車内に立ち詰めにさるヨ事珍らしからぜ雨降りなどにハ隨分困却すること多し列車の駛行せる鐵路の高さハ今ま僅かに覺へ居らざれども大抵通常家屋の二階三階の間と平行する位の所に在り思ふに少なくとも六七間はある可く思ハる鐵路の下ハ馬車も走り荷車も挽き人も歩行き居る尋常の往來なり鐵路ハ近年の創設に係り家屋稠密の間を縱横ヨ縫ふて四方に通ぜるものなるゆ故ヨ迂回屈曲の場處甚だ多く蜿蜒として長蛇の谿谷を行くに似たり一屈一曲頗る急にして一見すれバ實に危險なるが如くなれども此鐵路の構造ハ至極堅固にして車軌と車軌との間に横架せし鐵棒の上に少し突出したる堅材ありて車道を挾み居れバ萬一車軸の破損することあるも列車ハ此堅材に支持せられ決して頗墜の危險あるなし其他車の停車場に停まる工合と云ひ車掌の乗客に對する鹽梅と云ひ共に都合よく整ひ居て一點の間然す可きなし

便利不及筆舌

要そるに人手を省き時間を節して金儲けに勉強する米人の性質ハ此鐵道の仕組の上ヨも現れて頗母しくもあり羨しくもありと申すの外なし

新聞紙ハ文明の利器にして、社會改進の指南車たり政治法律之れに依りて改良し學問究理之れを以て誘發す其他貿易殖産に道德風俗に皆な新聞紙の力を藉りて鼓舞奬勵せざる無し是れ余が新聞記者たるのゆへを以て漫に手前味噌の自讃自贊論を唱ふる譯にハ非らず實に世界の公論にして復た一人の之が異議を挾むものあるを聞かず左れバ凡そ一國文明進歩の程度如何を知らんと欲せハ須らく先づ其國發行の新聞紙數と其の發賣高とを檢すへしと云へる金言ハ古來歐米學者の間に行ハれて其紙數及び賣れ高ハ恰かも文明の進度を測量するの度衡とハなれり從來日本より海外に旅せし人々の中にハ隨分心を彼國新聞紙の狀勢に留めて細かに觀察を下だしたる者も多かる可きが矢野、森田兩兄及び余の如きハ所謂る商賣柄の當局者にして其身現に新聞の業務に從事する者なれば其注意觀察の綿密なることハ素より他の無線局外の人が他事を觀察する傍ら匆々一般を視察せしものとハ日を同ふして語る可きに非らず或ハ屢々彼地新聞記者に面會し或ハ時々編輯印刷の模樣を目擊する等我々の事業に取りて必要の實地調査ハ可なりに行届き居る積り也然れども今ま巨細ゑ實際見聞のケ條を列擧して一々之を説明せんことハ事頗る煩冗に失するの恐れあるを以て今ま其詳に及ばず此にハ唯だ彼國一般新聞社會の狀情に就いて其有樣の概畧を記するに止めんと欲そるのみ

今ま若し歐州諸國の新聞紙が如何なる權勢威力を有し何如に社會に普及せる乎を明示せバ冷淡なる日本の讀者ハ啻だに吾言を信ぜざるのみならず徒らに一片皇張誇大の言として顧みざるに至らん新聞遞送の爲めに毎朝各地に向ふて特に別仕立の瀛車を差立て數輛の列車悉く各種新聞紙を以て充たすと云ハゞ世人ハ必らず驚き怪んでマサカに左程までハと疑ふあらんが是れ僞わり飾りなき正直の話なり又た市内各賣捌所へ新聞配布の爲め各社より特別に仕立たる馬車の路繹として馳せ違ふなどハハ思ひも寄らぬ事なる可し、日夜五六分置きに東西南北に飛行する各瀛車中に

吉田氏之言而果不虛事世間不驚者能幾人乎有

が上中下等の差別なく老人も婦人も貴きも賤きも殆んど一人の新聞紙を手にせざるが無く言ひ合せたやうに默讀するも奇なり日本にて偶ま讀書好きの人が寸陰を惜んで滊車人力車等の中にて新聞若くは書籍を繙くを見て讀書の時間位い家に在りて充分なる可きに左りとは生意氣な男なり驚き入た外飾家なりと惡口しながら己れは徒だ茫然として無聊に苦みつゝ不行儀にも欠伸の中に可惜ら千金の光陰を空過するを得意顏なる社會に生息する人々に見せしめなば必らず喫驚仰天して歐米人民は悉く生意氣千万の外飾家なりと思ふ可し時是れ黃金の確言を守りて四六時中營々として職務に勉强し僅かゝ寸陰を偸んで知識聞見を廣くし一身一家の富を培養して國家富强の果を結べんと心懸る人民が果して生意氣千万ならべ余は謹で日本人民の悉く相率ゐて速かに生意氣の仲間に加はらんことを希望して止まざるものなり

新聞紙の勢力既に此の如く强大に新聞紙の賞れ高彼れの如く夥多なる割合に記者の權勢亦た非常ゝして古來英國に男子生れて大宰相とならぬんば宜しくタイムス新聞記者と爲るべしと云へる諺のあるを見ては其勢力の强盛なる程を推知すべし然れども其强盛も徒らに强盛なるには非らず記者の人品學識と云ひ議論の精確公明と云ひ共に强盛なるの實ありて而して强盛なるなり其筆鋒の鋭利あるは百万の甲兵にも過べく其議論の公明なるは日月と光を爭ふに足る可し但だ時に黨派心を挿んで言偏僻に陷るの弊あるを憾みとす爲す耳試みに著名の新聞の主筆記者に就て親しく其面容に接し其議論を聽けば實に堂々たる一代の政治家にして一國の大臣宰相と爲すとも毫も耻かしからざる人物なり米國大統領撰擧の際往々其候補者の新聞記者中より現はれ出で、鹿を中原に爭ふに至るも亦た決して偶然に非ざるなり

想吉田矢野森田三氏亦當與彼英米新聞記者相伯仲唯恨我人民未如彼

グラント將軍の墓

南北戰爭以來其名を天下に轟かしたる米國の一豪傑にして殊に我が日本

に〻最とも親愛の友誼を表されたる名士グランド將軍〻世人も知る如く一昨千八百八十五年の夏を以て溘焉逝去せり當時米國人民の慟哭〻云ぬも更らなり我が日本の國民も亦た擧て一朝此の敬愛す可き英雄を失ふたるを悲悼そるに至れり左れば恩を思ひ德を慕ふの米國人民〻爾來頻りに奔走して資金を集め或〻墓碑を建て或〻紀念標を設けんと共計畫一方ならぬ亦た以て將軍生前の功德と米民義俠の精神とを見るに足る可し余の

義氣可感

將軍を敬慕するや久し不幸にして生前一たび儀容を仰ぐの機を得ず空しく幽冥を隔て〻不遇を訴ふるの人となれり憾み何ぞ云ふ可けん今ま圖らぬも將軍桑梓の地を過ぎりて轉た感懷に堪へざるものあり責めて〻其墳墓に詣で〻英魂に接せんものをと思ひ立ち友人駒田氏に案内を頼み第十四街の停車場より例の高架鐵道に駕して行くこと里餘七十五街の停車場に下り左曲して復た行く十數町にして達せり墓〻沿河苑（リバー、サイド、パーク）の最高處クラレモントと稱ふる阜頭に在り前〻有名なるハドソン河の洪流を隔て〻遙かに大陸の風色に對し後へ〻一帶の曠野を控へて近く繁育の烟火を望む樹木扶疎、岡巒起伏、瀟條たる狀景忽ち塵襟を洗ふて仙境に入るの想あり漸く墓前に近いて前面を仰視すれば十三星の國旗〻翩翩として寒風に颯り參詣の老弱より捧げたる朶花〻雲を作して柵前に堆し門外に〻正服凜々しく短銃を脇挾んで非常を戒むる警護の査官兩名あり余等〻卽ち就いて丞しく禮を施し將軍の墓に謁せんことを請ふ警吏〻直ちに諾して之を誘き墓前に抵る余〻脱帽跪坐默然たること良久し墓の全体〻其規模意外に大ならず間口二間奥行三四間に過ぎざる圓棟平矮の赤煉瓦造りにして思ふたよりも無造作なり併しながら是れ畢竟其墳墓を丸出しに露出したるに因るものにて往く〳〵宏大の靈廟を建て〻之を覆ふに至らば必ず壯觀目を驚かすに至る可し此日〻朝來雪催ひにて彤雲厚く掩ひ朔風凜烈として寒威堪へ難きにも拘はらず遠近より馬に鞭ち車を驅りて詣で來れる貴賤男女少からず門前爲めに雜沓す嗚呼丈夫生れて

得氏之霊英魂常瞑於地下

此に至る死すと雖も何をか憾まん將軍の英魂亦た下地に瞑するにたらんか猶は墓前を徘徊すること多時ハドソン河畔の風光を弄しつゝ漫歩堤に沿ふて紐育の寓に歸りしい斜陽漸く殘光を收めて暮色蒼然たるの頃なりき

實地遊覽 西洋風俗記終

明治二十年四月一日版權免許

同　年四月廿日出版

定價九拾錢

兵庫縣平民
編輯兼出版人　廣瀨茂一
大阪府西區立賣堀北通一丁目二十二番地寄留

大阪心齋橋通順慶町三丁目
發兌　兎屋支店
東京南鍋町一丁目七番地
大賣捌　兎屋本店
京都寺町通松原下ル
改進堂

29
1
168